

上滝新堀北遺跡

—認定こども園建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2020

磯部 光男








高崎市教育委員会

株式会社 測研

例 言

- ・本書は、認定こども園建設に伴い事前調査された上滝新堀北遺跡（高崎市遺跡番号 791）の発掘調査報告書である。
- ・本遺跡は、群馬県高崎市上滝町字新堀北 617 番地 1、617 番地 2 に所在する。
- ・発掘調査及び整理等作業は、高崎市教育委員会の指導・監督の下に、委託者と委託契約を締結した株式会社測研が実施した。
- ・発掘調査から整理等作業を経て本書刊行に至る経費は、委託者である磯部光男氏に負担して頂いた。
- ・発掘調査の体制は下記のとおりである。
高崎市教育委員会 矢島 浩
株式会社測研 高林 真人 和田 祐作
- ・発掘調査期間は令和 2 年 1 月 27 日～令和 2 年 3 月 31 日、整理等作業期間は令和 2 年 4 月 1 日～令和 2 年 7 月 22 日である。
- ・本書の執筆は、第 1 章を高崎市教育委員会文化財保護課、第 2 章～第 4 章を高林が行い、編集は高林が行なった。
- ・出土した遺物及び各種原図・写真などの記録類は高崎市教育委員会が保管している。
- ・本遺跡の発掘調査および報告書刊行にあたって、下記の方々・機関から御指導・ご協力を賜った。ここに記して御礼申し上げます。（順不同・敬称略）
社会福祉法人 愛善会 瑞穂建設株式会社 石井 克己

凡 例

- ・遺構番号は、原則として発掘調査時に付したものを使用している。
- ・遺構挿図中に使用した座標値は世界測地系によるものであり、方位記号は座標北を示している。
- ・セクション図に付した数値（L＝）は、標高を表す。
- ・土層注記及び遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局 財団法人日本色彩研究所監修 『新版標準土色帖（1998 年版）』を使用した。
- ・遺構には次の略号を使用した。
S I＝竪穴建物跡 S D＝溝跡 S K＝土坑 井戸跡＝S E P＝ピット（小穴） p＝竪穴建物跡ピット
- ・本報告書では、次の火山噴出物の略号を使用した。
As-B＝浅間 B テフラ Hr-FP＝榛名 - ニッ岳伊香保テフラ Hr-FA＝榛名 - ニッ岳渋川テフラ
- ・遺構の実測図は、調査区全体図を 1/150、竪穴建物跡の平面・断面図を 1/60、溝跡の平面図を 1/80、断面図を 1/40、土坑・井戸跡の平面・断面図を 1/60、ピットの平面図を 1/100、断面図を 1/40 で掲載した。
- ・遺物の実測図は、土器は 1/4 を原則とし、銅製銭貨を 1/1 で、青銅製丸軋・鉄製品を 1/2 で、石製品を 1/2・1/3・1/4 で掲載した。
- ・遺物実測図の割れ口は、輪積み・積み上げ部分で割れていると判断したものは実線で表している。
- ・遺物写真は実測図とほぼ同寸となるように掲載した。
- ・出土した遺物の注記は、遺跡番号（791）・遺構名・出土層位などを記入した。
- ・本報告書で使用した地図は下記のとおりである。
◎国土地理院 地形図「前橋」・「高崎」 1/25,000 ◎高崎市都市計画基本図 1/2,500
- ・遺物実測図に使用したトーンは以下のとおりである。
釉薬範囲  灰釉陶器断面  還元焰須恵器断面  黒色処理  漆 
炭化物  すり面 

目次

例言・凡例・目次

第1章	調査に至る経緯	1
第2章	遺跡の位置と環境	1
第1節	遺跡の位置と周辺の地形	1
第2節	周辺の遺跡	1
第3章	調査方法と調査の経過	3
第1節	調査方法	3
第2節	調査の経過	4
第4章	確認された遺構と遺物	4
第1節	遺構の分布と基本土層	4
第2節	竪穴建物跡	4
第3節	溝跡	14
第4節	土坑	25
第5節	井戸跡	46
第6節	ピット	47
第7節	遺構外出土遺物	49
第8節	まとめ	50

挿図目次

第1図	遺跡位置図・上滝新堀北遺跡調査点地位位置図（1/25,000・1/2,500）	2
第2図	調査点地全体図・基本土層図	5
第3図	1号～3号・7号竪穴建物跡平面図・断面図①	6
第4図	1号～3号・7号竪穴建物跡断面図②	7
第5図	1号～3号・7号竪穴建物跡遺物出土状況図	8
第6図	1号竪穴建物跡出土遺物実測図	9
第7図	2号竪穴建物跡出土遺物実測図	9
第8図	3号竪穴建物跡出土遺物実測図	9
第9図	7号竪穴建物跡出土遺物実測図	10
第10図	4号・6号竪穴建物跡平面図・断面図	11
第11図	4号・6号竪穴建物跡遺物出土状況図	12
第12図	4号竪穴建物跡出土遺物実測図	12
第13図	6号竪穴建物跡出土遺物実測図	13
第14図	5号竪穴建物跡平面図・断面図	14
第15図	5号竪穴建物跡遺物出土状況図・出土遺物実測図	14
第16図	1号～3号・9号溝跡平面図・断面図、3号溝跡礫・遺物出土状況図	15
第17図	2号・3号・9号溝跡出土遺物実測図	16
第18図	4号溝跡平面図・断面図・エレベーション図	17
第19図	4号溝跡出土遺物実測図	18

第20図	5号～7号溝跡平面図・断面図	19
第21図	5号～7号溝跡出土遺物実測図	19
第22図	8号溝跡平面図・断面図①	20
第23図	8号溝跡断面図②	21
第24図	8号溝跡遺物出土状況図	22
第25図	8号溝跡出土遺物実測図①	23
第26図	8号溝跡出土遺物実測図②	24
第27図	1号～3号土坑平面図・断面図、3号土坑馬骨・遺物出土状況図	26
第28図	4号～23号・35号・36号・48号～50号・61号土坑平面図・断面図①	28
第29図	4号～23号・35号・36号・48号～50号・61号土坑断面図②	29
第30図	24号～34号・37号～47号・51号～58号・62号土坑平面図	32
第31図	24号～34号・37号～40号土坑、22号・24号・25号・28号～33号ピット断面図	33
第32図	41号～47号・51号～58号・62号土坑断面図	34
第33図	1号～3号・8号・9号・11号・12号・19号・21号～24号土坑出土遺物実測図	37
第34図	22号～25号・27号・29号～33号・42号・43号土坑、24号・38号・42号ピット 遺物出土状況図	40
第35図	25号・27号・29号～34号・37号土坑出土遺物実測図	41
第36図	59号・60号土坑平面図・断面図、59号土坑遺物出土状況図	43
第37図	42号～44号・56号・58号～60号・62号土坑出土遺物実測図	43
第38図	1号・2号井戸跡平面図・断面図	47
第39図	2号井戸跡出土遺物実測図	47
第40図	ピット平面図、38号・46号ピット断面図	48
第41図	15号・24号・38号・42号ピット出土遺物実測図	49
第42図	遺構外出土遺物実測図	49

表目次

第1表	ピット計測表	49
第2表	出土土器観察表	52
第3表	出土金属製品観察表	58
第4表	出土石製品観察表	58

写真図版目次

- 図版 1 調査地点遠景 南東から
調査地点全景 上が北
- 図版 2 SI 1 遺物出土状況 UP 北から
SI 1 全景 西から
SI 2 遺物出土状況 UP 西から
SI 2 全景 西から
SI 3 遺物出土状況 南東から
SI 3 全景 西から
SI 4 遺物出土状況 南から
SI 4 遺物出土状況 UP 東から
- 図版 3 SI 4 遺物出土状況 UP 東から
SI 4 全景 南から
SI 5 遺物出土状況 南から
SI 5 全景 南から
SI 6 遺物出土状況 南東から
SI 6 遺物出土状況 UP 南東から
SI 7 遺物出土状況 南東から
SI 7 全景 南から
- 図版 4 SD 1 全景 南西から
SD 2 全景 南から
SD 3 礫出土状況 南から
SD 3 全景 南から
SD 4 遺物出土状況 UP 南から
SD 4 全景 南から
SD 5、SK 4 全景 南東から
SD 6、SK 5～11・48 全景 東から
- 図版 5 SD 7、SK40・41 全景 北から
SD 8 北部遺物出土状況 南から
SD 8B 北遺物出土状況 UP 南から
SD 8 南部、SK59 遺物出土状況 北から
SD 8A 南部遺物出土状況 UP 南から
SD 8、SK59・60・62 全景 南から
SK 1 全景 東から
SK 2 全景 北から
- 図版 6 SK 3 馬骨出土状況 北から
SK 3 馬骨出土状況 UP 西から
SK 3 全景 北から
SK 8 全景 北から
SK 9～18・61 全景 南から
SK19・36 全景 北から
SK22～32 遺物出土状況 南から
SK30 遺物出土状況 UP 南から
- 図版 7 SK30 遺物出土状況 UP 南から
SK30 遺物出土状況 UP 北東から
SK33・34・37・47 全景 南から
SK38・39・44・45 全景 西から
SK42 遺物出土状況 北から
SK43 全景 南から
SK46 全景 東から
SK20・21・35・48～50 全景 南から
- 図版 8 SK51・52 全景 東から
SK53 全景 南西から
SK54 全景 南西から
SK55 全景 東から
SK56 遺物出土状況 東から
SK57・58 全景 東から
SE 1、SD 3、P 4 全景 南から
SE 2 全景 西から
- 図版 9 SI 1～4・6・7 出土遺物
- 図版 10 SD 3～5・8、SK 3・8・9・12・19 出土遺物
- 図版 11 SK20～23・25・30・31・33・42～44・
56・59、P15・24・42、遺構外出土遺物

第1章 調査に至る経緯

令和元年9月上旬、事業者である磯部光男氏から、高崎市上滝町において計画している認定こども園建設工事に先立つ埋蔵文化財の照会が高崎市教育委員会文化財保護課（以下、市教委と略）にあった。該当地は周知の埋蔵文化財包蔵地である下滝34-1遺跡内に所在するため、工事前に文化財保護法第93条第1項の規定による届出が必要であることを伝えた。

令和元年10月11日、市教委に第93条第1項の届出、埋蔵文化財確認調査申請書が提出され、令和元年11月20日に確認調査を実施した。その結果、古代の竪穴建物等を確認した。この結果をもとに事業者と市教委で協議したが、現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。なお、遺跡名については「上滝新堀北遺跡」とした。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に準じ、令和元年12月27日に事業者磯部光男氏・民間調査機関株式会社測研・市教委での三者協定を締結、事業者と民間調査機関の間で発掘調査の契約を締結し、調査実施にあたっては市教委が指導・監督することとなった。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と周辺の地形

上滝新堀北遺跡は、高崎市上滝町に所在する平安時代の集落跡を主体とする遺跡である。本遺跡の所在する高崎市は群馬県南西部に位置し、北東側に緩やかに弧を描く北西－南東方向に細長い形をしている。上滝町は高崎市の南東側に位置し、中心市街地から東へ約4kmの場所にある。「ㄣ」状の形をしており、東側は群馬県佐波郡玉村町との境をなす。本遺跡は上滝町の西側に位置し、本遺跡の南東約400mのところには関越自動車道と北関東自動車道が連結する高崎ジャンクションがあり、東側約200mのところには関越自動車道と県道13号前橋長湊線のバイパス道が南北方向に走る。

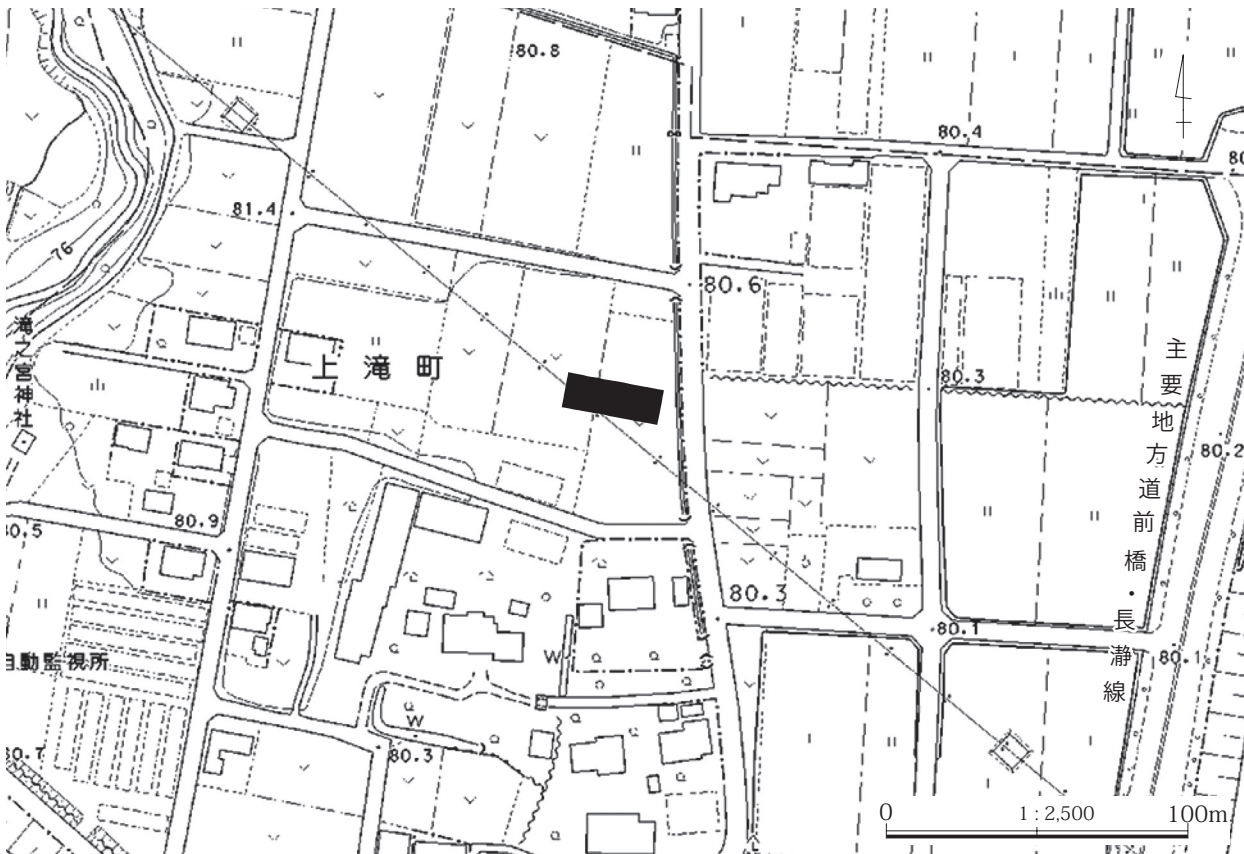
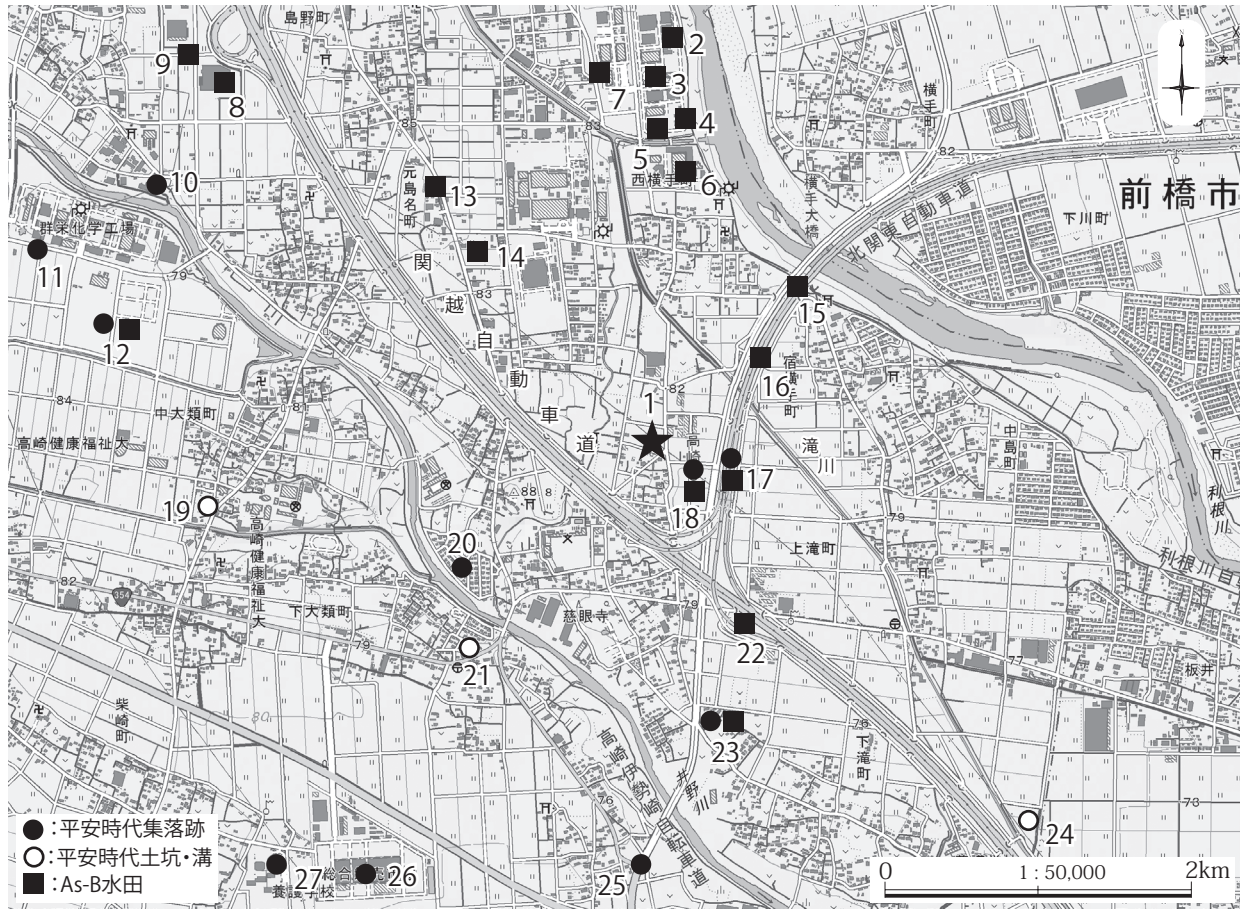
本遺跡は榛名山麓扇状地から南東方向に延びる前橋台地上に位置し、台地南西側の井野川低地との境付近に立地する。本遺跡の西側約800mには井野川が北西－南東方向に流れ、東側約400mには烏川支流の滝川が北西－南東方向に流れており、本遺跡は東西両側を河川に挟まれた場所にある。本遺跡の現況は水田で、周囲には水田が多く見られるほか、宅地や工業団地が造られている。標高は約80mで、概ね平坦である。

第2節 周辺の遺跡

本遺跡の周辺地域では、関越自動車道、関越自動車道と東北自動車道を結ぶ北関東自動車道があり、高速道路の建設に伴い発掘調査が行われている。また、工業団地の造成などの開発事業も多く行われており、発掘調査件数の多い地域である。本遺跡が平安時代の竪穴建物跡、溝跡、土坑などが確認された遺跡であることから、本遺跡周辺地域の平安時代の遺構について概観したい。

利根川と井野川に挟まれた南側前橋台地では、As-B水田跡が多く確認されている。利根川右岸では萩原沖中遺跡第3次調査（第1図2、以下第1図省略）、西横手遺跡群Ⅰ（3）、西横手・西免遺跡4、同5（4）、萩原沖中遺跡5（5）、西横手遺跡群Ⅱ（6）、萩原沖中遺跡（7）、西横手遺跡群（15）、宿横手三波川遺跡（16）ではAs-B水田が確認されており広範囲に水田地域が広がる。また、これらの遺跡は古墳時代のHr-FA水田、Hr-FP水田も確認されていることから、古墳時代から継続的に水田として利用された地域と見られる。

利根川と井野川の間の中流側では、元島名中子遺跡（8）、元島名丸井遺跡（9）、元島名諏訪北遺跡（13）、島野中町遺跡（14）でAs-B水田が確認されている。島野中町遺跡のみHr-FA水田が確認されていることから、平安時代に新たに拡張された水田地域と思われる。下流側では上滝五反畑遺跡（22）でAs-B水田が確認され、上滝榎町北遺跡（17）、上滝榎町遺跡Ⅱ（18）ではAs-B水田と竪穴建物跡や掘立柱建物跡、土坑などが確認され



第1図 遺跡位置図・上滝新堀北遺跡調査地点位置図 (1/50,000・1/2,500)

ており、また Hr-FA 水田、Hr-FP 水田も確認されている。本遺跡（1）では As-B 水田は確認されず、竪穴建物跡や溝跡、土坑などが確認され、本遺跡から南東約 3.5km の上滝社宮司東遺跡（24）では、土坑が確認された。この地域は古墳時代から水田地域であったが、平安時代から居住地域（建物跡）が重なってきた地域と見られる。

井野川流域では、上流側右岸の万相寺遺跡（11）と高崎情報団地遺跡（12）で As-B 水田と集落跡が確認され、左岸では鈴ノ宮遺跡（10）で集落跡が確認されている。下流側では左岸の下滝天水遺跡（23）で As-B 水田と集落跡が確認され、同じく左岸の元島名下河原遺跡（20）では集落跡が確認されている。右岸の中大類金井遺跡（19）、下大類蟹沢遺跡（21）、綿貫小林前遺跡（25）では集落跡などが確認されている。また、井野川以南の下大類遺跡（26）、柴崎熊野前遺跡（27）では集落跡が確認されている。上流側は古墳時代から続く居住地域であり、平安時代に一部で水田地域が造られたと見られる。下流側は下滝天水遺跡が水田地域と居住地域が並立する地域で、その他は居住地域のみとなっている。

利根川に近い場所ほど水田地域となっており、南側に移るほど居住地域の比率が多くなっていく。本遺跡は利根川と井野川の間領域に位置していることから、水田地域と居住地域の並立する地域に含まれる。

第3章 調査方法と調査の経過

第1節 調査方法

上滝新堀北遺跡の発掘調査は、認定こども園の建設に伴い現状が変更される建物部分において、工事を行う前に実施された記録保存調査である。発掘調査範囲は東西 32.2 m、南北 11.8 m の長方形を呈し、発掘調査面積は約 380m²である。

表土掘削は、試掘調査の成果を基ににぶい黄褐色シルト層（IV層、第4章基本土層参照）上面まで重機を用いて掘り下げを行った。この際出土した遺物は表土で取り上げた。

にぶい黄褐色シルト層（IV層）上面を人力で削り遺構確認作業を行った。調査区南西部は黒褐色砂質土（Ⅲ層）が広範囲にわたって確認されたことから、複数の遺構が重複していると想定された。そのため、土層観察用ベルトを格子状に設け任意のグリッドを設定し、人力で掘り下げを行った。グリッドは調査範囲の中央を東西方向に延びる試掘トレンチの南側から A～C 列とし、調査区西端から 1～6 とし、A 列は 1～6 まで、B 列・C 列は 1～4 までである。出土した遺物はグリッドごとにⅢ層で取り上げた。

遺構の掘り込みは、遺構の平面形を捉えることのできたものは形態・大きさに応じて適宜土層観察用のベルトを設定して行った。重複のため平面形態の不明確なものは、重複する遺構すべてにかかるように土層観察用ベルトを設定し、土の堆積状況や遺物の出土状況に留意して行った。そのため土層観察の位置が中心からずれた遺構がある。遺物の取り上げは、遺構に伴うと判断したもの及び遺存状態の良いものは平面図作成又は座標値を測量して取り上げた。その他の遺物は遺構覆土一括で取り上げた。

遺構の記録は、遺構実測図作成及び写真撮影を行った。遺構実測図はトータルステーションを用いて全体図を 1/100、溝跡の平面図を 1/40、その他の遺構の平面図及び土層断面図を 1/20 の縮尺で図化した。ピットは他の遺構と重複しているものと、一部のピットで土層断面図を作成し、その他のピットは土層注記・土層断面写真撮影後に完掘した。写真撮影は 35mm 小型一眼レフカメラと約 2000 万画素のデジタル一眼レフカメラを使用して行った。35mm カメラはモノクローム・カラーリバーサルフィルムを使用し、ともに同一カットを露出を変えて 3 枚一単位で撮影した。デジタルカメラも同一カットの露出を変えて 3 枚一単位で撮影を行った。また、無人航空機（UAV・ドローン）による空中写真撮影を実施し、ブローニー版中型カメラでモノクロームフィルム、約 1800 万画素デジタル一眼レフカメラで撮影を行った。

第2節 調査の経過

調査日誌抄

- 令和2年1月27日 表土掘削開始。
- 令和2年1月29日 表土掘削終了。遺構確認作業開始。
- 令和2年1月30日 遺構確認作業終了。調査区西部の竪穴建物跡群、土坑、井戸跡、溝跡、ピットの調査を開始する。
- 令和2年2月12日 調査区中央部の4号溝跡の調査を開始する。
- 令和2年2月19日 調査区東部の土坑群、溝跡、ピットの調査を開始する。
- 令和2年3月17日 調査区西部の遺構調査が終了。
- 令和2年3月18日 4号溝跡、調査区東部の遺構調査が終了。
- 令和2年3月19日 空中写真撮影実施。高崎市教育委員会担当者が来跡し、調査終了を確認。
- 令和2年3月24日 発掘調査器材の片付け・撤収作業を行う。
- 令和2年3月30日 プレハブ・トイレの撤収作業を行う。
- 令和2年3月31日 発掘調査範囲の埋め戻しを行う。

第4章 確認された遺構と遺物

第1節 遺構の分布と基本土層

遺構分布 今回の上滝新堀北遺跡の発掘調査では平安時代の竪穴建物跡7軒、土坑62基、溝跡9条、井戸跡2基、ピット55基が確認された。調査区中央部西寄りに南北に走る大型溝跡（SD4）があり、そこを境に東側と西側で遺構分布の様相が異なる。遺構確認面は調査区東部が調査区西部よりも約20cm低い。

竪穴建物跡は7軒すべてが大溝（SD4）の西側に分布し、SI5を除く6軒が重複している。溝跡は調査区西部に4条（SD1～3・SD9）、調査区中央部に2条（SD4・SD8）、調査区東部に3条（SD5～7）が分布している。中央部のSD8は2条の溝跡が重複し「K」字状を呈しており、SD8Bは北東方向・南東方向に延びる溝跡である。東部のSD5は北西－南東方向、SD6は東西方向に走る。それ以外の溝跡はほぼ南北方向に走る。土坑は3基（SK1～3）のみ調査区西部に分布し、その他は東部に集中する。井戸跡は2基すべて竪穴建物跡と同じ調査区西部に分布する。ピットは6基（P1～4・P54・P55）が調査区西部、その他が調査区東部に分布し、土坑と同様に東側に集中している。

基本土層 調査区の南西隅部と北東隅部の2か所で基本土層を確認した。各土層の厚さなどは異なるものの、同質の土が堆積している状況が確認された。

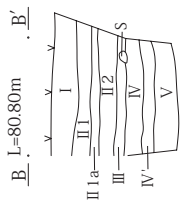
I層は現在の水田の耕作土である。暗褐色土が堆積している。II層は圃場整備前の水田耕作土で、黒褐色砂質土が堆積している。調査区東側では層厚が厚く、酸化鉄沈着層がII1a層とII2層下面に見られる。III層を深く掘り下げて水田を造っていたと判断できる。III層は黒褐色シルト質砂である。調査区東側は水田造成のため削平されたと思われるため層厚は薄く、漸移層が残るのみである。IV層はにぶい黄褐色シルトである。この上面が遺構確認面で、調査区東部は調査区西部よりも20cm程低い。V層は調査区西部が褐色シルト質砂、調査区東部が褐色砂である。また、調査区西部のSE2の壁面でV層より下の堆積状況が確認された。VI層は灰黄褐色シルト、VII層は黒色シルト、VIII層は褐灰色シルトである。

第2節 竪穴建物跡

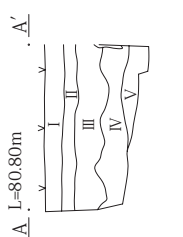
今回の発掘調査では、7軒の竪穴建物跡が確認された。7軒すべてが調査区西部に分布し、5号竪穴建物跡のみが単独で、その他の6軒は重複している状況である。地理的要因で河川の氾濫に伴うと見られる土砂が地山として堆積しており、その堆積土を掘って造られた建物跡に同様の土が堆積しているため、遺構覆土と地山の見極



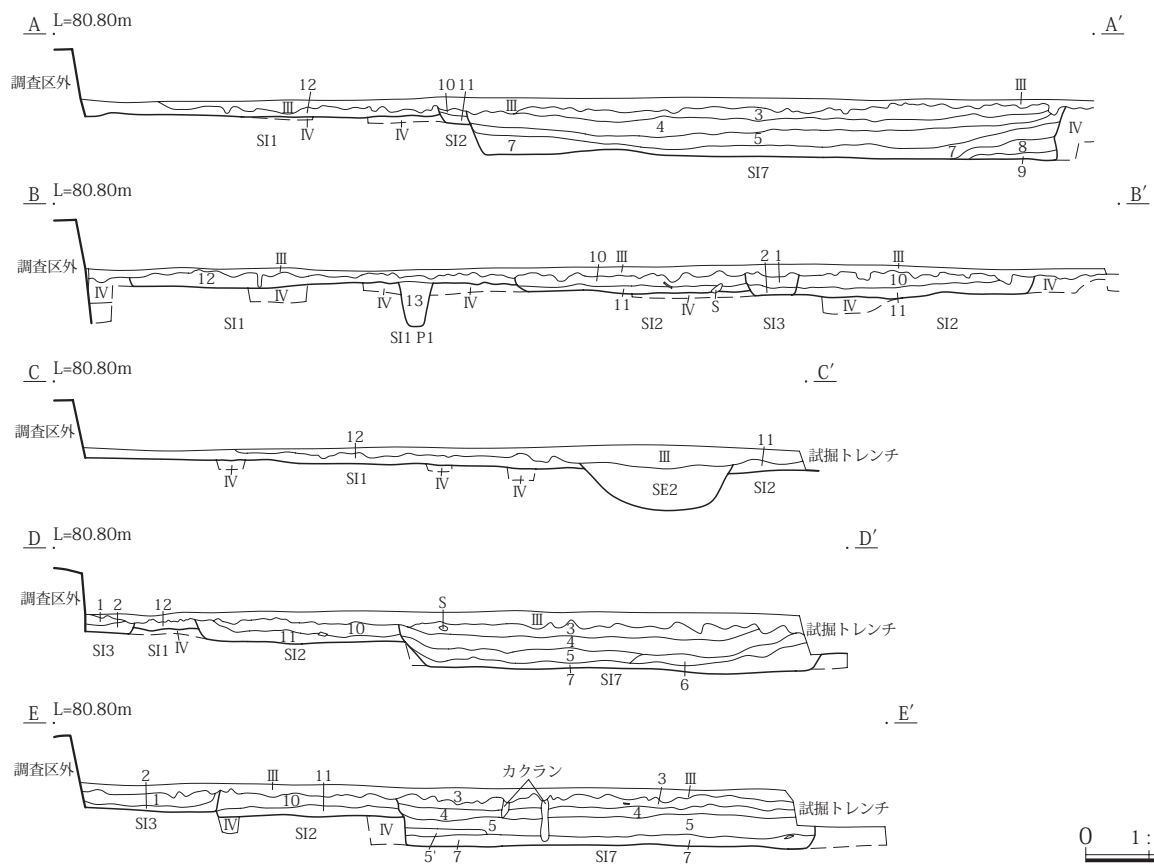
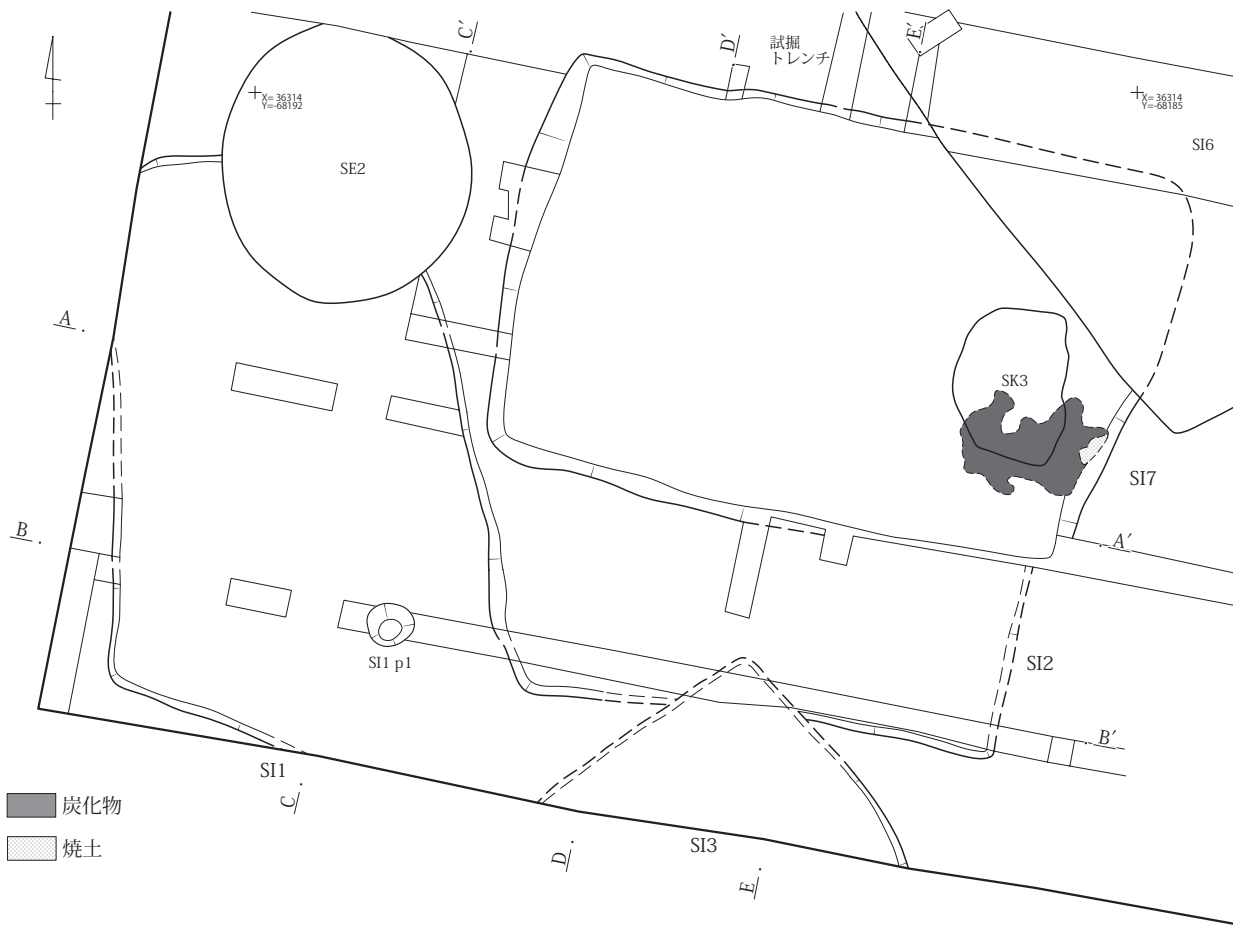
- 基本土層 B.B.
- I .10YR3/3 暗褐色土 しまり強 粘性弱 炭化物少量含む。表土。
 - II I .10YR3/2 黒褐色砂質土 しまり強 粘性なし 白色粘微量。酸化鉄ごく微量含む。水田耕作土。
 - II 1a .10YR3/2 黒褐色砂質土 しまり強 粘性なし 炭化物少量含む。水田耕作土。
 - II 2 .10YR2/3 黒褐色シルト質砂 しまり強 粘性弱 炭化物少量含む。水田耕作土。
 - III .10YR2/3 黒褐色シルト質砂 しまり強 粘性弱 炭化物少量含む。漸形層。
 - IV .10YR4/3 灰黄褐色シルト しまり強 粘性中 酸化鉄少量。炭化物粘微量。白色粒ごく微量含む。
 - IV' .10YR4/2 灰黄褐色シルト しまり強 粘性中 酸化鉄少量。炭化物粘微量。
 - V .10YR4/4 褐色砂 しまり強 粘性中 酸化鉄少量含む。



- 基本土層 A.A.
- I .10YR3/3 暗褐色土 しまり強 粘性弱 炭化物粘微量含む。表土。
 - II .10YR3/2 黒褐色砂質土 しまり強 粘性なし 酸化鉄少量。炭化物粒・白色粘微量含む。水田耕作土。
 - III .10YR2/2 黒褐色シルト質砂 しまり強 粘性なし IV粒・As・B・酸化鉄少量。炭化物粘微量含む。As・B混入土。
 - IV .10YR4/3 灰黄褐色シルト しまり強 粘性弱 酸化鉄多量。炭化物粒・白色粘微量含む。
 - V .10YR4/4 褐色シルト質砂 しまり弱 粘性なし 酸化鉄多量。白色粘微量含む。



第2図 調査地点全体図・基本土層図



第3図 1号~3号・7号竪穴建物跡平面図・断面図①

SI1・2・3・7 AA'～EE'

- 1 .10YR3/4 暗褐色砂質シルト しまり強 粘性なし 酸化鉄少量、炭化物粒・白色粒微量含む。SI3。
- 2 .10YR3/3 暗褐色砂質シルト しまり強 粘性なし V粒少量、炭化物粒・酸化鉄微量含む。SI3。
- 3 .10YR3/3 暗褐色シルト しまり強 粘性弱 白色粒少量、炭化物粒・白色粒(φ5mm)・酸化鉄微量含む。SI7。
- 4 .10YR3/3 暗褐色シルト しまり強 粘性弱 炭化物(φ5mm～φ1cm)・酸化鉄少量、炭化物(φ3mm)・白色粒(φ5mm)・白色粒・酸化鉄微量含む。SI7。
- 5 .10YR3/3 暗褐色シルト しまり強 粘性弱 炭化物粒・酸化鉄少量、炭化物(φ1cm)・白色粒・酸化鉄(φ5mm)微量含む。SI7。
- 5' .10YR4/3 にふい黄褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 炭化物粒多量含む。SI7。
- 6 .10YR3/2 黒褐色シルト しまり強 粘性弱 炭化物粒多量、V粒少量、白色粒微量、酸化鉄ごく微量含む。SI7。
- 7 .10YR3/2 黒褐色シルト しまり強 粘性弱 IV粒・炭化物(φ1cm～φ3cm)・炭化物粒少量、炭化物(φ5mm)・白色粒・酸化鉄微量含む。SI7。
- 8 .10YR4/3 にふい黄褐色砂質シルト しまり強 粘性なし IV粒多量、酸化鉄少量、炭化物粒微量含む。SI7。
- 9 .10YR3/3 暗褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV粒・炭化物粒多量、炭化物(φ5mm)微量含む。SI7。
- 10 .10YR3/3 暗褐色砂質シルト しまり強 粘性なし 白色粒・酸化鉄微量含む。SI2。
- 11 .10YR3/3 暗褐色砂質シルト しまり強 粘性なし IV粒・酸化鉄微量、白色粒ごく微量含む。SI2。
- 12 .10YR3/3 暗褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 白色粒・酸化鉄(φ5mm塊状)少量、IV粒、炭化物粒、白色粒(φ5mm)微量含む。SI1。
- 13 .10YR3/3 暗褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV粒・酸化鉄少量含む。炭化物(φ5mm)あり。SI1 p1。

第4図 1号～3号・7号竪穴建物跡断面図②

めが困難であった。時期はいずれも8世紀後半～9世紀代前半と考えられる。

1号竪穴建物跡 (第3～6図、写真図版2・9)

位置 調査区西部南側。 **重複関係** 2号・3号建物跡、2号井戸跡と重複し、本遺構が一番古い。 **遺存状態** 西壁・東壁の一部が調査区外にあり、東壁と北壁の一部は重複遺構によって壊されている。 **覆土** 暗褐色砂質シルトが堆積し、炭化物粒・白色粒を含む。 **平面形と規模** 平面形は東壁が長い台形状を呈すると思われる。規模は上端幅で長軸が5.19m遺存、短軸が4.49m遺存する。確認面からの深さは最深14cmを測る。 **長軸方位** N-90°。 **壁・壁溝** 壁高は西壁で6cm、南壁で5cmを測り、ともに外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。 **床面** 概ね平坦である。貼床や硬化面は確認されなかった。 **柱穴** 南西側に1基確認された。平面形は不整形で、規模は長軸38cm、短軸34cm、床面からの深さ36cmを測る。 **カマド** 確認されなかった。 **その他の施設** 確認されなかった。 **遺物出土状況** 遺物量は比較的多いが、大半が覆土から出土した破片で遺存度の高いものは少なく、埋没中に流れ込んだものである。 **遺物** 土師器・須恵器・石が出土し、そのうち土師器2点、須恵器1点を図示した。土師器は甕・坏、須恵器は坏である。 **備考** 格子状に設定した土層断面及び床面の状況から、約5.2m×4.5m残存する台形状の竪穴建物跡と判断した。出土遺物から本遺構の帰属時期は8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

2号竪穴建物跡 (第3～5・7図、写真図版2・9)

位置 調査区西部南側。 **重複関係** 1号・3号・7号竪穴建物跡、2号井戸跡と重複し、本遺構は3号・7号竪穴建物跡・2号井戸跡より古く、1号竪穴建物跡よりも新しい。 **遺存状態** 北壁及び東壁と西壁の一部が重複遺構によって壊されている。東壁の南側は覆土と壁面の識別が難しく掘り過ぎている。 **覆土** 暗褐色砂質シルトが堆積し、白色粒を含む。 **平面形と規模** 平面形は北壁が長い台形状を呈すると思われる。規模は上端幅で長軸が5.19m遺存、短軸が3.22m遺存する。確認面からの深さは最深25cmを測る。 **長軸方位** N-81°-W。 **壁・壁溝** 壁高は西壁で10cm、南壁で8cmを測り、ともに外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。 **床面** 概ね平坦である。貼床や硬化面は確認されなかった。 **柱穴** 確認されなかった。 **カマド** 確認されなかった。 **その他の施設** 確認されなかった。 **遺物出土状況** 遺物量は非常に多いが、大半が覆土から出土した破片で遺存度の高いものは少なく、埋没中に流れ込んだものである。 **遺物** 土師器・須恵器・石が出土し、そのうち土師器4点、須恵器7点を図示した。土師器は甕・坏、須恵器は壺・甕・坏・高台坏である。石は編物石と思われるものが出土している。 **備考** 格子状に設定した土層断面及び床面の状況から、約5.2m×3.2m遺存する台形状の竪穴建物跡と判断した。出土遺物から本遺構の帰属時期は8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

3号竪穴建物跡 (第3～5・8図、写真図版2・9)

位置 調査区西部南側。 **重複関係** 1号・2号竪穴建物跡と重複し、本遺構が一番新しい。 **遺存状態** 東壁北側・北壁東側以外は調査区外にある。 **覆土** 暗褐色砂質シルトが堆積し、炭化物粒・白色粒を含む。 **平**



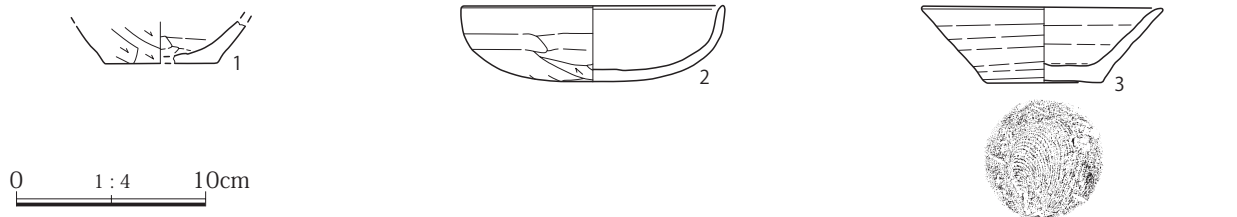
第5図 1号～3号・7号竪穴建物跡遺物出土状況図

面形と規模 北隅部のみが確認された状況であるため全容は不明であるが、他の建物跡と同様の台形状を呈すると思われる。規模は上端幅で長軸が2.31 m遺存、短軸が2.15 m遺存する。確認面からの深さは最深22cmを測る。

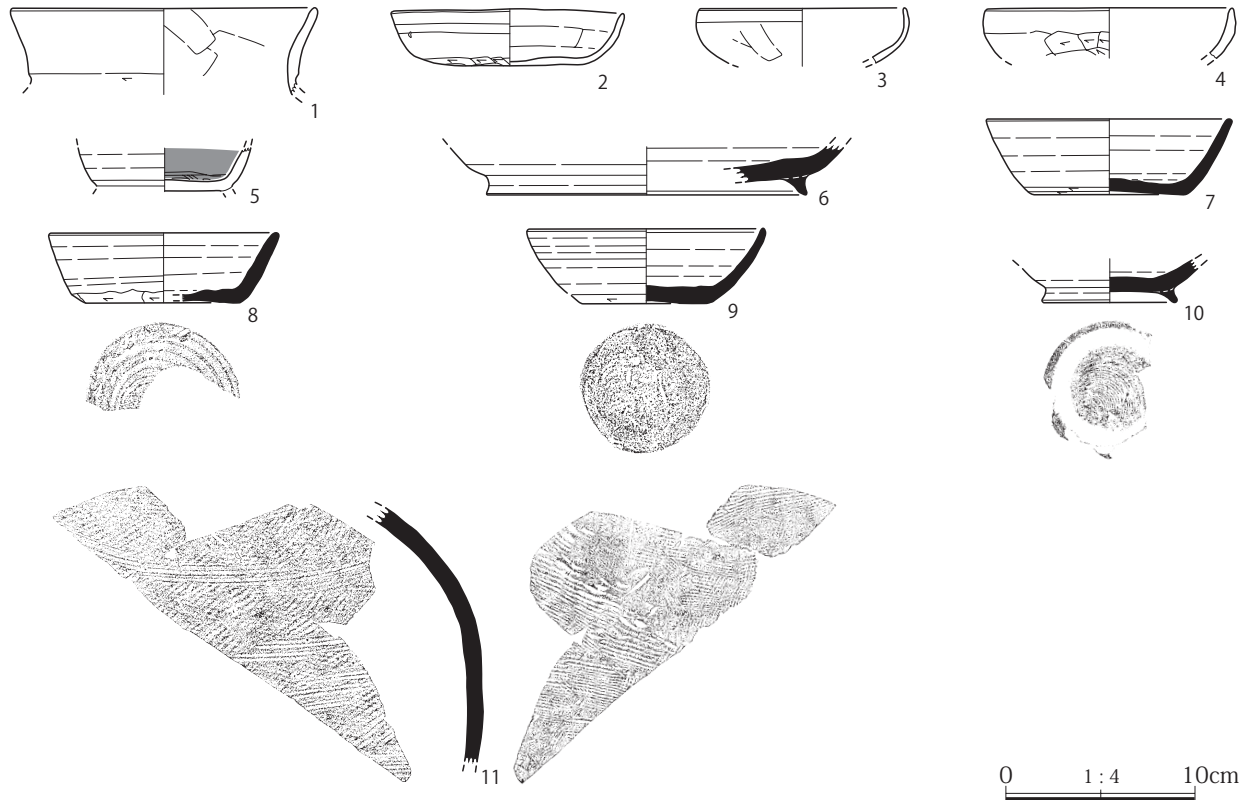
長軸方位 N-37°-W。 **壁・壁溝** 壁高は東壁で16cm、北壁で18cmを測り、ともに外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。 **床面** 概ね平坦である。貼床や硬化面は確認されなかった。 **柱穴** 確認されなかった。 **カマド** 確認されなかった。 **その他の施設** 確認されなかった。 **遺物出土状況** 遺物量は比較的多いが、大半が覆土から出土した破片で遺存度の高いものは少なく、埋没中に流れ込んだものである。 **遺物** 土師器・須恵器・石が出土し、そのうち土師器3点、須恵器3点を図示した。土師器は甕・坏、須恵器は甕・高台坏・蓋である。 **備考** 北隅部のみであるが、格子状に設定した土層断面及び床面の状況から、約2.3 m × 2.1 m遺存する竪穴建物跡と判断した。出土遺物から本遺構の帰属時期は8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

4号竪穴建物跡 (第10～12図、写真図版2・3・9)

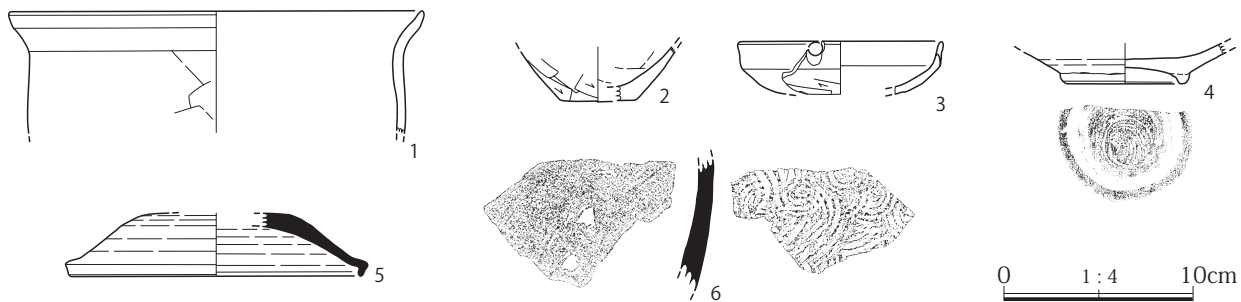
位置 調査区西部北側。 **重複関係** 6号竪穴建物跡、3号溝跡と重複し、本遺構が一番古い。 **遺存状態** 南西部と東側の一部が重複遺構によって壊されている。 **覆土** にぶい黄褐色砂質シルトが堆積し、炭化物・白色粒を含む。 **平面形と規模** 平面形は北壁が長い台形状を呈すると思われる。規模は上端幅で長軸5.08 m、短軸4.57 m、確認面からの深さは最深22cmを測る。 **長軸方位** N-32°-W。 **壁・壁溝** 壁高は東壁・北壁ともに17cmを測る。東壁は大きく外傾し、北壁は外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。 **床面** 概ね平坦である。貼床や硬化面は確認されなかった。 **柱穴** 確認されなかった。 **カマド** 確認されなかった。 **その他の施設** 確認されなかった。 **遺物出土状況** 遺物量は多いが、大半が覆土から出土した破片で遺存度の高いものは少なく、埋没中に流れ込んだものである。 **遺物** 土師器・須恵器・鉄製品・石製品が出土し、そのうち土師器4点、須恵器3点、鉄製品2点、石製品1点を図示した。土師器は甕・坏、須恵器は壺・甕・坏で



第6図 1号竪穴建物跡出土遺物実測図



第7図 2号竪穴建物跡出土遺物実測図

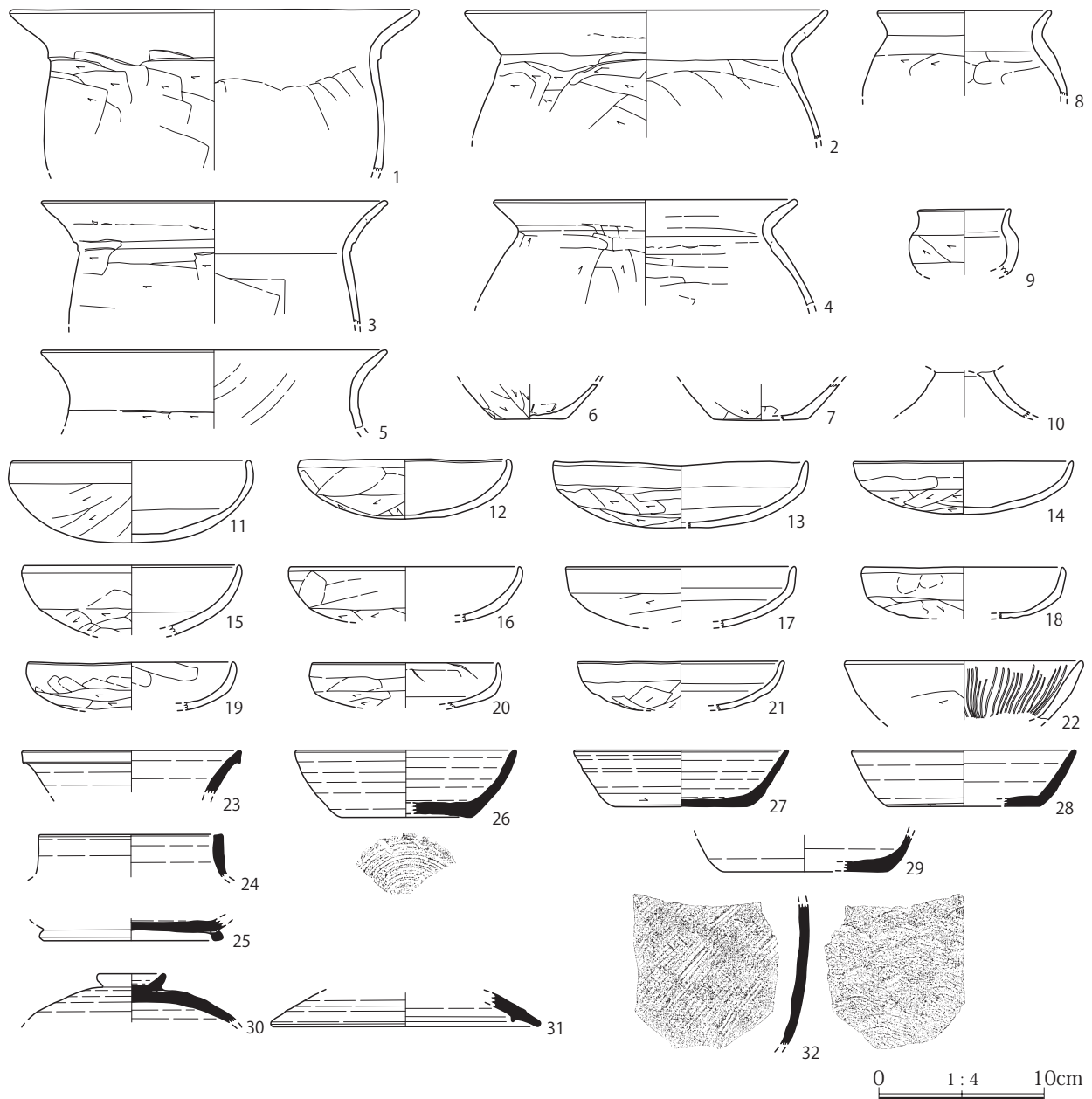


第8図 3号竪穴建物跡出土遺物実測図

ある。鉄製品は床面から出土した鎌3点で、うち2点（第12図8）は背中合わせで重なった状態で出土している。石製品は砥石と思われるものである。備考 本遺構は約5.1 m × 4.6 mの台形状を呈する竪穴建物跡である。出土遺物から本遺構の帰属時期は8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

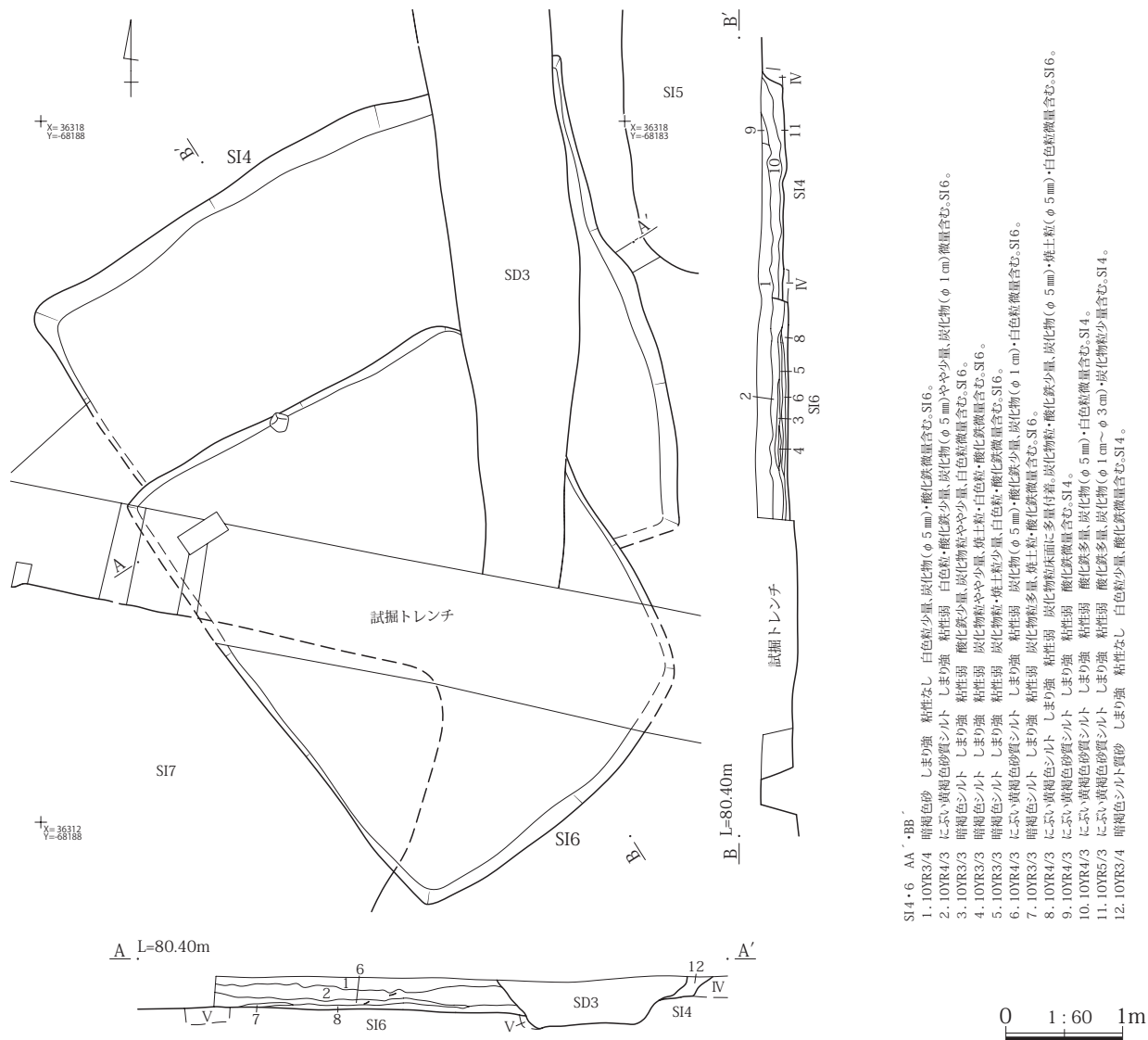
5号竪穴建物跡（第14・15図、写真図版3）

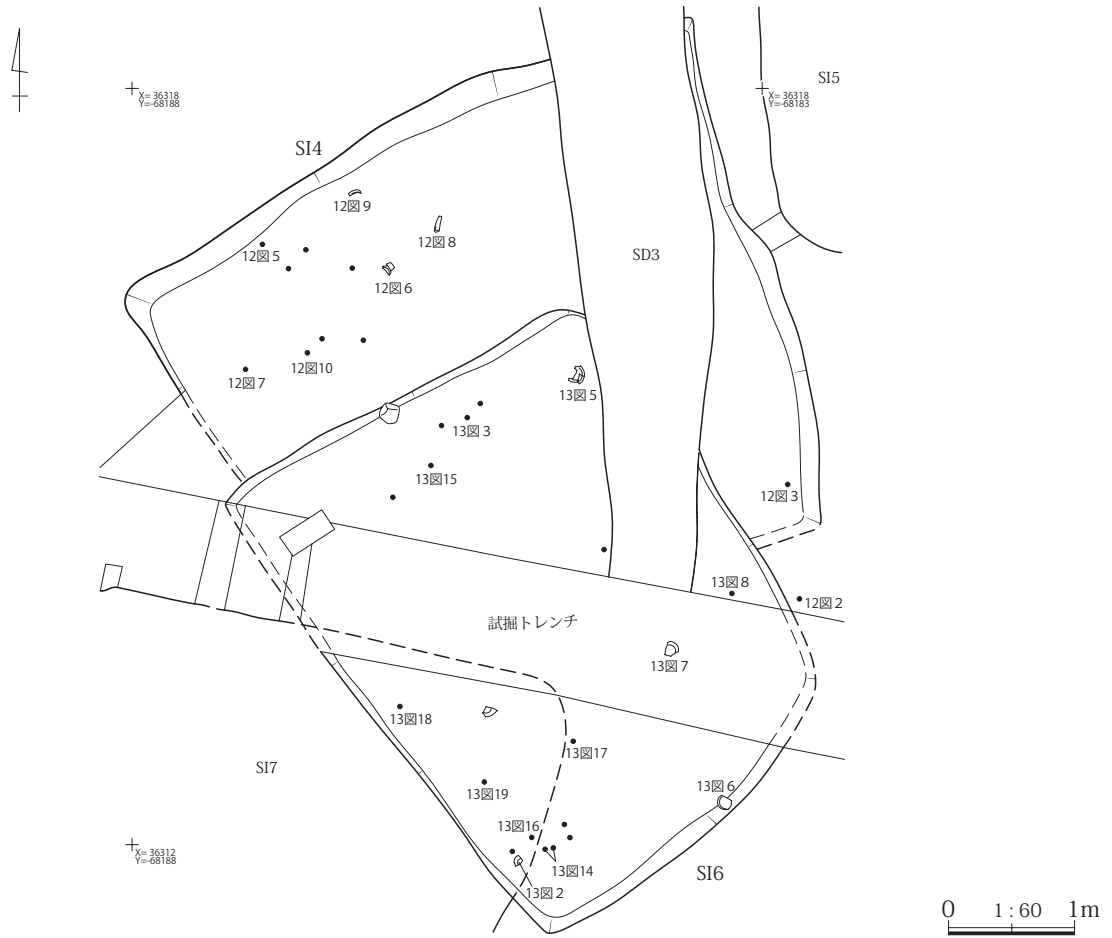
位置 調査区西部北側。重複関係 4号溝跡と重複し、本遺構のほうが古い。遺存状態 東側は4号溝跡によって壊され、北側は調査区外にある。覆土 暗褐色のシルト質砂・砂質シルト・シルトが堆積し、炭化物・



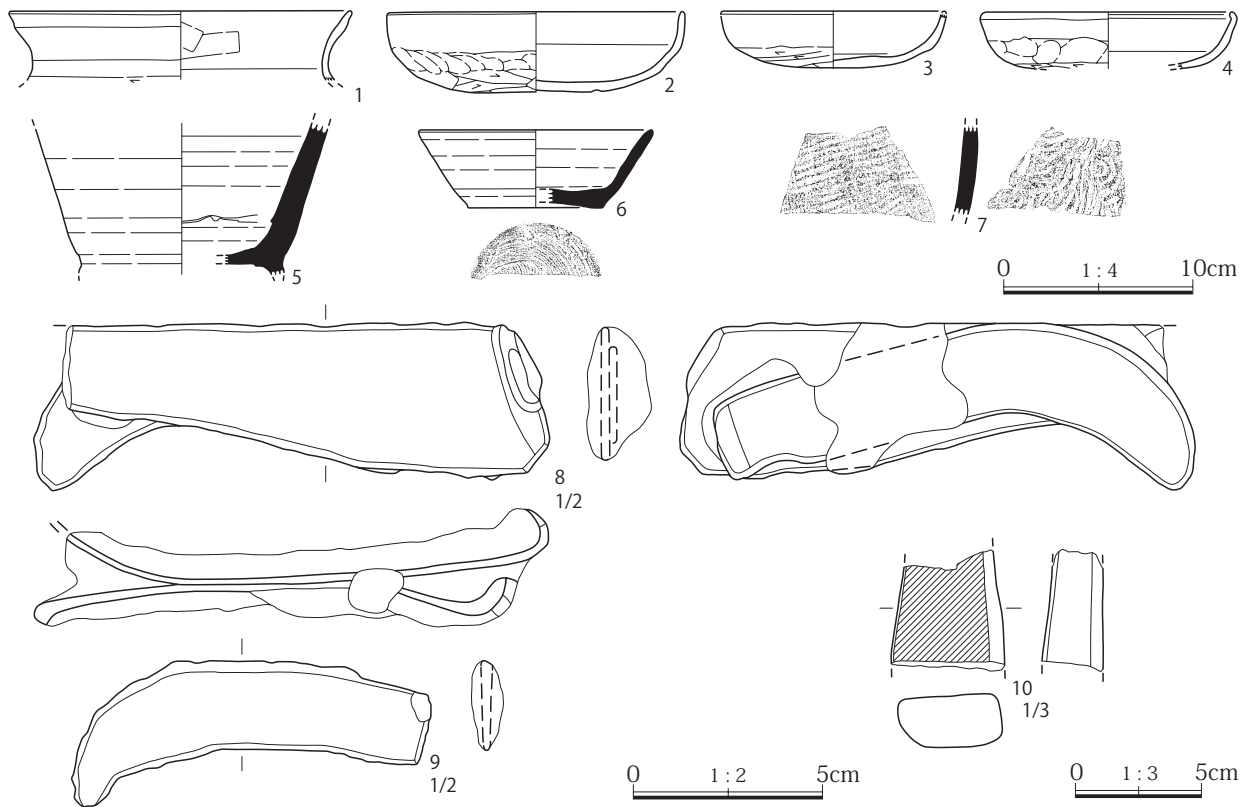
第9図 7号竪穴建物跡出土遺物実測図

白色粒を含む。 **平面形と規模** 南西隅部のみが確認された状況であるため全容は不明であるが、他の建物跡と同様の台形状を呈すると思われる。規模は上端幅で長軸 2.41 m 遺存、短軸 2.31 m 遺存し、確認面からの深さは最深 18cm を測る。 **長軸方位** N - 12° - W。 **壁・壁溝** 壁高は西壁で 19cm、南壁で 14cm を測り、ともに外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。 **床面** 概ね平坦である。貼床や硬化面は確認されなかった。 **柱穴** 確認されなかった。 **カマド** 確認されなかった。 **その他の施設** 確認されなかった。 **遺物出土状況** 遺物量は多いが、大半が覆土から出土した破片で遺存度の高いものは少なく、埋没中に流れ込んだものである。 **遺物** 土師器・須恵器・石が出土し、そのうち土師器 6 点、須恵器 1 点を図示した。土師器は甕・甌・坏、須恵器は甕である。石は編物石と思われるものが出土している。 **備考** 南西隅部のみであるが、平面形及び床面の状況から約 2.4 m × 2.3 m 遺存する竪穴建物跡と判断した。出土遺物から本遺構の帰属時期は 8 世紀後半と考えられる。

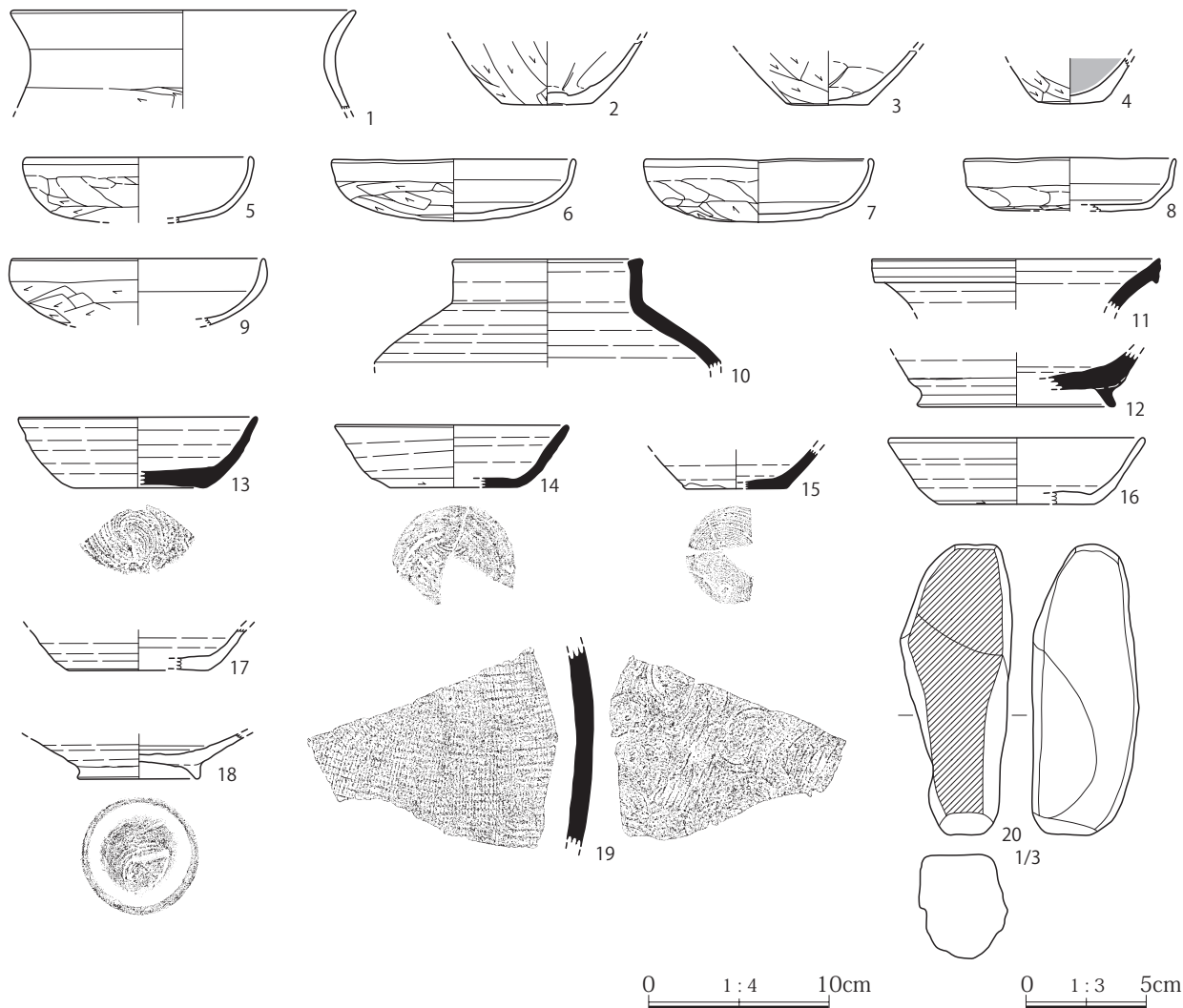




第11図 4号・6号竪穴建物跡遺物出土状況図



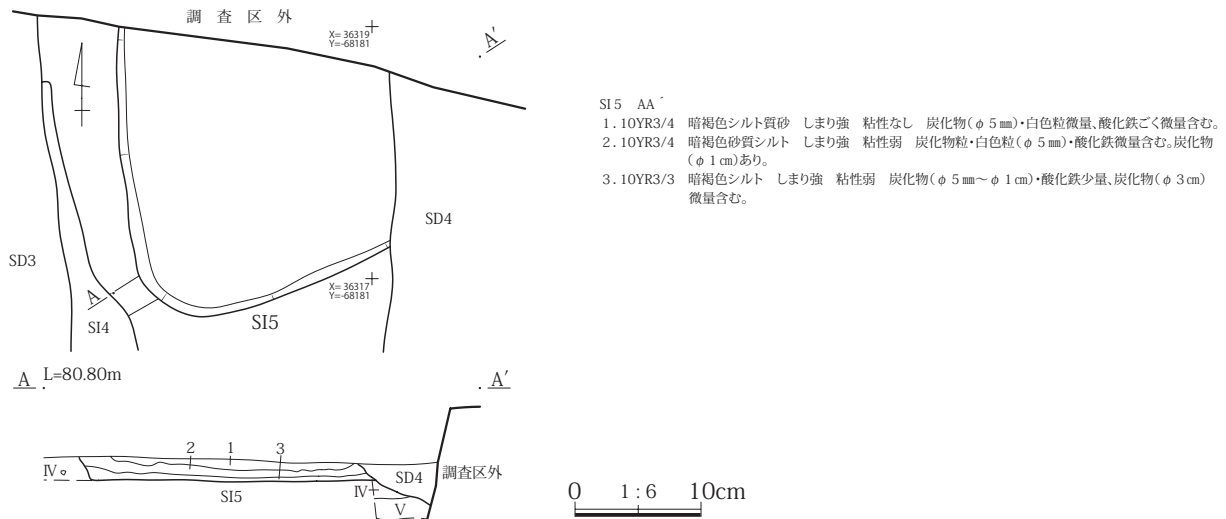
第12図 4号竪穴建物跡出土遺物実測図



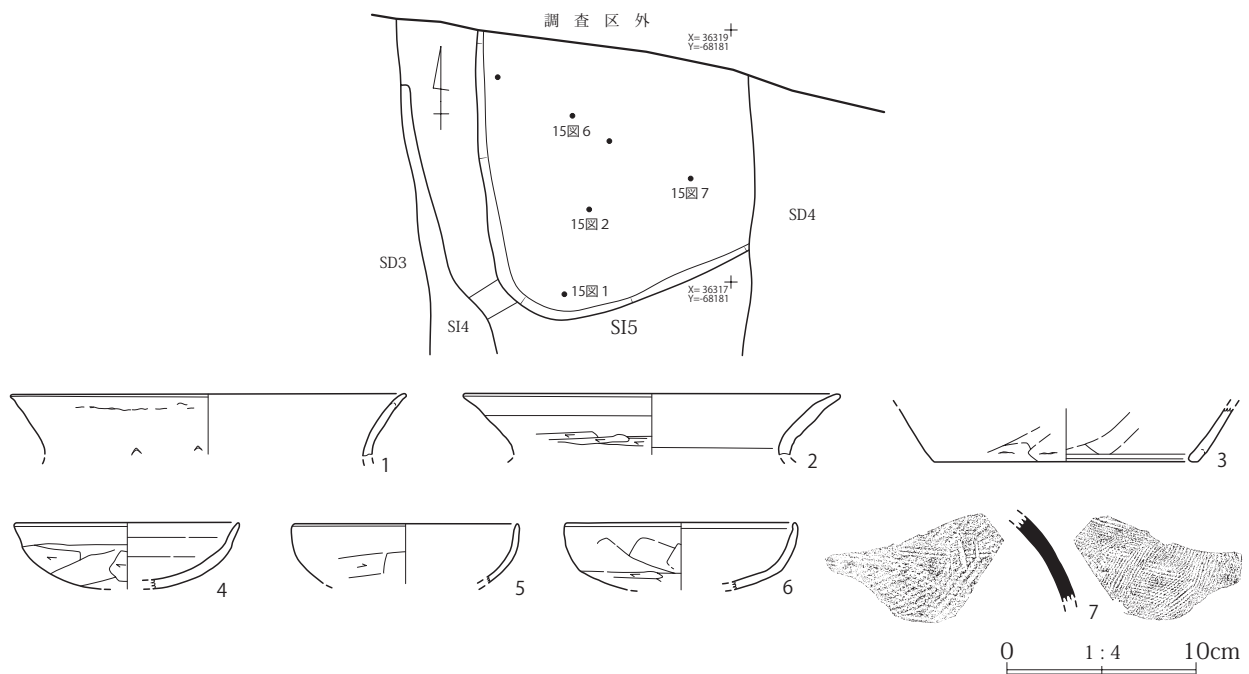
第13図 6号竪穴建物跡出土遺物実測図

7号竪穴建物跡 (第3～5・9図、写真図版3・9)

位置 調査区西部南側。 **重複関係** 2号・6号竪穴建物跡、3号土坑と重複し、本遺構は6号竪穴建物跡、3号土坑より古く、2号竪穴建物跡よりも新しい。 **遺存状態** 重複遺構によって一部が壊され、北壁が試掘トレンチによって失われている。 **覆土** 上層・中層は暗褐色シルトが堆積する。下層は黒褐色シルトが基調で、南東隅部の一部にぶい黄褐色砂質シルトが見られる。 **平面形と規模** 平面形は北壁が長い台形状を呈する。規模は上端幅で長軸 5.12 m 遺存し、短軸 3.53 m、確認面からの深さは最深 48cm を測る。 **長軸方位** N - 81° - W。 **壁・壁溝** 壁高は東壁で 41cm、南壁で 36cm を測り、ともに急角度で立ち上がる。壁溝は確認されなかった。 **床面** 概ね平坦である。貼床や硬化面は確認されなかった。 **柱穴** 確認されなかった。 **カマド** 残存していなかったが、東壁南側で焼土及び多量の炭化物が確認されたことから、この付近にカマドがあったと考えられる。 **その他の施設** 確認されなかった。 **遺物出土状況** 遺物量は非常に多いが、大半が覆土から出土した破片で遺存度の高いものは少なく、埋没中に流れ込んだものである。 **遺物** 土師器・須恵器・石が出土し、そのうち土師器 22 点、須恵器 10 点を図示した。土師器は甕・小型台付甕・坏、須恵器は壺・短頸壺・甕・坏・蓋である。時期が異なるが、暗文を施す土師器高坏と内側に小さい「かえし」を持つ須恵器蓋も出土している。石は編物石と思われるものが出土している。 **備考** 本遺構は、約 5.1 m 遺存 × 3.5 m の台形状を呈する竪穴建物跡である。出土遺物から帰属時期は 8 世紀後半～9 世紀前半と考えられる。



第14図 5号竪穴建物跡平面図・断面図



第15図 5号竪穴建物跡遺物出土状況図・出土遺物実測図

第3節 溝跡

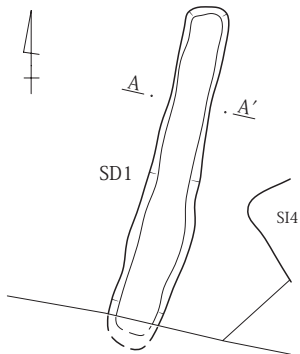
今回の発掘調査では、9条の溝跡が確認された。4条（1号～3号・9号溝跡）が調査区西部、2条（4号・8号溝跡）が調査区中央部、3条（5号～7号溝跡）が調査区東部に分布している。

1号溝跡（第16図、写真図版4）

位置 調査区西部北側。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 南端部の大半が試掘トレンチによって失われているが、わずかに痕跡が確認できた。 **覆土** 黒褐色シルト質砂が基調である。 **規模** 長さは推定3.71m、上端幅は44cm～69cm、下端幅は36cm～45cm、確認面からの深さは最深31cmを測る。 **主軸方位** N-15°-E。

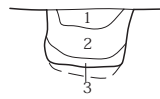
遺物 土師器が少量出土したが、図示し得る遺物はなかった。 **備考** 長さがやや短いが非常に細長い形状であるため溝跡と判断した。遺構の性格は不明である。土師器が出土しているが時期を特定し得るものではないことから帰属時期は不明であるが、堆積土が基本土層Ⅲ層と類似していることから竪穴建物跡よりも新しい9世紀後半以降のものと考えられる。

SD 1



試掘トレンチ

A L=80.40m A'

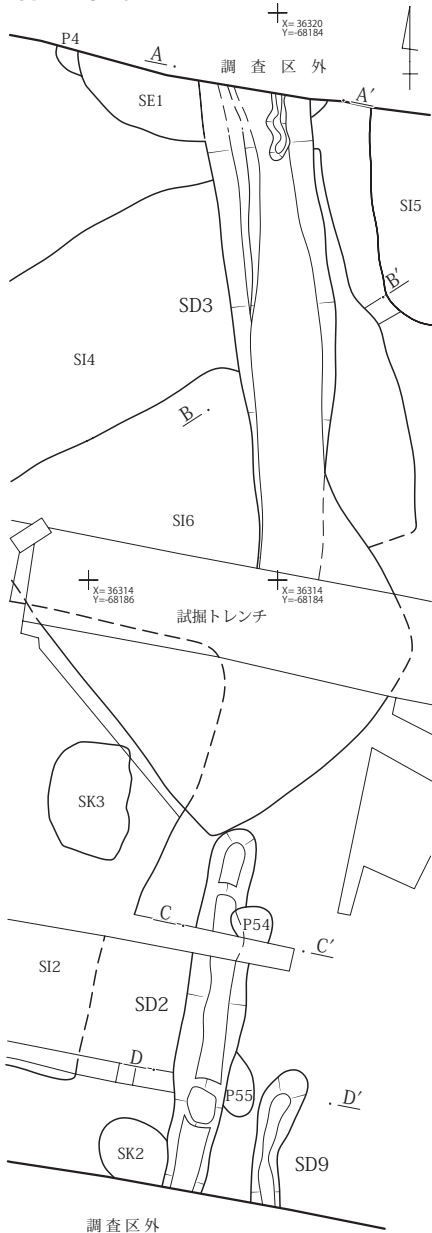


0 1:40 1m

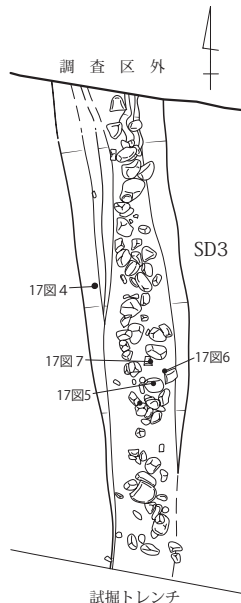
SD 1 AA'

1. 10YR3/2 黒褐色シルト質砂 しまり中 粘性中 IV粒多量、IV塊(φ 5mm)微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色シルト質砂 しまり中 粘性中 IV粒大量、IV塊(φ 1cm)少量、白色粒(φ 1cm)微量含む。
3. 10YR3/2 黒褐色シルト質砂 しまり強 粘性中 IV塊(φ 5cm)・IV粒微量含む。

SD 2・3・9

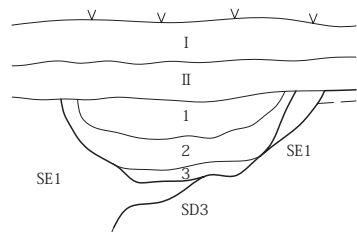


0 1:80 2m

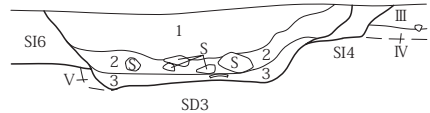


試掘トレンチ

A L=80.80m A'



B L=80.80m B'



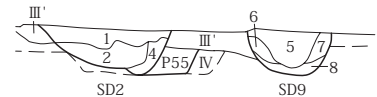
SD 3 AA'・BB'

1. 10YR3/2 黒褐色シルト質砂 しまり強 粘性中 IV粒少量、IV塊(φ 5mm)・礫(φ 10cm)微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色シルト質砂 しまり中 粘性中 礫(φ 10cm)大量、IV塊(φ 1cm)・IV粒多量、礫(人頭大)少量含む。
3. 10YR3/1 黒褐色シルト質砂 しまり弱 粘性中 IV粒微量含む。

C L=80.40m C'



D L=80.40m D'

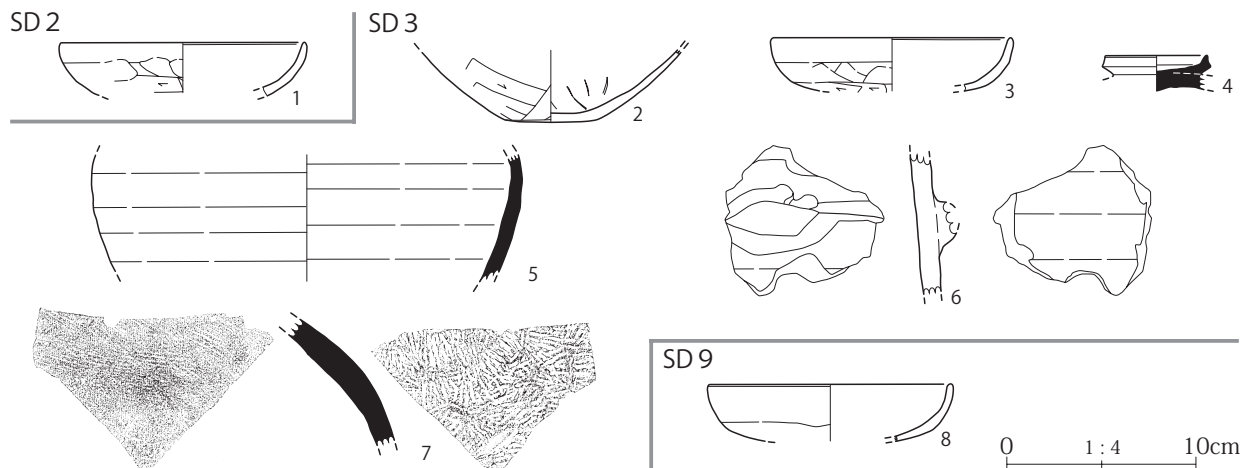


0 1:40 1m

SD 2・9 CC'・DD'

1. 10YR3/4 暗褐色砂 しまり強 粘性なし IV粒少量、白色粒微量含む。SD 2。
2. 10YR3/3 暗褐色砂 しまり強 粘性なし IV粒・粘土粒・白色粒微量含む。白色礫(φ 5mm)あり。SD 2。
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質砂 しまり強 粘性弱 IV粒多量、IV塊(φ 1cm)少量、炭化物(φ 5mm)・酸化鉄微量含む。SD 2。
4. 10YR3/3 暗褐色シルト質砂 しまり強 粘性弱 IV粒多量、IV塊(φ 1cm)・白色粒・酸化鉄微量含む。SD 2。
5. 10YR3/3 暗褐色砂質土 しまり強 粘性なし IV粒・白色粒(φ 5mm)・白色粒・酸化鉄微量含む。SD 9。
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質砂 しまり強 粘性なし IV粒少量、酸化鉄微量含む。SD 9。
7. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質砂 しまり強 粘性なし IV粒少量含む。SD 9。
8. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質砂 しまり強 粘性なし IV粒多量、IV塊(φ 1cm)微量、炭化物粒ごく微量含む。SD 9。

第 16 図 1 号～3 号・9 号溝跡平面図・断面図、3 号溝跡礫・遺物出土状況図



第17図 2号・3号・9号溝跡出土遺物実測図

2号溝跡 (第16・17図、写真図版4)

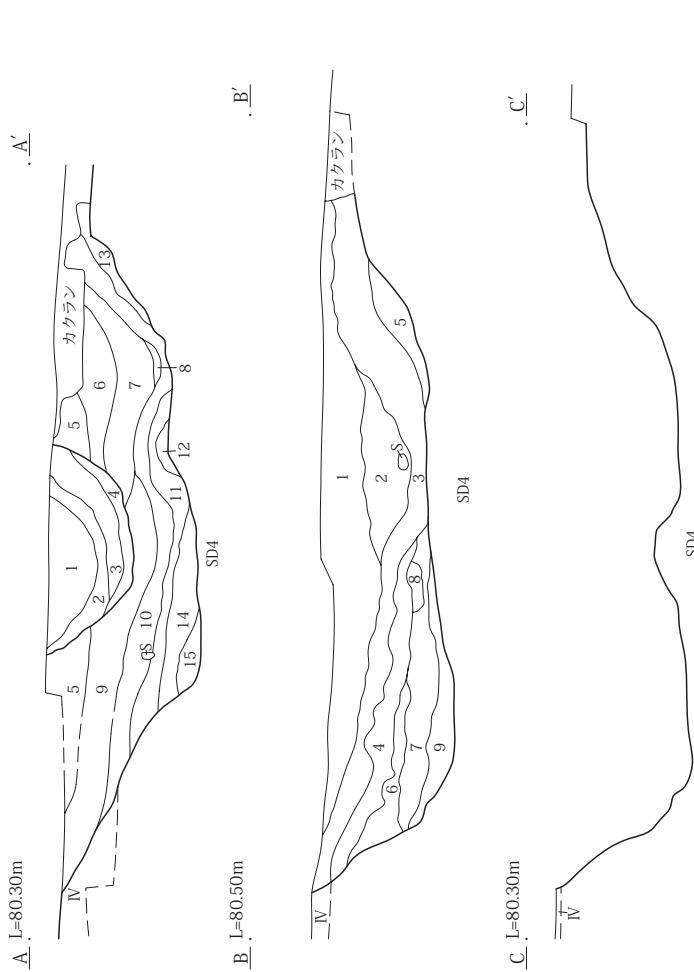
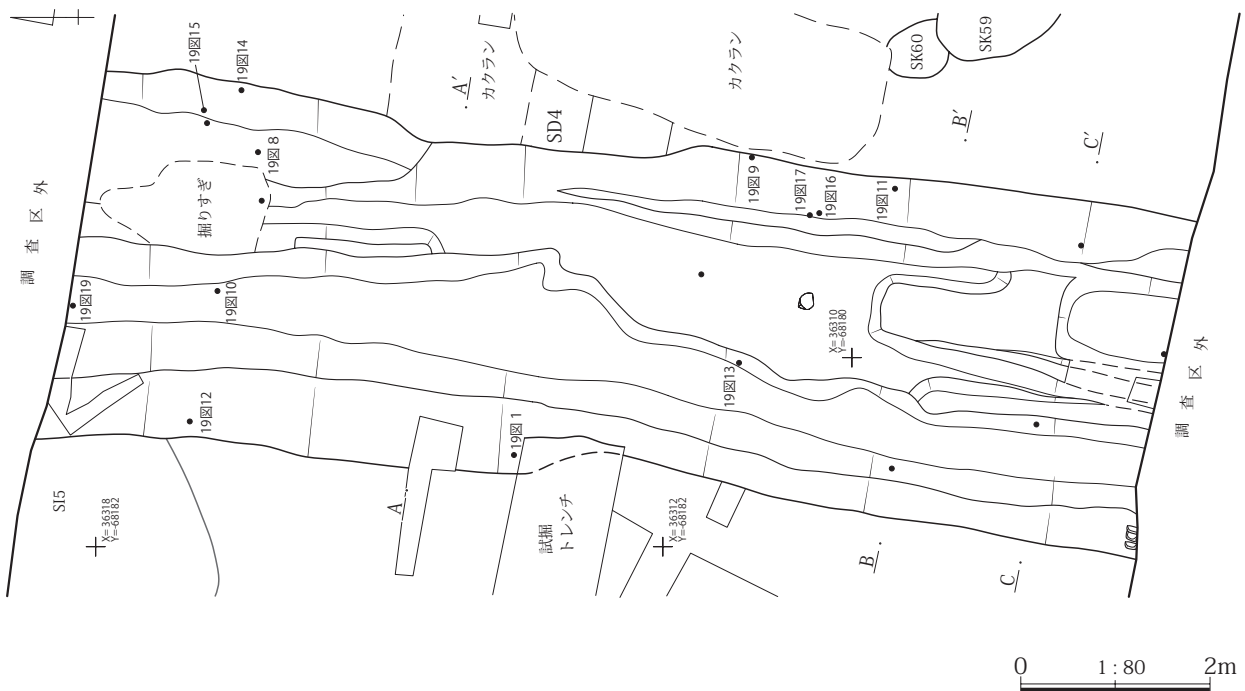
位置 調査区西部南側。 **重複関係** 2号土坑、54号・55号ピットと重複し、本遺構は54号ピットより古く、2号土坑・55号ピットよりも新しい。 **遺存状態** 南側が調査区外にあるが、概ね良好。 **覆土** 暗褐色砂が基調で、下層の一部にぶい黄褐色シルト質砂が堆積する。 **規模** 長さは3.86m遺存し、上端幅は44cm～67cm、下端幅は22cm～28cm、確認面からの深さは最深34cmを測る。 **主軸方位** N-9°-E。 **遺物** 少量の土師器・須恵器と灰釉陶器が出土し、そのうち土師器1点を図示した。 **備考** 調査区南端から北側へ延びる溝跡で、底面は概ね平坦であるが、南側の一部が円形に窪んでいる。遺構の性格は不明である。出土遺物及び堆積土が竪穴建物跡と似ている状況から、本遺構の帰属時期は竪穴建物跡と同時期の8世紀後半～9世紀前半である可能性が高い。

3号溝跡 (第16・17図、写真図版4・10)

位置 調査区西部北側。 **重複関係** 4号・6号竪穴建物跡、1号井戸跡と重複し、本遺構が一番新しい。 **遺存状態** 北側は調査区外にあり、南端部は試掘トレンチによって失われている。 **覆土** 黒褐色シルト質砂が基調である。中層には多量の礫(φ10cm・人頭大)が含まれていた。 **規模** 長さは5.36m遺存し、上端幅は1.05m～1.17m、下端幅は0.34m～0.76m、確認面からの深さは最深43cmを測る。 **主軸方位** N-5°-W。 **遺物** 多量の土師器と少量の須恵器が出土し、そのうち土師器2点、須恵器4点を図示した。土師器は甕・坏、須恵器は壺・羽釜・蓋である。須恵器3点(第17図5～7)は礫の下から出土している。 **備考** 調査区北端から南側へ延びる溝跡である。本遺構の性格は不明であるが、使用されなくなった後の埋没過程において礫が投棄されたものと考えられる。この礫がどこから持って来られたかは本調査区内では明らかにできなかった。出土遺物から本遺構の帰属時期は10世紀代と考えられる。

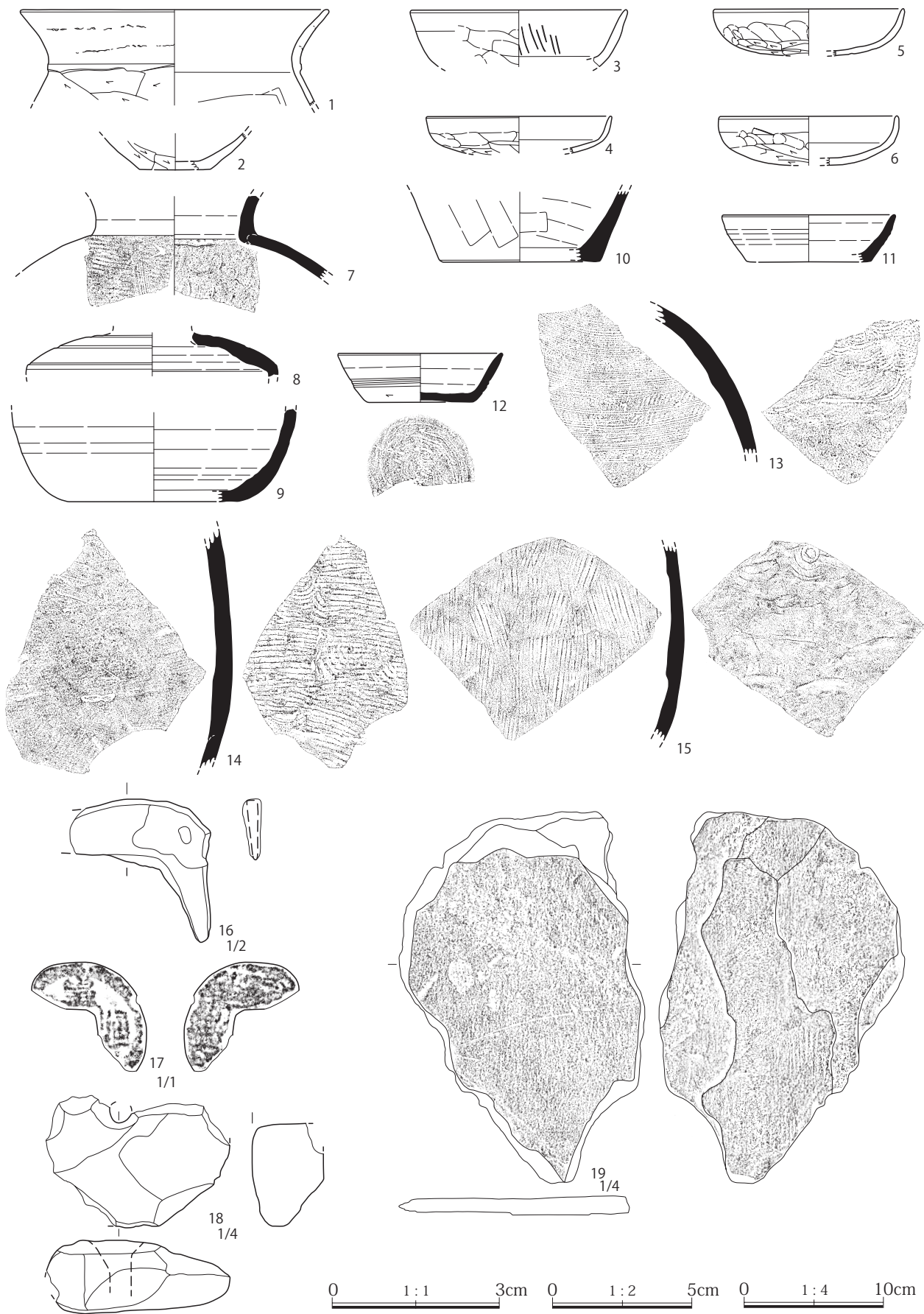
4号溝跡 (第18・19図、写真図版4・10)

位置 調査区中央部。 **重複関係** 5号竪穴建物跡と重複し、本遺構のほうが新しい。 **遺存状態** 一部カクランによって壊されているが概ね良好で、南側・北側は調査区外にある。 **覆土** 暗褐色が基調で、下層に灰黄褐色、黒褐色が見られる。土質は砂質シルト、シルト、シルト質砂、砂が堆積している。下層に砂が堆積していることから、本遺構は常時水が流れていたと考えられる。北側の土層観察ベルト(AA')で本遺構よりも新しい遺構と捉えることのできる堆積状況が確認されたが、平面形を捉えることはできなかった。 **規模** 長さは11.71m遺存し、上端幅は3.47m～4.01m、下端幅は0.34m～1.19m、確認面からの深さは最深71cmを測る。 **主軸方位** N-9°-E。 **遺物** 多量の土師器、少量の須恵器、上層から数点の陶磁器のほか石製品・



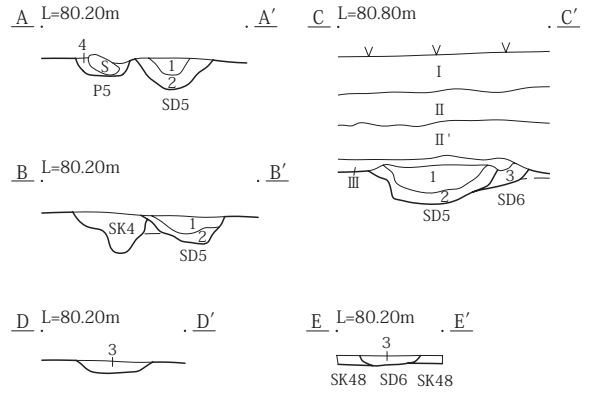
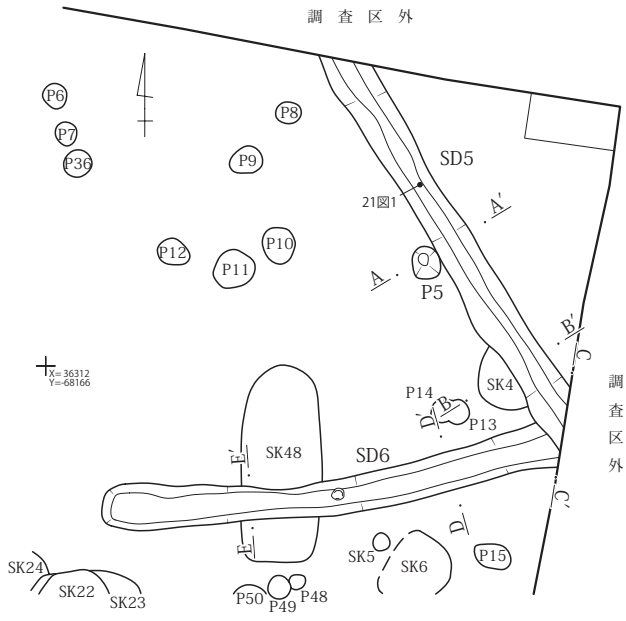
- SD4 AA'
1. 10YR3/4 暗緑色シルト質砂 粘性なし 白色粘微量、酸化鉄ごく微量含む、別土坑と混ざれる。
 2. 10YR3/3 暗緑色砂質シルト 粘性弱 白色粘・酸化鉄微量含む、別土坑と混ざれる。
 3. 10YR3/3 暗緑色砂質シルト 粘性弱 酸化鉄少量、IV粒・白色粘微量含む、別土坑と混ざれる。
 4. 10YR3/3 暗緑色シルト 粘性弱 酸化鉄微量、白色粘ごく微量含む、別土坑と混ざれる。
 5. 10YR3/3 暗緑色シルト質砂 粘性なし 炭化物粘・白色粘(φ 5mm)・白色粘・酸化鉄微量含む。
 6. 10YR3/3 暗緑色砂質シルト 粘性弱 酸化鉄少量、炭化物粘。
 7. 10YR3/3 暗緑色砂 粘性なし 酸化鉄少量含む。
 8. 10YR3/3 暗緑色シルト 粘性弱 酸化鉄少量、IV粒・白色粘微量含む、炭化物(φ 5mm)あり。
 9. 10YR3/3 暗緑色砂質シルト 粘性弱 酸化鉄少量、炭化物粘・白色粘微量含む、炭(φ 1cm)あり。
 10. 10YR3/3 暗緑色シルト 粘性弱 酸化鉄・砂少量、白色粘微量含む。
 11. 10YR3/3 暗緑色シルト 粘性弱 酸化鉄・砂少量、白色粘微量含む。
 12. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性弱 IV粘・酸化鉄少量、炭化物粘微量含む。
 13. 10YR3/3 暗緑色砂質シルト 粘性弱 IV粘・酸化鉄少量、IV現(φ 1cm)・酸化鉄微量含む。
 14. 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト 粘性弱 IV粘・酸化鉄・砂少量、IV現(φ 5mm)微量含む。
 15. 10YR3/2 黒褐色砂 粘性なし 灰黄褐色砂質シルト粒少量、酸化鉄微量含む。
- SD4 BB'
1. 10YR3/3 暗緑色シルト質砂 粘性弱 酸化鉄少量、炭化物(φ 5mm)・白色粘微量含む。
 2. 10YR3/3 暗緑色シルト質砂 粘性弱 酸化鉄少量、白色粘微量含む、炭化物(φ 1cm)・炭(俵人)あり。
 3. 10YR3/3 暗緑色砂質シルト 粘性中 酸化鉄少量、炭化物(φ 5mm)・白色粘微量含む、白色粘(φ 3cm)あり。
 4. 10YR3/3 暗緑色シルト質砂 粘性弱 酸化鉄・砂少量、炭化物粘微量含む、白色粘(φ 1cm)あり。
 5. 10YR3/3 暗緑色シルト 粘性弱 IV現(φ 5mm)・IV粘・炭化物粘・白色粘・酸化鉄微量含む。
 6. 10YR4/2 灰黄褐色シルト質砂 粘性弱 砂少量、酸化鉄少量、白色粘微量含む。
 7. 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト 粘性弱 酸化鉄少量、砂少量、白色粘微量含む、S
 8. 10YR3/2 黒褐色砂 粘性なし 酸化鉄少量含む。
 9. 10YR3/2 黒褐色砂 粘性なし V現(φ 1cm)・IV粘微量含む。

第18図 4号溝跡平面図・断面図・エレベーション図



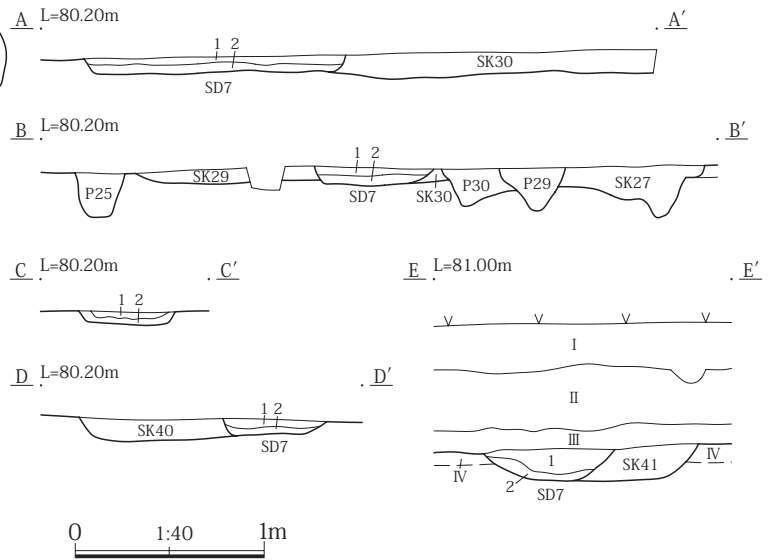
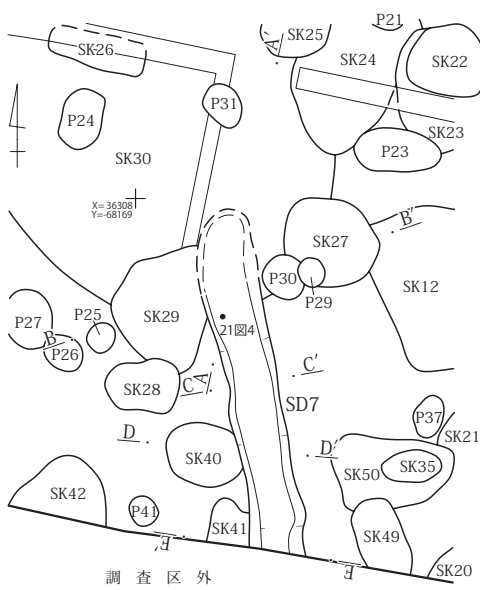
第 19 图 4 号沟迹出土遗物实测图

SD5・6



- SD5・6、P5 AA' ~ EE'
1. 10YR3/3 暗褐色シルト しまり強 粘性弱 炭化物粒・白色粒・酸化鉄微量含む。炭化物(φ 1cm)あり。SD5。
 2. 10YR3/3 暗褐色シルト しまり強 粘性弱 IV粒少量、白色粒・酸化鉄微量含む。SD5。
 3. 10YR3/3 暗褐色シルト しまり強 粘性弱 炭化物(φ 5mm)・白色粒微量、酸化鉄ごく微量含む。SD6。
 4. 10YR3/3 暗褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV塊(φ 5mm)・酸化鉄微量含む。約15cm四方の礫あり、礎石か。P5。

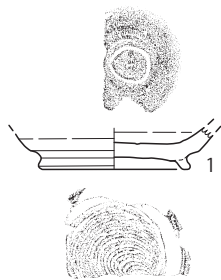
SD7



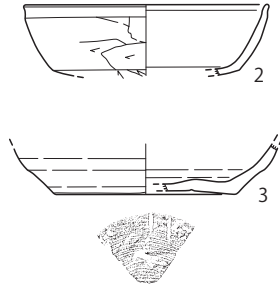
- SD7 AA' ~ EE'
1. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト しまり強 粘性中 IV粒多量、IV塊(φ 1cm)少量含む。
 2. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト しまり中 粘性強 IV粒少量、IV塊(φ 1cm)微量含む。

第20図 5号~7号溝跡平面図・断面図

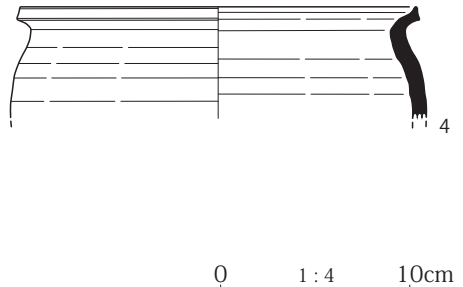
SD5



SD6

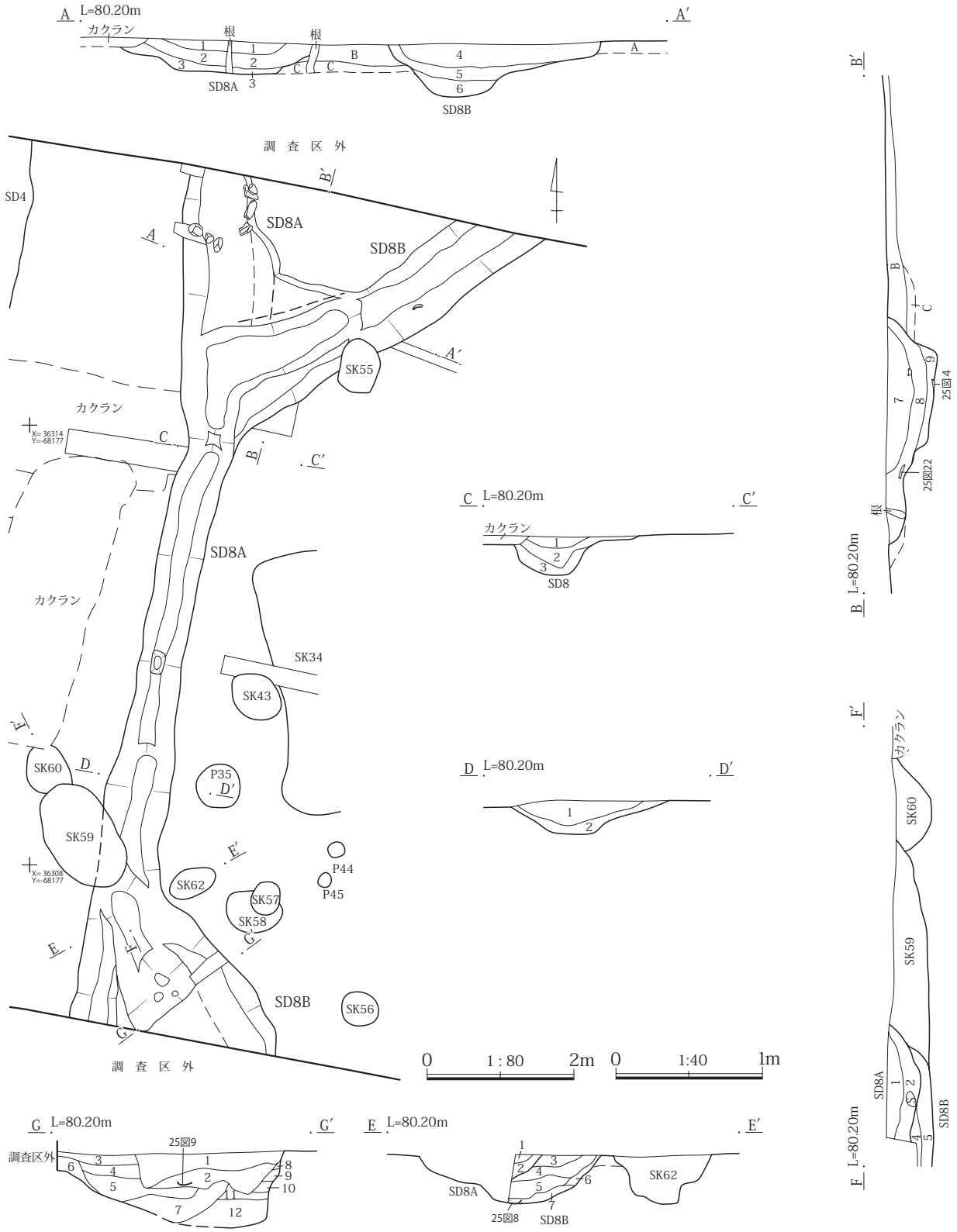


SD7



0 1:4 10cm

第21図 5号~7号溝跡出土遺物実測図



第22図 8号溝跡平面図・断面図①

石と2点の金属製品が出土し、そのうち土師器6点、須恵器8点、石製品2点、金属製品2点を図示した。土師器は甕・坏、須恵器は壺・甕・坏である。石製品の1点は緑泥片岩で板碑の部材か。もう1点は中央に穿孔と思われる窪みがあり、石塔の一部と思われる。金属製品は鉄製の鎌と銅製の銭貨である。銭貨は銘が皇宋通寶で、寶元・康定年間(1038年～1040年)鑄造の北宋銭である。備考 調査区中央部を南北に縦断する上端幅約3.5

SD 8 AA'・BB'

1. 10YR3/3 暗褐色シルト質砂 しまり強 粘性なし 白色粒微量含む。炭化物(φ 5mm)あり。SD 8 A。
2. 10YR3/3 暗褐色シルト質砂 しまり強 粘性なし IV塊(φ 1cm)・IV粒・白色粒(φ 5mm)・白色粒微量含む。炭化物(φ 5mm)あり。SD 8 A。
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV粒・酸化鉄少量、炭化物粒微量含む。SD 8 A。
4. 10YR3/3 暗褐色シルト しまり強 粘性弱 酸化鉄少量、炭化物(φ 1cm)・炭化物粒・焼土粒・白色粒(φ 5mm)微量含む。SD 8 B。
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト しまり強 粘性弱 酸化鉄多量、IV粒少量、炭化物(φ 5mm)・焼土粒・白色粒(φ 5mm)微量含む。SD 8 B。
6. 10YR3/3 暗褐色シルト しまり強 粘性弱 IV粒多量、酸化鉄少量、炭化物粒微量含む。SD 8 B。
7. 10YR3/3 暗褐色シルト しまり強 粘性弱 IV塊(φ 5mm)・炭化物(φ 1cm)・白色粒・酸化鉄微量含む。SD 8 B。
8. 10YR3/3 暗褐色シルト しまり強 粘性弱 IV粒少量、炭化物(φ 1cm)・酸化鉄微量、白色粒ごく微量含む。SD 8 B。
9. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト しまり強 粘性弱 IV粒多量、酸化鉄少量含む。SD 8 B。
- A. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト しまり強 粘性弱 白色粒・酸化鉄少量含む。IV層。
- B. 10YR3/3 暗褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV塊(φ 5mm)・IV粒・酸化鉄微量含む。IV層。
- C. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV粒・酸化鉄微量含む。IV層。

SD 8 CC'

1. 10YR3/3 暗褐色砂質土 しまり強 粘性なし 白色粒少量、酸化鉄微量含む。SD 8 A。
2. 10YR3/3 暗褐色砂質土 しまり強 粘性なし IV塊(φ 5mm)・IV粒・白色粒微量含む。SD 8 A。
3. 10YR3/3 暗褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV粒少量、IV塊(φ 5mm)・白色粒・酸化鉄微量含む。SD 8 A。

SD 8 DD'

1. 10YR3/3 暗褐色シルト質砂 しまり強 粘性なし 白色粒少量、IV粒微量含む。SD 8 A。
2. 10YR3/3 暗褐色シルト質砂 しまり強 粘性なし IV塊(φ 1cm)・白色粒・酸化鉄微量含む。SD 8 A。

SD 8 EE'・FF'

1. 10YR3/3 暗褐色砂質土 しまり強 粘性なし 白色粒少量、酸化鉄微量、焼土粒ごく微量含む。炭化物(φ 5mm)あり。SD 8 A。
2. 10YR3/2 黒褐色砂質土 しまり強 粘性なし IV塊(φ 5mm)・炭化物(φ 5mm)・白色粒・酸化鉄微量含む。SD 8 A。
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト しまり強 粘性なし 白色粒少量、酸化鉄微量含む。炭化物(φ 1cm)あり。SD 8 B。
4. 10YR3/2 黒褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV粒・炭化物粒少量、白色粒微量、焼土粒ごく微量含む。炭化物(φ 1cm)あり。SD 8 B。
5. 10YR3/2 黒褐色シルト しまり強 粘性弱 炭化物粒多量、IV粒少量、IV塊(φ 1cm)・炭化物(φ 1cm)・焼土粒微量含む。SD 8 B。
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト しまり強 粘性弱 IV粒多量、酸化鉄少量、炭化物粒微量含む。SD 8 B。
7. 10YR4/2 灰黄褐色シルト しまり強 粘性弱 IV粒多量含む。SD 8 B。

SD 8 GG'

1. 10YR3/2 黒褐色シルト しまり強 粘性弱 炭化物(φ 5mm)少量、炭化物(φ 1cm)・焼土粒(φ 3mm)・白色粒(φ 5mm)・白色粒・酸化鉄微量含む。SD 8 B。
2. 10YR3/3 暗褐色シルト しまり強 粘性弱 IV粒・酸化鉄少量、炭化物(φ 5mm)・炭化物粒・白色粒(φ 5mm)微量含む。SD 8 B。
3. 10YR3/3 暗褐色シルト しまり強 粘性弱 白色粒少量、炭化物粒・酸化鉄微量含む。SD 8 B。
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト しまり強 粘性弱 IV粒多量、炭化物粒・酸化鉄少量、白色粒微量含む。炭化物(φ 1cm)あり。SD 8 B。
5. 10YR3/1 黒褐色シルト しまり強 粘性中 炭化物粒多量、IV粒・酸化鉄少量、炭化物(φ 1cm)微量含む。SD 8 B。
6. 10YR3/2 黒褐色シルト しまり強 粘性中 IV粒・炭化物(φ 1cm)少量、炭化物粒・酸化鉄微量含む。SD 8 B。
7. 10YR4/2 灰黄褐色シルト しまり強 粘性弱 IV粒・酸化鉄多量、白色粒(φ 5mm)微量、炭化物粒ごく微量含む。SD 8 B。
8. 10YR3/3 暗褐色シルト しまり強 粘性弱 白色粒・酸化鉄微量含む。SD 8 B。
9. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV粒・酸化鉄少量含む。SD 8 B。
10. 10YR4/2 灰黄褐色シルト質砂 しまり強 粘性なし 酸化鉄微量含む。SD 8 B。
11. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質砂 しまり強 粘性なし IV粒多量、酸化鉄少量含む。SD 8 B。
12. 10YR3/3 暗褐色シルト質砂 しまり強 粘性なし 酸化鉄少量、IV粒・炭化物(φ 5mm)・白色粒微量含む。SD 8 B。

第 23 図 8号溝跡断面図②

m～4.0 m、深さ 70cmを測る大型の溝である。底面は東側が犬走り状に一段高くなっている。本遺構の東西で遺構分布の様相が異なることから、区画溝の可能性が考えられる。また、本遺跡の立地が河川に挟まれた水気が多い土地であることから、地面の湿気を取るための排水機能を兼ねていたと思われる。出土遺物は 8 世紀後半～9 世紀前半の土師器・須恵器がほとんどで、陶磁器は上層からわずかに出土するのみであることから、本遺構は 8 世紀後半頃から機能し、中世の段階にはほぼ完全に埋没していたと考えられる。

5号溝跡 (第 20・21 図、写真図版 4・10)

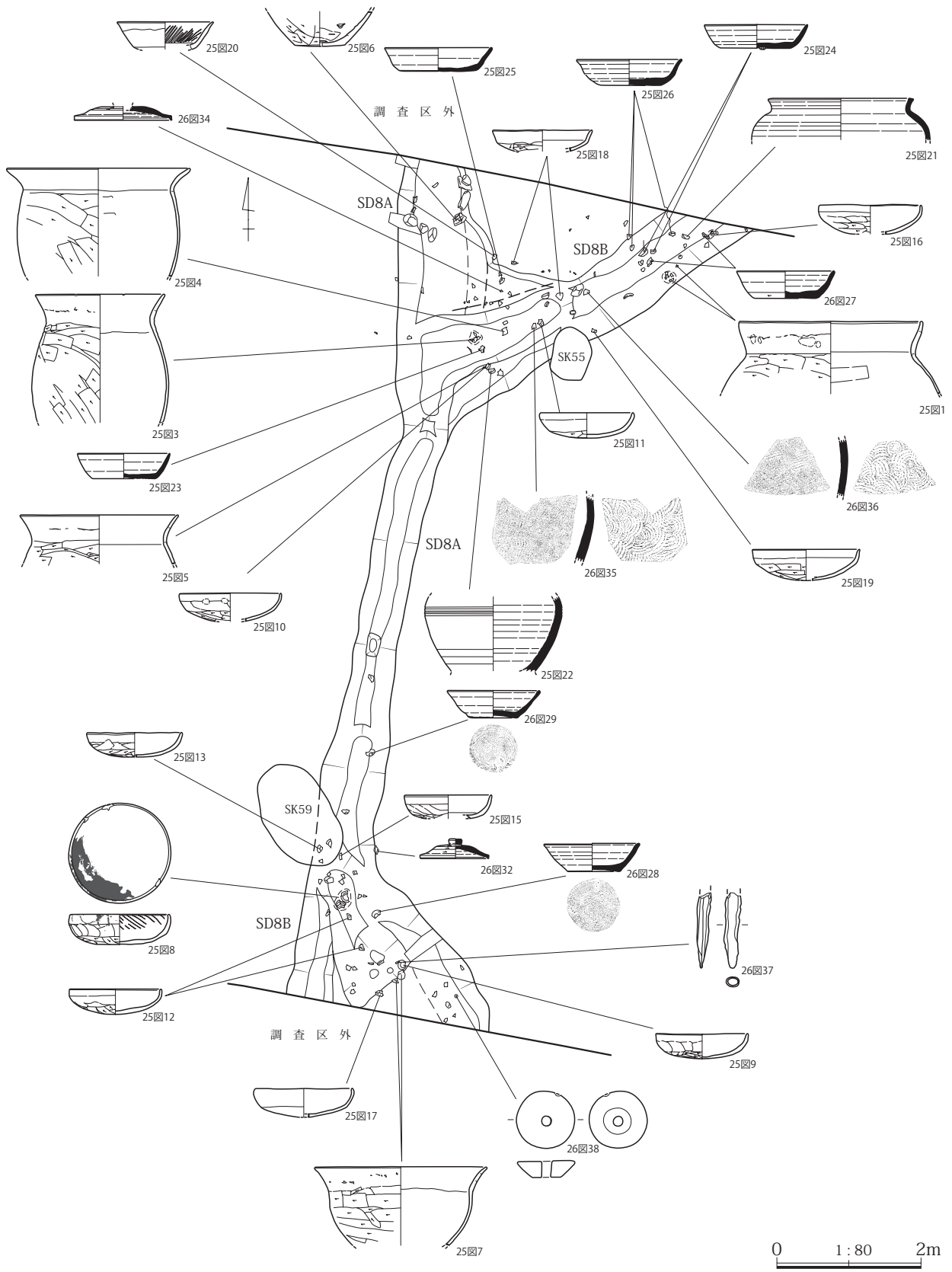
位置 調査区東部北側。 **重複関係** 6号溝跡、4号土坑と重複し、本遺構のほうが新しい。6号溝跡とは調査区東端部で交差する。 **遺存状態** 概ね良好で、南側・北側は調査区外にある。 **覆土** 暗褐色シルトが基調で、炭化物・白色粒を含む。 **規模** 長さは 4.91 m 遺存し、上端幅は 35cm～49cm、下端幅は 8cm～15cm、確認面からの深さは最深 16cmを測る。 **主軸方位** N-32°-W。 **遺物** 少量の土師器、微量の須恵器・石が出土し、そのうち須恵器高台環 1点を図示した。 **備考** 調査区北東隅部を北西-南東方向に走る溝跡であるが、遺構の性格は不明である。出土遺物から本遺構の帰属時期は 8 世紀後半～9 世紀前半と考えられる。

6号溝跡 (第 20・21 図、写真図版 4)

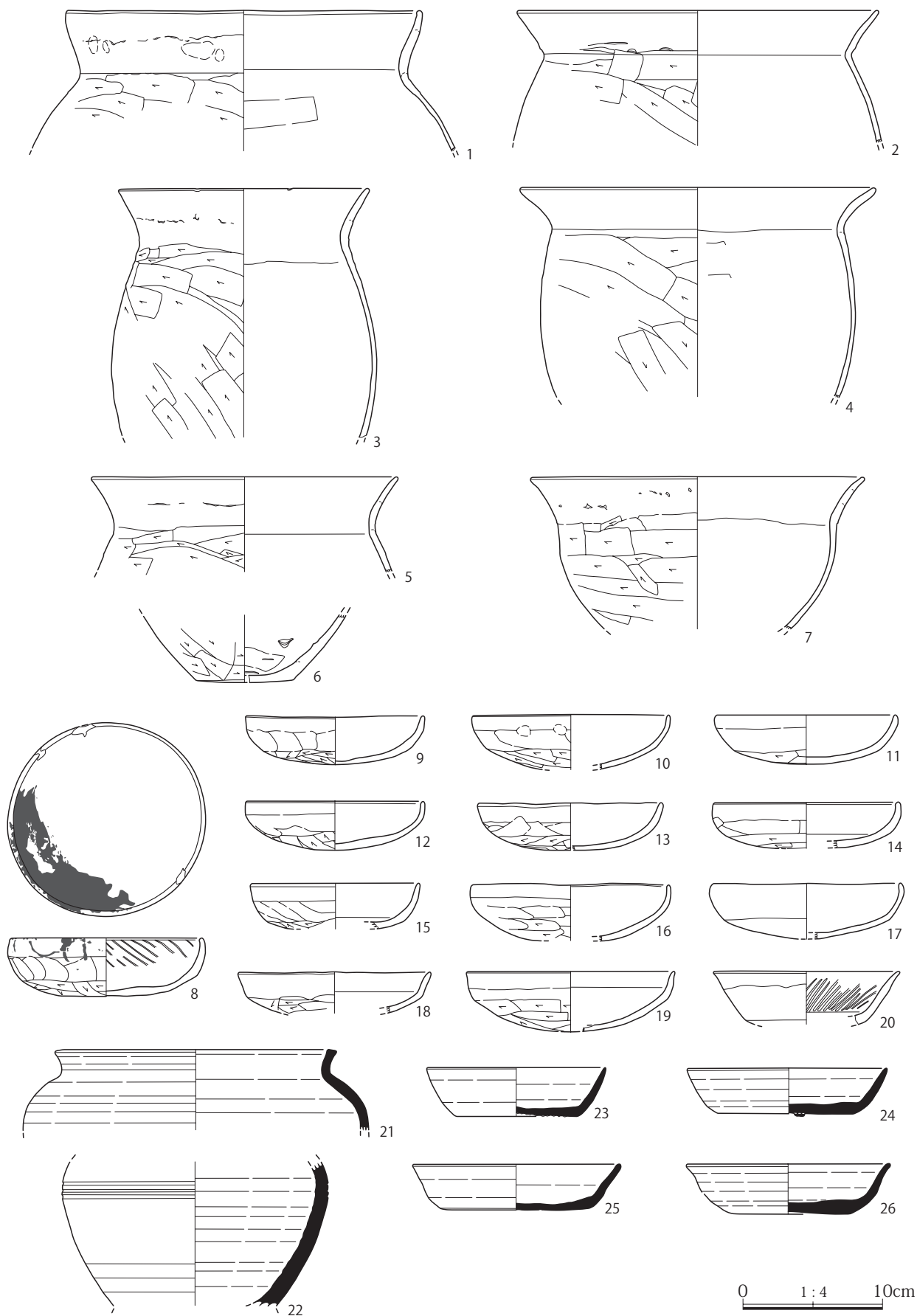
位置 調査区東部北側。 **重複関係** 5号溝跡、48号土坑と重複し、本遺構は 5号溝跡より古く、48号土坑よりも新しい。5号溝跡とは調査区東端部で交差する。 **遺存状態** 概ね良好で、東側は調査区外にある。 **覆土** 暗褐色シルトが堆積し、炭化物・白色粒を含む。 **規模** 長さは 4.86 m 遺存し、上端幅は 35cm～50cm、下端幅は 14cm～35cm、確認面からの深さは最深 7cmを測る。 **主軸方位** N-84°-E。 **遺物** 微量の土師器・須恵器・石が出土し、そのうち土師器環 1点、須恵器環 1点を図示した。 **備考** 調査区北東隅部を東西方向に走る溝跡であるが、本遺構の性格は不明である。出土遺物から本遺構の帰属時期は 8 世紀後半～9 世紀前半と考えられる。

7号溝跡 (第 20・21 図、写真図版 5)

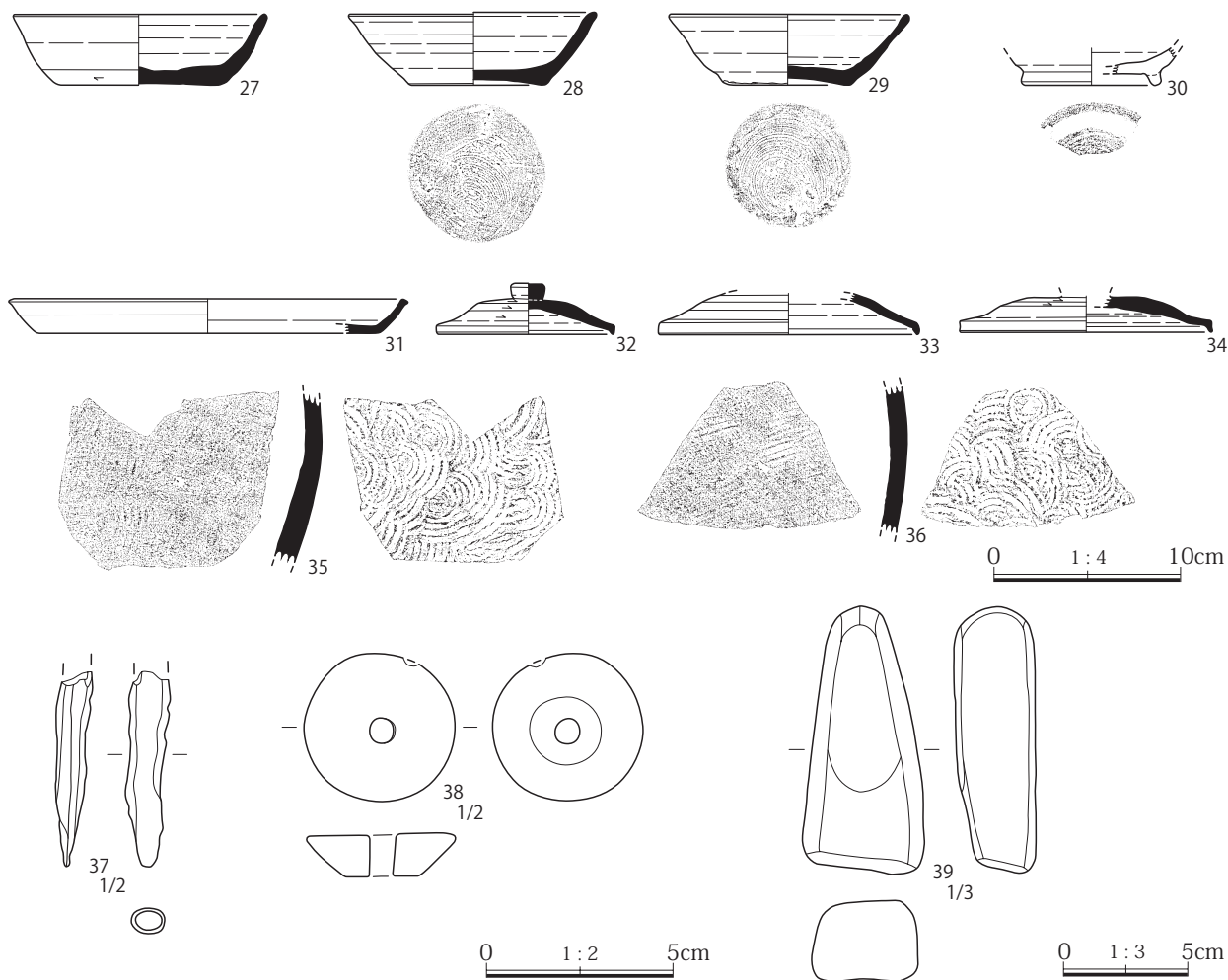
位置 調査区東部南側。 **重複関係** 29号・30号・40号・41号土坑と重複し、本遺構のほうが新しい。 **遺存状態** 概ね良好で、南側は調査区外にある。 **覆土** 黒褐色砂質シルトが堆積する。 **規模** 長さは 3.77 m 遺存し、上端幅は 50cm～65cm、下端幅は 18cm～45cm、確認面からの深さは最深 11cmを測る。 **主軸方位** N-11°-W。 **遺物** 微量の土師器・須恵器・石が出土し、そのうち須恵器環 1点を図示した。 **備考** 調



第 24 図 8 号溝跡遺物出土状況図



第 25 图 8 号沟迹出土遗物实测图①



第26図 8号溝跡出土遺物実測図②

査区東部を南北方向に走る溝跡であるが、本遺構の性格は不明である。出土遺物から本遺構の帰属時期は8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

8号溝跡（第22～26図、写真図版5・10）

位置 調査区中央部。 **重複遺構** 55号・59号土坑と重複し、本遺構は55号土坑より古く、59号土坑よりも新しい。 **遺存状態** 重複遺構及びカクランによって一部が壊されているが概ね良好で、南側・北側は調査区外にある。南北方向に走る溝と、その溝の南北2か所から東へ派生する2条の溝があり、それらを一連のものと判断した。全体で8号溝跡とし、南北の溝跡をA、東側へ派生する溝跡をB北・B南とした。 **覆土** 8号溝跡Aは暗褐色が基調で、北側の下層にはにぶい黄褐色、南側の下層には黒褐色があり、土質はシルト質砂、砂質シルト、砂質土が堆積する。8号溝跡B北は暗褐色シルトが基調で、にぶい黄褐色シルトが中層・下層に堆積する。8号溝跡B南はやや様相が異なり、黒褐色が基調で、上層・下層ににぶい黄褐色・灰黄褐色があり、土質は上層・中層に砂質シルト、下層にシルトが堆積する。南端部は黒褐色、暗褐色、にぶい黄褐色・灰黄褐色が互層をなしており、土質はシルト、砂質シルト、シルト質砂が堆積する。 **規模** 8号溝跡Aは長さ11.64m遺存し、上端幅は56cm～113cm、下端幅は13cm～64cm、確認面からの深さは最深26cmを測る。8号溝跡B北は長さ5.32m遺存し、上端幅は91cm～145cm、下端幅は34cm～60cm、確認面からの深さは最深36cmを測る。8号溝跡B南は長さ3.22m遺存し、上端幅は77cm～168cm、下端幅は35cm～121cm、確認面からの深さは最深51cmを測る。

主軸方位 8号溝跡AはN-10°-E、8号溝跡B北はN-62°-E、8号溝跡B南はN-34°-W。 **遺物** 多量の土師器、少量の須恵器、石製品・石、微量の金属製品が出土し、遺存度の高いものが多く見られる。こ

これらの遺物は河川の氾濫によって流されてきたものが溝内に溜まったものと考えられる。そのうち、土師器20点、須恵器17点、鉄製品1点、石製品2点を図示した。土師器は甕・鉢・坏があり、漆塗りの道具と考えられる内面に漆が付着したほぼ完形の土師器坏（第25図8）が出土している。須恵器は壺・甕・坏・高台坏・盤・蓋である。鉄製品は釘、石製品は紡錘車・砥石である。 **備考** 調査区中央部を南北に縦断し、調査区南北端部付近で東側に分岐する溝跡である。分岐する2条の溝跡の遺物出土状況が似ていることから、すべてを一連の溝跡と判断した。8号溝跡Aは中央部が一番低く、8号溝跡Bは南北ともに8号溝跡A側が低くなっている。水が流れる構造にはなっていないことから、本遺構は区画溝ではないかと考えられる。出土遺物とその出土状況から8世紀後半～9世紀代に機能し、氾濫によって埋没したのと考えられる。

9号溝跡（第16・17図）

位置 調査区西部南側。 **重複遺構** なし。 **遺存状態** 概ね良好で、南側は調査区外にある。 **覆土** 上層は暗褐色砂質土、下層はにぶい黄褐色シルト質砂が堆積する。 **規模** 長さは直線で1.47 m遺存し、上端幅は31cm～38cm、下端幅は8cm～19cm、確認面からの深さは最深23cmを測る。 **主軸方位** 北端部はN-27°-E、南部はN-0°。 **遺物** 微量の土師器・須恵器が出土し、そのうち土師器坏1点を図示した。 **備考** 調査区西部を南北方向に走る溝跡で、北端部がわずかに東へ屈曲する。本遺構の性格は不明である。出土遺物から本遺構の帰属時期は8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

第4節 土坑

今回の発掘調査では、62基の土坑が確認された。調査区西部で3基、調査区東部で59基が確認され、分布状況に偏りが見られる。これらの土坑の大半は出土した遺物から竪穴建物跡とほぼ同時期の8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

1号土坑（第27・33図、写真図版5）

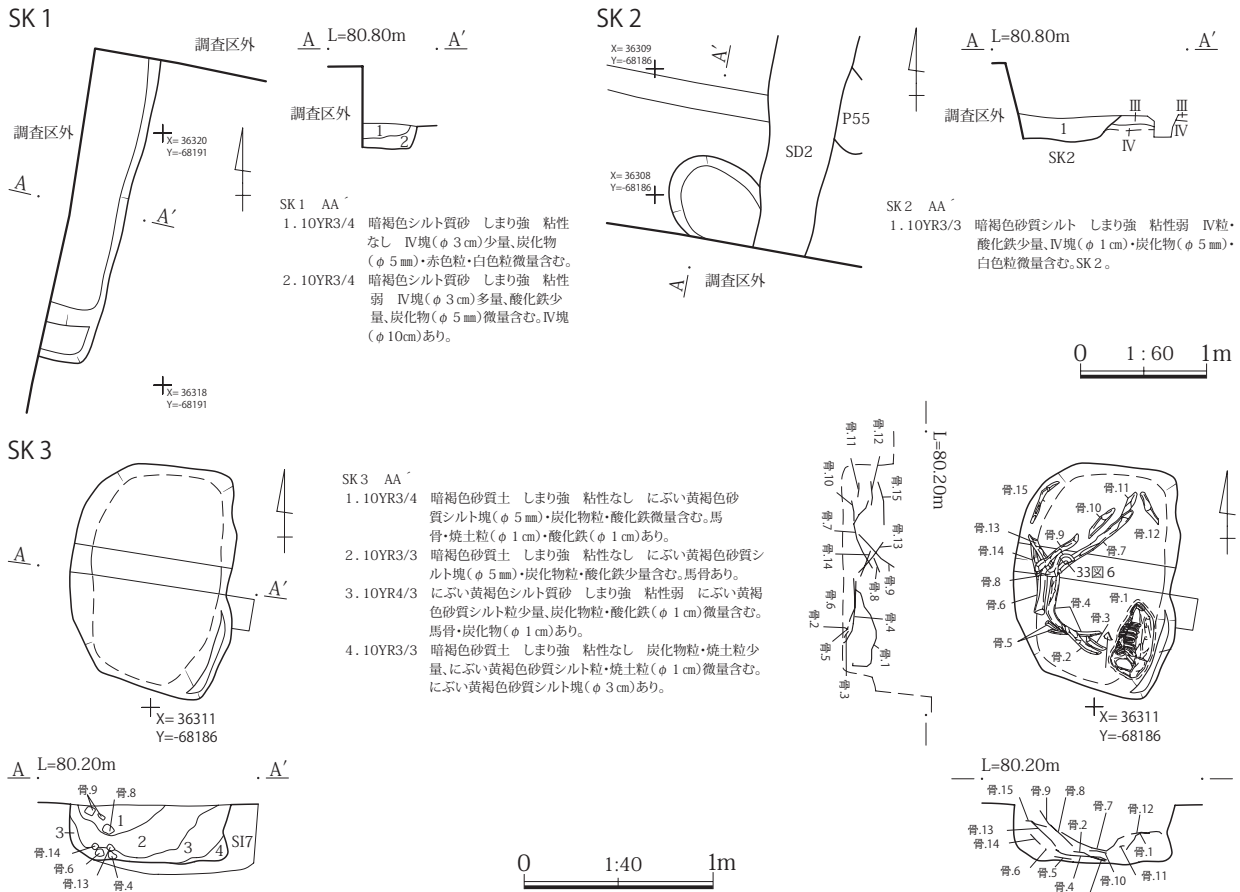
位置 調査区西部北側。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 南東部のみが確認され、その他は調査区外にあるが概ね良好。 **覆土** 暗褐色シルト質砂が堆積する。 **平面形と規模** 大半が調査区外にあるため不明であるが、平面形は長方形を呈すると思われる。規模は長軸2.48 m遺存、短軸0.57 m遺存、確認面からの深さ20cmを測る。 **長軸方位** N-10°-E。 **壁面** 東壁はほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** 土師器が出土し、そのうち坏1点を図示した。 **備考** 本遺構は大半が調査区外にあるため遺構の性格は判断できなかった。帰属時期は出土遺物から8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

2号土坑（第27・33図、写真図版5）

位置 調査区西部南側。 **重複関係** 2号溝跡と重複し、本遺構のほうが古い。 **遺存状態** 南側は調査区外にあり、東側は2号溝跡によって壊されている。 **覆土** 暗褐色砂質シルトが堆積する。 **平面形と規模** 平面形は楕円形を呈すると思われる。規模は長軸0.88 m遺存し、短軸0.69 m、確認面からの深さ18cmを測る。 **長軸方位** N-42°-W。 **壁面** 北壁は緩やかに立ち上がる。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜する。 **遺物** 土師器・須恵器が出土し、そのうち土師器坏1点、須恵器短頸壺1点を図示した。 **備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は出土遺物から8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

3号土坑（第27・33図、写真図版6・10）

位置 調査区西部南側。 **重複関係** 7号竪穴建物跡と重複し、本遺構のほうが新しい。 **遺存状態** 概ね良好。 **覆土** 暗褐色砂質土とにぶい黄褐色シルト質砂が交互に堆積する。 **平面形と規模** 平面形は不整長方形を呈する。規模は長軸1.22 m、短軸0.89 m、確認面からの深さ31cmを測る。 **長軸方位** N-6°-E。



第 27 図 1号～3号土坑平面図・断面図、3号土坑馬骨・遺物出土状況図

壁面 ほぼ垂直に立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 土師器・須恵器が出土し、そのうち土師器2点、須恵器2点を図示した。土師器は甕・坏、須恵器は坏・蓋である。本遺構から出土した遺物が7号竪穴建物跡と接合していることから、今回図示した遺物も7号竪穴建物跡の遺物であった可能性が高い。また、底面付近から覆土上層で馬の頭骨及び四肢と思われる骨が出土した。頭骨(No.1)は底面付近から出土し、北を向いた状態である。底面付近から出土した四肢骨(No.2～6・10・11)は概ね水平状態で、中層から上層で出土した四肢骨(No.7～9・12～15)は中央に向かって傾斜した状態のものが大半である。四肢と思われる骨が多いこと及び出土状況から、最初に底面付近に埋葬された1頭と次に中層～上層に埋葬された1頭の2頭の馬が埋葬されたと思われる。そして頭骨と四肢骨の位置関係が通常の状態とは異なることから、解体された馬が埋葬されたと考えられる。**備考** 本遺構は馬の骨が出土したことから、馬の埋葬土坑であることが確認された。帰属時期は埋没した7号竪穴建物跡を掘り込んで造られていることから7号竪穴建物跡よりも新しい9世紀後半以降と考えられるが、明確な時期は不明である。

4号土坑 (第28・29図、写真図版4)

位置 調査区東部北側。**重複関係** 5号溝跡と重複し、本遺構のほうが古い。**遺存状態** 東側が5号溝跡によって壊されている。**覆土** 上層は暗褐色砂質シルト、下層はにぶい黄褐色砂質シルトが堆積する。**平面形と規模** 平面形は不整形を呈すると思われる。規模は長軸0.75m遺存、短軸0.41m遺存し、確認面からの深さ22cmを測る。**長軸方位** N-36°-W。**壁面** 緩やかに立ち上がる。**底面** 中央部が一段低くなる。**遺物** 土師器・須恵器が出土したが、図示し得る遺物はなかった。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は土師器・須恵器が出土していることから、周囲の遺構と同時期の8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

5号土坑（第28・29図、写真図版4）

位置 調査区東部北側。**重複関係** 6号土坑と重複し、本遺構のほうが古い。**遺存状態** 東側が6号土坑によって壊されている。**覆土** 上層は暗褐色シルト質砂、下層は灰黄褐色シルトが堆積する。**平面形と規模** 平面形は不整形を呈すると思われる。規模は長軸0.75 m、短軸0.39 m遺存、確認面からの深さ13cmを測る。**長軸方位** N-55°-W。**壁面** 緩やかに立ち上がる。**底面** 西側で1箇所窪むが概ね平坦である。**遺物** 土師器・須恵器が出土したが、図示し得る遺物はなかった。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は土師器・須恵器が出土していることから、周囲の遺構と同時期の8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

6号土坑（第28・29図、写真図版4）

位置 調査区東部北側。**重複関係** 5号土坑と重複し、本遺構のほうが新しい。**遺存状態** 概ね良好。**覆土** 暗褐色シルト質砂が堆積する。**平面形と規模** 平面形は不整形を呈する。規模は長軸0.79 m、短軸0.66 m、確認面からの深さ23cmを測る。**長軸方位** N-51°-W。**壁面** 非常に緩やかに立ち上がる。**底面** 中央部が1段低くなる。**遺物** 土師器・須恵器が出土したが、図示し得る遺物はなかった。**備考** 本遺構は形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は土師器・須恵器が出土していることから、周囲の遺構と同時期の8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

7号土坑（第28・29図、写真図版4）

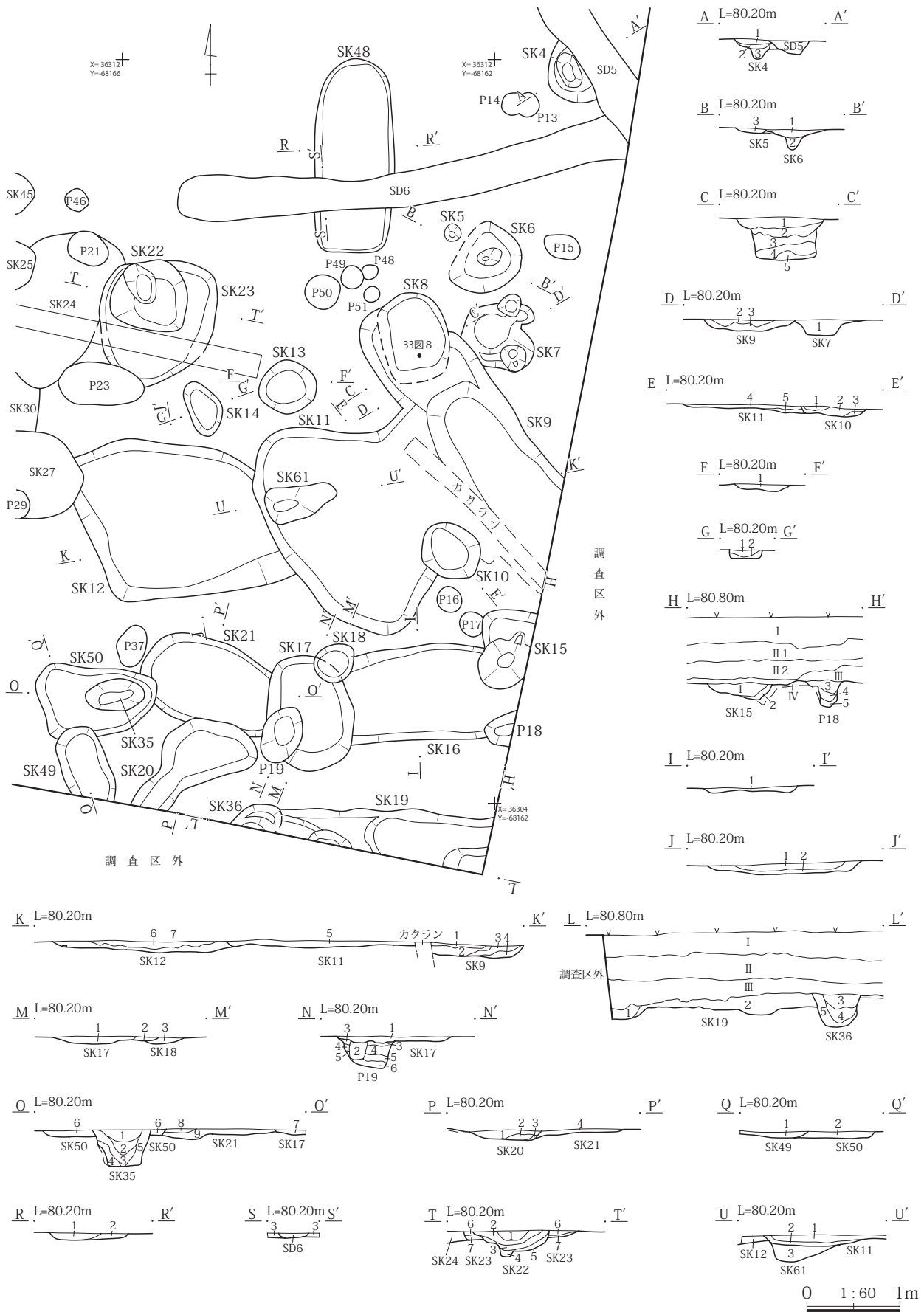
位置 調査区東部南側。**重複関係** 9号土坑と重複し、本遺構のほうが古い。**遺存状態** 概ね良好。**覆土** 暗褐色砂が堆積する。**平面形と規模** 平面形は不整形を呈する。規模は長軸0.82 m、短軸0.80 m、確認面からの深さ17cmを測る。**長軸方位** N-75°-W。**壁面** 緩やかに立ち上がる。**底面** 外縁に小さな窪みが複数見られる。**遺物** 土師器が出土しているが、図示し得る遺物はなかった。**備考** 本遺構は形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は土師器が出土していることから、周囲の遺構と同時期の8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

8号土坑（第28・29・33図、写真図版6・10）

位置 調査区東部南側。**重複関係** 9号土坑と重複し、本遺構のほうが新しい。**遺存状態** 概ね良好。**覆土** 上層は暗褐色砂・砂質シルト・シルトが、下層は黒褐色・暗褐色砂質シルトが堆積する。**平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸0.97 m、短軸0.73 m、確認面からの深さ46cmを測る。**長軸方位** N-14°-W。**壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 土師器・須恵器・灰釉陶器・石製品が出土し、そのうち灰釉陶器高台杯1点、砥石1点、叩き石1点を図示した。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は出土した灰釉陶器から9世紀後半～10世紀代と考えられる。

9号土坑（第28・29・33図、写真図版6・10）

位置 調査区東部南側。**重複関係** 7号・8号・11号土坑と重複し、8号土坑より古く、7号・11号土坑よりも新しい。**遺存状態** 南東側は調査区外にあるが概ね良好。**覆土** 北側は上層が暗褐色砂、下層は灰黄褐色シルトが堆積し、南側は黒褐色と暗褐色が交互に堆積し、土質は砂・シルト質砂・シルトである。**平面形と規模** 南東側が調査区外にあるため全容は不明であるが、平面形は長方形を呈すると思われる。規模は長軸3.44 m遺存、短軸0.98 m、確認面からの深さ13cmを測る。**長軸方位** N-39°-W。**壁面** 緩やかに立ち上がる。**底面** 北端部が一段高く、南側は概ね平坦である。**遺物** 土師器・須恵器が出土し、そのうち土師器1点、須恵器5点を図示した。土師器は坏、須恵器は壺・坏・蓋である。**備考** 本遺構は細長い平面形で南東側が一段低くなっているが、性格を判断することはできなかった。帰属時期は出土遺物から8世紀後半～9



第28図 4号~23号・35号・36号・48号~50号・61号土坑平面図・断面図①

- SK4 AA[┌]
1. 10YR3/3 暗褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV粒・炭化物(φ 5mm)・酸化鉄少量、白色粒微量含む。
 2. 10YR3/3 暗褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV粒・酸化鉄少量、炭化物(φ 5mm)・白色粒微量含む。
 3. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV粒多量、酸化鉄微量含む。
- SK5・6 BB[┌]
1. 10YR3/3 暗褐色シルト質砂 しまり強 粘性弱 IV粒・炭化物(φ 5mm)・炭化物粒・橙色粒微量含む。SK6。
 2. 10YR3/3 暗褐色シルト質砂 しまり強 粘性弱 IV塊(φ 5mm)・白色粒・酸化鉄少量、炭化物粒微量含む。SK6。
 3. 10YR3/3 暗褐色シルト質砂 しまり強 粘性弱 白色粒少量、IV塊(φ 5mm)・炭化物(φ 5mm)・炭化物粒微量含む。SK5。
- SK8 CC[┌]
1. 10YR3/3 暗褐色砂 しまり強 粘性なし 白色粒少量、IV塊(φ 1cm)・炭化物粒・酸化鉄微量含む。
 2. 10YR3/3 暗褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV塊(φ 1cm)・IV粒・酸化鉄少量、白色粒微量含む。炭化物(φ 1cm)あり。
 3. 10YR3/3 暗褐色シルト しまり強 粘性中 IV塊(φ 1cm)少量、IV粒・酸化鉄微量含む。
 4. 10YR4/2 黒褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV粒少量、炭化物(φ 5mm)・酸化鉄微量含む。
 5. 10YR3/3 暗褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV粒多量、酸化鉄少量含む。
- SK7・9 DD[┌]
1. 10YR3/3 暗褐色砂 しまり強 粘性なし 酸化鉄少量、IV粒・炭化物粒・白色粒微量含む。白色粒(φ 5mm)あり。SK7。
 2. 10YR3/3 暗褐色砂 しまり強 粘性なし IV塊(φ 1cm)・IV粒少量、炭化物粒・酸化鉄微量含む。SK9。
 3. 10YR4/2 灰黄褐色シルト しまり強 粘性弱 炭化物粒少量、IV塊(φ 1cm)・白色粒・酸化鉄微量含む。SK9。
- SK10・11 EE[┌]
1. 10YR3/2 黒褐色砂 しまり強 粘性なし 白色粒微量含む。SK10。
 2. 10YR3/3 暗褐色シルト質砂 しまり強 粘性弱 IV粒少量、炭化物(φ 5mm)・白色粒・酸化鉄微量含む。SK10。
 3. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV粒多量、酸化鉄微量含む。SK10。
 4. 10YR3/2 黒褐色砂 しまり強 粘性なし IV粒・白色粒少量、IV塊(φ 1cm～φ 3cm)・炭化物(φ 5mm)・酸化鉄微量含む。SK11。
 5. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV粒多量、酸化鉄微量含む。SK11。
- SK13 FF[┌]
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト しまり強 粘性弱 IV塊(φ 1cm)・IV粒少量、白色粒微量含む。
- SK14 GG[┌]
1. 10YR3/3 暗褐色シルト しまり強 粘性弱 IV粒少量、炭化物粒・白色粒・酸化鉄微量、白色粒ごく微量含む。
 2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト しまり強 粘性弱 IV粒多量、酸化鉄少量含む。
- SK15・P18 HH[┌]
1. 10YR3/2 黒褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV塊(φ 5mm)・炭化物(φ 5mm)・白色粒・酸化鉄微量含む。SK15。
 2. 10YR4/2 灰黄褐色シルト しまり強 粘性中 IV粒少量、酸化鉄微量含む。SK15。
 3. 10YR3/2 黒褐色シルト質砂 しまり強 粘性なし IV塊(φ 1cm)少量、IV粒・白色粒微量含む。P18。
 4. 10YR3/2 黒褐色シルト質砂 しまり強 粘性なし IV塊(φ 1cm)・IV粒・炭化物粒・白色粒微量含む。P18。
 5. 10YR3/3 暗褐色シルト質砂 しまり強 粘性なし IV粒多量、IV塊(φ 5mm)少量、白色粒ごく微量含む。P18。
- SK16 II[┌]
1. 10YR3/3 暗褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV塊(φ 5mm)・炭化物粒・白色粒微量含む。
- SK12 JJ[┌]
1. 10YR3/3 暗褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 炭化物(φ 5mm)・白色粒・酸化鉄微量含む。炭化物(φ 1cm)あり。
 2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト しまり強 粘性中 IV粒少量、IV塊(φ 5mm)・白色粒・酸化鉄微量含む。炭化物(φ 1cm)あり。
- SK9・11・12 KK[┌]
1. 10YR3/2 黒褐色砂 しまり強 粘性なし 酸化鉄微量含む。炭化物(φ 5mm)あり。SK9。
 2. 10YR3/3 暗褐色シルト質砂 しまり強 粘性弱 IV粒少量、IV塊(φ 1cm)・炭化物粒微量含む。SK9。
 3. 10YR3/2 黒褐色シルト しまり強 粘性中 IV粒少量、炭化物粒・白色粒微量含む。SK9。
 4. 10YR3/4 暗褐色シルト しまり強 粘性中 IV粒多量、酸化鉄少量含む。SK9。
 5. 10YR3/2 黒褐色砂 しまり強 粘性なし IV粒・白色粒少量、IV塊(φ 1cm～φ 3cm)・炭化物(φ 5mm)・酸化鉄微量含む。SK11。
 6. 10YR3/3 暗褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 炭化物(φ 5mm)・白色粒・酸化鉄微量含む。炭化物(φ 1cm)あり。SK12。
 7. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト しまり強 粘性弱 IV粒少量、IV塊(φ 5mm)・白色粒・酸化鉄微量含む。炭化物(φ 1cm)あり。SK12。

- SK19・36 LL[┌]
1. 10YR3/2 黒褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV粒・炭化物粒微量含む。SK19。
 2. 10YR3/3 暗褐色シルト しまり強 粘性中 炭化物粒少量、IV塊(φ 5mm)・IV粒・炭化物(φ 5mm)・焼土粒微量含む。SK19。
 3. 10YR3/2 黒褐色シルト質砂 しまり強 粘性なし IV塊(φ 1cm)少量含む。SK36。
 4. 10YR3/2 黒褐色シルト質砂 しまり強 粘性なし IV塊(φ 3cm)多量、IV粒少量、炭化物粒微量含む。SK36。
 5. 10YR3/3 暗褐色シルト質砂 しまり強 粘性なし IV粒多量、IV塊(φ 1cm)・炭化物粒・酸化鉄微量含む。SK36。
- SK17・18 MM[┌]
1. 10YR3/3 暗褐色砂 しまり強 粘性なし 白色粒少量、白色粒(φ 5mm)・酸化鉄微量含む。SK17。
 2. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV粒少量、炭化物粒微量含む。焼土粒(φ 5mm)あり。SK17。
 3. 10YR3/3 暗褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV粒・炭化物粒微量含む。炭化物(φ 5mm)あり。SK18。
- SK17・P19 NN[┌]
1. 10YR3/3 暗褐色砂 しまり強 粘性なし 白色粒少量、白色粒(φ 5mm)・酸化鉄微量含む。SK17。
 2. 10YR3/2 黒褐色砂 しまり中 粘性なし IV粒・酸化鉄微量含む。P19。
 3. 10YR3/3 暗褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV粒・白色粒微量含む。炭化物(φ 5mm)あり。P19。
 4. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV粒少量、IV塊(φ 1cm)・炭化物粒・酸化鉄微量含む。P19。
 5. 10YR3/3 暗褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV粒微量含む。P19。
 6. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト しまり強 粘性弱 IV粒少量含む。P19。
- SK17・21・35・50 OO[┌]
1. 10YR3/3 暗褐色砂質土 しまり強 粘性なし IV粒・炭化物粒・白色粒(φ 5mm)・白色粒微量含む。SK35。
 2. 10YR3/3 暗褐色シルト質砂 しまり強 粘性なし IV塊(φ 5mm)・白色粒少量、酸化鉄微量含む。白色粒(φ 5mm)あり。SK35。
 3. 10YR3/2 黒褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV粒少量、白色粒微量含む。IV塊(φ 3cm)あり。SK35。
 4. 10YR3/3 暗褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV粒多量、炭化物粒微量含む。SK35。
 5. 10YR3/3 暗褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV粒多量、白色粒微量含む。SK35。
 6. 10YR3/3 暗褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV粒少量、白色粒微量含む。SK50。
 7. 10YR3/3 暗褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV粒・炭化物粒微量含む。SK17。
 8. 10YR4/2 灰黄褐色シルト しまり強 粘性弱 IV粒・炭化物粒少量、白色粒・酸化鉄微量含む。SK21。
 9. 10YR3/3 暗褐色砂質土 しまり強 粘性なし IV粒少量、炭化物粒・白色粒微量含む。SK21。
- SK20・21 PP[┌]
1. 10YR3/3 暗褐色シルト しまり強 粘性弱 炭化物(φ 1cm)あり。SK20。
 2. 10YR3/2 黒褐色シルト しまり強 粘性強 SK20。
 3. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト しまり強 粘性強 SK20。
 4. 10YR3/3 暗褐色シルト しまり強 粘性強 SK21。
- SK49・50 QQ[┌]
1. 10YR3/2 黒褐色シルト しまり強 粘性中 IV粒・炭化物(φ 1cm)・炭化物粒微量含む。SK49。
 2. 10YR3/3 暗褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV粒少量、白色粒微量含む。SK50。
- SK48・SD6 RR[┌]・SS[┌]
1. 10YR3/3 暗褐色シルト しまり強 粘性弱 IV塊(φ 1cm)・IV粒少量、炭化物(φ 5mm)・炭化物粒・酸化鉄微量含む。SK48。
 2. 10YR4/4 褐色シルト しまり強 粘性弱 IV粒多量、酸化鉄少量含む。SK48。
 3. 10YR3/3 暗褐色シルト しまり強 粘性弱 IV粒多量、炭化物粒少量、酸化鉄微量含む。SK48。
- SK22・23 TT[┌]
1. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト しまり弱 粘性弱 IV塊(φ 5mm)・IV粒少量含む。SK22。
 2. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト しまり弱 粘性中 IV塊(φ 5mm)・IV粒多量含む。SK22。
 3. 10YR2/1 黒色砂質シルト しまり中 粘性中 IV塊(φ 5mm)・IV粒微量含む。SK22。
 4. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト しまり中 粘性中 IV粒多量、IV塊(φ 5mm)少量含む。SK22。
 5. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト しまり弱 粘性中 IV粒微量含む。SK22。
 6. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト しまり弱 粘性中 IV粒微量含む。SK23。
 7. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト しまり中 粘性中 IV粒少量含む。SK23。
- SK11・61 UU[┌]
1. 10YR3/2 黒褐色砂 しまり強 粘性なし IV粒・白色粒少量、IV塊(φ 1cm～φ 3cm)・炭化物(φ 5mm)・酸化鉄微量含む。SK11。
 2. 10YR3/2 黒褐色シルト質砂 しまり強 粘性弱 IV粒微量、酸化鉄ごく微量含む。SK11。
 3. 10YR2/2 黒褐色砂質土 しまり強 粘性なし IV塊(φ 1cm)少量、IV粒微量含む。SK61。

第29図 4号～23号・35号・36号・48号～50号・61号土坑断面図②

世紀前半と考えられる。

10号土坑 (第28・29図、写真図版6)

位置 調査区東部南側。 **重複関係** 11号土坑と重複し、本遺構のほうが新しい。 **遺存状態** 概ね良好。
覆土 上層は黒褐色砂、中層は暗褐色シルト質砂、下層はにぶい黄褐色砂質シルトが堆積する。 **平面形と規模** 平面形は不整形円形を呈する。規模は長軸0.68m、短軸0.61m、確認面からの深さ9cmを測る。 **長軸方位** N-37°-W。 **壁面** 緩やかに立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** 土師器・須恵器が出土したが、図示し得る遺物はなかった。 **備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は土師器・須恵器が出土していることから、周囲の遺構と同時期の8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

11号土坑 (第28・29・33図、写真図版6)

位置 調査区東部南側。 **重複関係** 9号・10号・12号・61号土坑と重複し、本遺構は9号・10号土坑より古く、12号・61号土坑よりも新しい。 **遺存状態** 東側、南側の一部が重複遺構によって壊されている。
覆土 上層は暗褐色砂質シルト、下層はにぶい黄褐色砂質シルトが堆積する。 **平面形と規模** 平面形は東側が

狭い瓢箪形状を呈すると思われる。規模は長軸 1.97 m 遺存、短軸 2.53 m、確認面からの深さ 8 cm を測る。

長軸方位 N-55°-E。**壁面** 非常に緩やかに立ち上がる。**底面** 南側に向かってわずかに傾斜するが概ね平坦である。**遺物** 土師器・須恵器が出土し、そのうち土師器坏 1 点を図示した。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は出土遺物から 8 世紀後半～9 世紀前半と考えられる。

12 号土坑 (第 28・29・33 図、写真図版 6・10)

位置 調査区東部南側。**重複関係** 11 号・27 号土坑と重複し、本遺構のほうが古い。**遺存状態** 東側、西側の一部が重複遺構によって壊されている。**覆土** 上層は暗褐色砂質シルト、下層はにぶい黄褐色シルトが堆積する。**平面形と規模** 平面形は不整楕円形を呈すると思われる。規模は長軸 2.67 m 遺存、短軸 1.82 m、確認面からの深さ 13 cm を測る。**長軸方位** N-75°-W。**壁面** 緩やかに立ち上がる。**底面** 中央に向かってわずかに傾斜するが概ね平坦である。**遺物** 土師器・須恵器・石が出土し、そのうち土師器坏 2 点を図示した。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は出土遺物から 8 世紀後半～9 世紀前半と考えられる。

13 号土坑 (第 28・29 図、写真図版 6)

位置 調査区東部南側。**重複関係** なし。**遺存状態** 概ね良好。**覆土** にぶい黄褐色シルトが堆積する。**平面形と規模** 平面形は不整円形を呈する。規模は長軸 0.64 m、短軸 0.57 m、確認面からの深さ 8 cm を測る。**長軸方位** N-77°-E。**壁面** 西側は外傾して立ち上がり、東側は緩やかに立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 土師器・須恵器が出土しているが、図示し得る遺物はなかった。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は土師器・須恵器が出土していることから、周囲の遺構と同時期の 8 世紀後半～9 世紀前半と考えられる。

14 号土坑 (第 28・29 図、写真図版 6)

位置 調査区東部南側。**重複遺構** なし。**遺存状態** 概ね良好。**覆土** 上層は暗褐色シルト、下層はにぶい黄褐色シルトが堆積する。**平面形と規模** 平面形は不整楕円形を呈する。規模は長軸 0.50 m、短軸 0.37 m、確認面からの深さ 9 cm を測る。**長軸方位** N-22°-W。**壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 土師器が出土しているが、図示し得る遺物はなかった。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は土師器が出土していることから、周囲の遺構と同時期の 8 世紀後半～9 世紀前半と考えられる。

15 号土坑 (第 28・29 図、写真図版 6)

位置 調査区東部南側。**重複遺構** 16 号土坑、17 号ピットと重複し、本遺構のほうが新しい。**遺存状態** 東側が調査区外にあるが、概ね良好。**覆土** 上層は黒褐色砂質シルト、下層は灰黄褐色シルトが堆積する。**平面形と規模** 平面形は不整形を呈すると思われる。規模は長軸 0.93 m 遺存、短軸 0.75 m 遺存、確認面からの深さ 18 cm を測る。**長軸方位** N-40°-E。**壁面** 緩やかに立ち上がる。**底面** 南側に向かって傾斜する。**遺物** 土師器・須恵器が出土しているが、図示し得る遺物はなかった。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は土師器・須恵器が出土していることから、周囲の遺構と同時期の 8 世紀後半～9 世紀前半と考えられる。

16 号土坑 (第 28・29 図、写真図版 6)

位置 調査区東部南側。**重複関係** 15 号・17 号・18 号土坑、18 号ピットと重複し、本遺構のほうが古い。**遺存状態** 東側は調査区外にあり、西壁、北壁・南壁の一部が重複遺構によって壊されている。**覆土** 暗褐

色砂質シルトが堆積する。**平面形と規模** 西壁が壊され、東側は調査区外にあるため全容は不明であるが、平面形は楕円形または長方形を呈すると思われる。規模は長軸 1.90 m 遺存、短軸 1.03 m、確認面からの深さ 6 cm を測る。**長軸方位** N-86°-E。**壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 中央部から外側にわずかに傾斜する。**遺物** 土師器・須恵器が出土しているが、図示し得る遺物はなかった。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は土師器・須恵器が出土していることから、周囲の遺構と同時期の 8 世紀後半～9 世紀前半と考えられる。

17 号土坑（第 28・29 図、写真図版 6）

位置 調査区東部南側。**重複関係** 16 号・18 号・21 号土坑、19 号ピットと重複し、本遺構のほうが新しい。**遺存状態** 古い遺構のほうが深いのが概ね良好。**覆土** 上層は暗褐色砂、下層はにぶい黄褐色砂質シルトが堆積する。**平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸 1.26 m、短軸 0.96 m、確認面からの深さ 8 cm を測る。**長軸方位** N-5°-W。**壁面** 非常に緩やかに立ち上がる。**底面** 細かい凹凸が見られるが概ね平坦である。**遺物** 土師器・須恵器が出土しているが、図示し得る遺物はなかった。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は土師器・須恵器が出土していることから、周囲の遺構と同時期の 8 世紀後半～9 世紀前半と考えられる。

18 号土坑（第 28・29 図、写真図版 6）

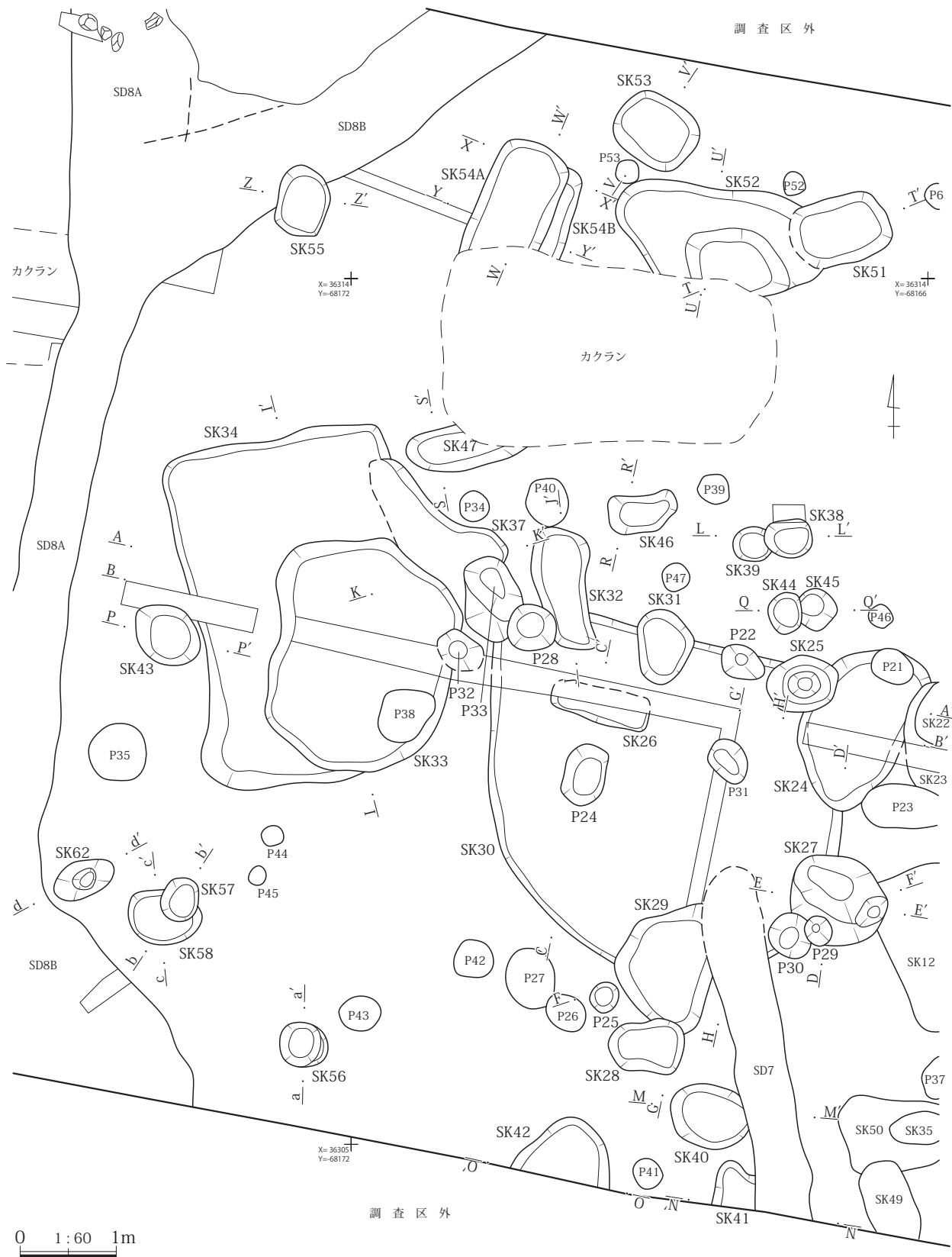
位置 調査区東部南側。**重複関係** 16 号・17 号土坑と重複し、本遺構は 17 号土坑より古く、16 号土坑よりも新しい。**遺存状態** 重複遺構によって一部が壊されているが概ね良好。**覆土** 暗褐色砂質シルトが堆積する。**平面形と規模** 平面形は不整形を呈する。規模は長軸 0.47 m、短軸 0.40 m、確認面からの深さ 7 cm を測る。**長軸方位** N-50°-E。**壁面** 非常に緩やかに立ち上がる。**底面** 中央に向かって傾斜する。**遺物** 土師器・須恵器が出土しているが、図示し得る遺物はなかった。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は土師器・須恵器が出土していることから、周囲の遺構と同時期の 8 世紀後半～9 世紀前半と考えられる。

19 号土坑（第 28・29・33 図、写真図版 6・10）

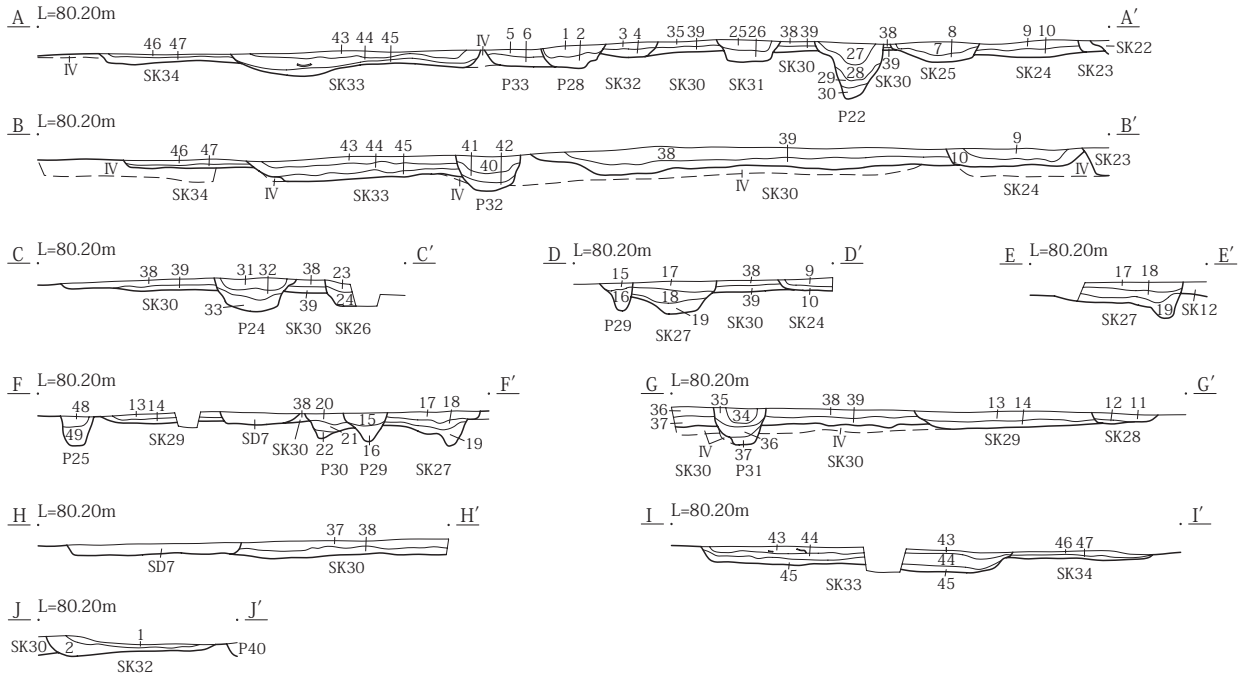
位置 調査区東部南側。**重複関係** 36 号土坑と重複し、本遺構のほうが古い。**遺存状態** 東側・南側が調査区外にあり、西側は重複遺構によって壊されている。**覆土** 東側は黒褐色砂質シルト、中央から西側は暗褐色シルトが堆積する。**平面形と規模** 大半が調査区外にあるため全容は不明である。規模は長軸 2.32 m 遺存、短軸 0.66 m 遺存、確認面からの深さ 21 cm を測る。**長軸方位** N-87°-W。**壁面** 緩やかに立ち上がる。**底面** 東側に向かって傾斜する。**遺物** 土師器・須恵器が出土し、そのうち土師器坏 2 点を図示した。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は出土遺物から 8 世紀後半～9 世紀前半と考えられる。

20 号土坑（第 28・29 図、写真図版 7・11）

位置 調査区東部南側。**重複関係** 21 号土坑と重複し、本遺構のほうが新しい。**遺存状態** 南側が調査区外にあるが概ね良好。**覆土** 上層は暗褐色シルト、中層は黒褐色シルト、下層はにぶい黄褐色シルトが堆積する。**平面形と規模** 南側が調査区外にあるため全容は不明であるが、平面形は南側が狭い不整形を呈すると思われる。規模は長軸 1.44 m 遺存、短軸 0.88 m、確認面からの深さ 11 cm を測る。**長軸方位** N-46°-E。**壁面** 非常に緩やかに立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 土師器・須恵器が出土し、そのうち須恵器坏・高台坏の 2 点を図示した。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は出土遺物から 8 世紀後半～9 世紀前半と考えられる。



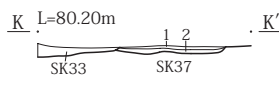
第30図 24号~34号・37号~47号・51号~58号・62号土坑平面図



SK24~34・P22・24・25・28~33 AA'~JJ'

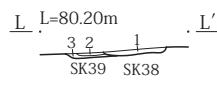
1. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト しまり中 粘性中 IV塊(φ 5mm)・IV粒微量含む。P28。
2. 10YR2/1 黒色砂質シルト しまり中 粘性中 IV塊(φ 5mm)微量含む。P28。
3. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV塊(φ 5mm)少量含む。SK32。
4. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト しまり中 粘性中 IV塊(φ 5mm)微量含む。SK32。
5. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV塊(φ 1cm)少量含む。P33。
6. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト しまり弱 粘性中 IV塊(φ 1cm)・炭化物粒微量含む。P33。
7. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト しまり中 粘性中 IV塊(φ 5mm)少量含む。SK25。
8. 10YR2/1 黒色砂質シルト しまり強 粘性中 IV塊(φ 5mm)微量含む。SK25。
9. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト しまり弱 粘性弱 焼土粒少量、IV塊(φ 5mm)微量含む。SK24。
10. 10YR3/2 黒褐色砂質シルト しまり弱 粘性中 IV粒・焼土粒微量含む。SK24。
11. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV粒微量含む。SK28。
12. 10YR2/1 黒色砂質シルト しまり中 粘性弱 IV塊(φ 5mm)・IV粒少量含む。SK28。
13. 10YR4/1 褐色シルト質砂 しまり弱 粘性弱 IV塊(φ 5mm)微量含む。SK29。
14. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト しまり中 粘性中 IV塊(φ 5mm)少量含む。SK29。
15. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト しまり弱 粘性中 IV粒少量、IV塊(φ 5mm)微量含む。P29。
16. 10YR2/3 黒褐色砂質シルト しまり中 粘性中 IV塊(φ 5mm)少量、IV粒微量含む。P29。
17. 10YR2/1 黒色砂質シルト しまり強 粘性中 IV塊(φ 5mm)・IV粒・炭化物(φ 5mm)・白色粒・酸化鉄微量含む。SK27。
18. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト しまり中 粘性中 IV粒少量、IV塊(φ 5mm)・白色粒・酸化鉄微量含む。SK27。
19. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト しまり弱 粘性強 IV塊(φ 5mm)・IV粒・炭化物粒・白色粒・酸化鉄微量含む。SK27。
20. 10YR2/1 黒色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV塊(φ 5mm)少量含む。P30。
21. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト しまり中 粘性中 IV塊(φ 5mm)微量含む。P30。
22. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト しまり中 粘性中 IV塊(φ 5mm)少量含む。P30。
23. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト しまり中 粘性中 IV塊(φ 5mm)微量含む。SK26。
24. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト しまり弱 粘性中 IV塊(φ 5mm)少量含む。SK26。

25. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト しまり中 粘性中 IV塊(φ 5mm)・IV粒微量含む。SK31。
26. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト しまり弱 粘性中 IV塊(φ 5mm)少量、IV粒微量含む。SK31。
27. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト しまり弱 粘性中 IV粒微量含む。P22。
28. 10YR2/1 黒色砂質シルト しまり中 粘性中 IV塊(φ 1cm)少量、IV粒微量含む。P22。
29. 10YR1.7/1 黒色砂質シルト しまり強 粘性強 IV塊(φ 1cm)微量含む。P22。
30. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト しまり弱 粘性強 IV塊(φ 5mm)微量含む。P22。
31. 10YR2/1 黒色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV塊(φ 5mm)少量、IV粒微量含む。P24。
32. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト しまり強 粘性中 IV塊(φ 1cm)・炭化物粒少量含む。P24。
33. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト しまり中 粘性中 IV塊(φ 5mm)多量含む。P24。
34. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト しまり強 粘性中 P31。
35. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト しまり強 粘性中 IV塊(φ 1cm)少量、IV粒・炭化物粒微量含む。P31。
36. 10YR2/1 黒色砂質シルト しまり中 粘性中 IV塊(φ 5mm)微量含む。P31。
37. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV粒微量含む。P31。
38. 10YR2/1 黒色砂質シルト しまり中 粘性弱 IV塊(φ 5mm)少量含む。SK30。
39. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト しまり弱 粘性弱 IV塊(φ 5mm)多量、IV粒・炭化物粒少量含む。SK30。
40. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV塊(φ 1cm)・IV粒少量含む。P32。
41. 10YR2/1 黒色砂質シルト しまり中 粘性弱 IV塊(φ 1cm)・IV粒少量含む。P32。
42. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト しまり中 粘性中 IV粒微量含む。P32。
43. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 SK33。
44. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト しまり中 粘性弱 IV粒少量、IV塊(φ 5cm)・炭化物粒微量含む。SK33。
45. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト しまり中 粘性中 IV塊(φ 1cm)・炭化物粒少量含む。SK33。
46. 10YR2/1 黒色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV塊(φ 5mm)少量含む。SK34。
47. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV塊(φ 5mm)多量含む。SK34。
48. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV塊(φ 1cm)・炭化物粒微量含む。P25。
49. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト しまり弱 粘性中 IV塊(φ 1cm)少量含む。P25。



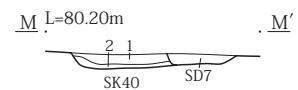
SK37 KK'

1. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト しまり中 粘性中 IV粒微量含む。
2. 10YR4/1 褐色砂質シルト しまり弱 粘性中 IV粒少量含む。



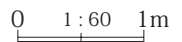
SK38-39 LL'

1. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV塊(φ 5mm)・IV粒少量含む。SK38。
2. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト しまり中 粘性弱 IV粒少量、IV塊(φ 5mm)微量含む。SK39。
3. 10YR2/1 黒色砂質シルト しまり中 粘性弱 IV塊(φ 5mm)・IV粒微量含む。SK39。



SK40 MM'

1. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト しまり強 粘性中 IV塊(φ 5mm)少量、IV粒微量含む。
2. 10YR2/1 黒色砂質シルト しまり中 粘性強 IV塊(φ 5mm)微量含む。



第31図 24号~34号・37号~40号土坑、22号・24号・25号・28号~33号ピット断面図

21号土坑 (第28・29・33図、写真図版7・11)

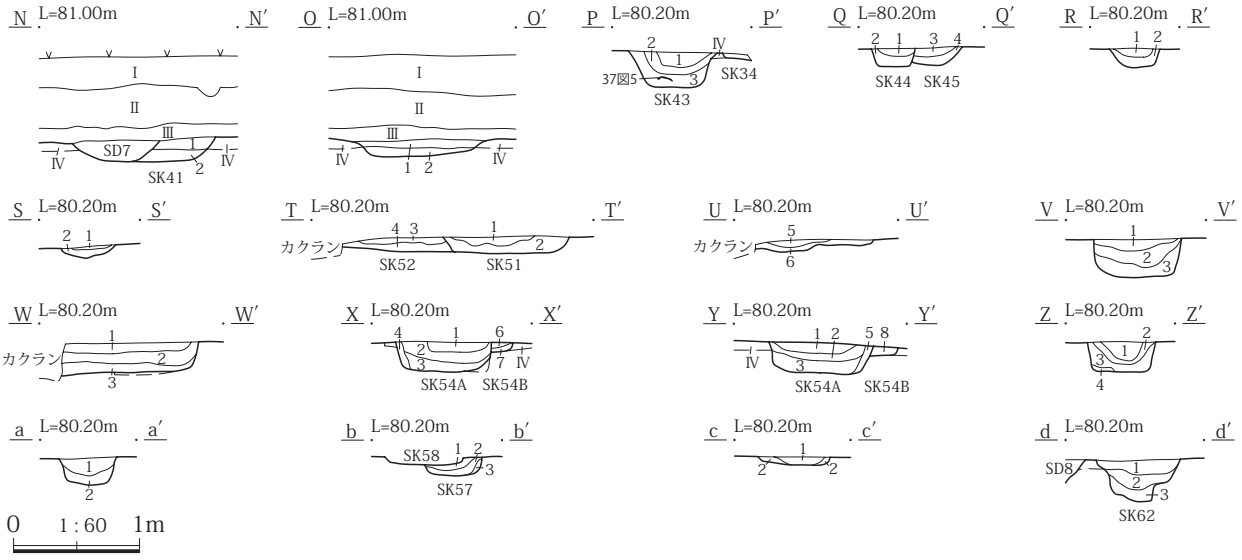
位置 調査区東部南側。 **重複関係** 17号・20号・50号土坑、19号ピットと重複し、本遺構のほうが古い。

遺存状態 東側、南側の一部が重複遺構によって壊されている。 **覆土** 暗褐色シルトが堆積する。 **平面形**

と規模 平面形は楕円形を呈すると思われる。規模は長軸 1.46 m遺存、短軸 0.93 m、確認面からの深さ 5 cm

を測る。 **長軸方位** N-72°-W。 **壁面** 非常に緩やかに立ち上がる。 **底面** 南側に向かってわずかに傾

斜する。 **遺物** 土師器・須恵器・金属製品が出土し、そのうち土師器甕 1点、須恵器坏 1点、鉄製品 1点を図



- SK41 N N'
1. 10YR2/1 黒色砂質シルト しまり中 粘性中 IV塊(φ5mm)微量含む。
 2. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト しまり強 粘性中 IV塊(φ1cm)大量、IV粒微量含む。
- SK42 O O'
1. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト しまり強 粘性強 IV粒少量、IV塊(φ5mm)微量含む。
 2. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト しまり弱 粘性強 IV塊(φ5mm)少量含む。
- SK43 P P'
1. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト しまり弱 粘性弱 IV塊(φ5mm)・IV粒微量含む。
 2. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト しまり中 粘性中 IV塊(φ5mm)少量含む。
 3. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト しまり弱 粘性中 IV塊(φ5mm)微量含む。
- SK44・45 Q Q'
1. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV塊(φ1cm)微量含む。SK44。
 2. 10YR2/3 黒褐色砂質シルト しまり中 粘性弱 IV塊(φ1cm)多量含む。SK44。
 3. 10YR3/2 黒褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV塊(φ1cm)少量含む。SK45。
 4. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト しまり弱 粘性中 IV塊(φ1cm)多量含む。SK45。
- SK46 R R'
1. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV塊(φ5mm)微量含む。
 2. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト しまり中 粘性弱 IV塊(φ5mm)・IV粒少量含む。
- SK47 S S'
1. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV塊(φ5mm)少量、IV粒微量含む。
 2. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト しまり弱 粘性中 IV塊(φ1cm)多量含む。
- SK51-52 T T'・U U'
1. 10YR3/3 暗褐色砂質土 しまり強 粘性なし IV粒・白色粒微量含む。IV塊(φ1cm)あり。SK51。
 2. 10YR3/3 暗褐色砂質土 しまり強 粘性なし IV粒多量、IV塊(φ1cm)少量、酸化鉄微量含む。SK51。
 3. 10YR3/3 暗褐色砂質土 しまり強 粘性なし IV塊(φ5mm)微量含む。SK52。
 4. 10YR3/3 暗褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV塊(φ1cm)・IV粒少量、酸化鉄微量含む。SK52。
 5. 10YR3/3 暗褐色砂質土 しまり強 粘性なし IV粒・酸化鉄微量含む。SK52。
 6. 10YR3/3 暗褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV粒多量、酸化鉄少量、炭化物粒微量含む。SK52。
- SK53 V V'
1. 10YR3/3 暗褐色シルト質砂 しまり強 粘性弱 IV塊(φ3cm)多量、IV粒・酸化鉄少量、白色粒微量含む。
 2. 10YR3/3 暗褐色シルト質砂 しまり強 粘性弱 IV塊(φ1cm)少量、IV粒・炭化物粒・白色粒微量含む。
 3. 10YR3/3 暗褐色砂質土 しまり強 粘性なし IV塊(φ1cm)・黄褐色砂少量、IV粒・橙色粒微量含む。

- SK54 W W' ~ Y Y'
1. 10YR3/3 暗褐色砂質土 しまり強 粘性なし 褐色砂多量、IV塊(φ1cm)・IV粒・酸化鉄微量含む。SK54A。
 2. 10YR3/3 暗褐色砂質土 しまり強 粘性なし IV塊(φ1cm)・IV粒・酸化鉄少量、炭化物粒・白色粒微量含む。SK54A。
 3. 10YR3/2 黒褐色シルト質砂 しまり強 粘性なし IV塊(φ1cm)・褐色砂塊(φ5cm)・炭化物粒微量含む。SK54A。
 4. 10YR3/3 暗褐色シルト質砂 しまり強 粘性なし 褐色砂多量、炭化物粒・酸化鉄微量含む。SK54A。
 5. 10YR4/6 褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 褐色砂多量、酸化鉄少量含む。SK54A。
 6. 10YR3/3 暗褐色砂質土 しまり強 粘性なし IV粒・酸化鉄微量含む。SK54B。
 7. 10YR3/3 暗褐色砂質土 しまり強 粘性なし IV粒少量、酸化鉄微量含む。SK54B。
 8. 10YR3/3 暗褐色砂質土 しまり強 粘性なし IV粒多量、酸化鉄微量含む。白色粒(φ5mm)あり。SK54B。
- SK55 Z Z'
1. 10YR3/3 暗褐色砂質土 しまり強 粘性なし IV粒・酸化鉄少量、白色粒微量含む。
 2. 10YR3/3 暗褐色シルト質砂 しまり強 粘性なし IV塊(φ1cm)・白色粒微量、IV粒・酸化鉄ごく微量含む。
 3. 10YR3/3 暗褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV塊(φ1cm)・IV粒少量、酸化鉄微量含む。IV塊(φ3cm)・炭化物(φ5mm)あり。
 4. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト しまり強 粘性中 酸化鉄微量含む。
- SK56 a a'
1. 10YR3/3 暗褐色シルト しまり強 粘性弱 炭化物(φ5mm)・炭化物粒少量、IV塊(φ5mm)・IV粒・粘土粒・白色粒・酸化鉄微量含む。
 2. 10YR3/2 黒褐色シルト しまり強 粘性弱 IV粒少量、炭化物(φ5mm)・焼土粒・酸化鉄微量含む。
- SK57 b b'
1. 10YR3/3 暗褐色シルト しまり強 粘性弱 炭化物(φ5mm)・白色粒・酸化鉄微量含む。
 2. 10YR3/3 暗褐色シルト しまり強 粘性弱 IV粒・炭化物(φ5mm)少量、酸化鉄微量含む。
 3. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト しまり強 粘性弱 IV粒・酸化鉄多量含む。
- SK58 c c'
1. 10YR3/3 暗褐色シルト しまり強 粘性弱 IV粒少量、炭化物粒・白色粒・酸化鉄微量含む。
 2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト しまり強 粘性弱 IV粒多量、炭化物粒・酸化鉄少量含む。
- SK62 d d'
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV粒少量、IV塊(φ1cm)・炭化物(φ5mm)・白色粒(φ5mm)・白色粒・酸化鉄微量含む。
 2. 10YR3/4 暗褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV粒・炭化物粒・白色粒(φ5mm)・酸化鉄微量含む。炭化物(φ1cm)あり。
 3. 10YR3/3 暗褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV塊(φ5mm)・炭化物粒・白色粒・酸化鉄微量含む。

第32図 41号～47号・51号～58号・62号土坑断面図

示した。備考 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は出土遺物から8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

22号土坑 (第28・29・33・34図、写真図版6・11)

位置 調査区東部南側。重複関係 23号土坑と重複し、本遺構のほうが新しい。遺存状態 概ね良好。

覆土 黒褐色砂質シルトと黒色砂質シルトが交互に堆積する。平面形と規模 平面形は不整円形を呈する。規模は長軸0.85m、短軸0.84m、確認面からの深さ28cmを測る。長軸方位 N-43°-W。壁面 外傾して立ち上がる。底面 東側にテラスを有し一段低くなる。遺物 土師器・須恵器が出土し、そのうち須恵器高台坏1点を図示した。この遺物は24号土坑出土遺物と接合する。備考 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は出土遺物から8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

23号土坑（第28・29・33・34図、写真図版6・11）

位置 調査区東部南側。**重複関係** 22号・24号土坑、23号ピットと重複し、本遺構は22号土坑、23号ピットより古く、24号土坑よりも新しい。**遺存状態** 北側・南側の一部が重複遺構によって壊されている。**覆土** 黒褐色砂質シルトが堆積する。**平面形と規模** 平面形は不整円形を呈する。規模は長軸1.41m遺存、短軸1.30m、確認面からの深さ7cmを測る。**長軸方位** N-37°-E。**壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 土師器・須恵器が出土し、そのうち須恵器1点を図示した。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は出土遺物から8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

24号土坑（第30・31・33・34図、写真図版6）

位置 調査区東部南側。**重複状況** 23号・25号・30号土坑、21号・23号ピットと重複し、23号・25号土坑、21号・23号ピットより古く、30号土坑よりも新しい。**遺存状態** 重複遺構によって部分的に壊されている。**覆土** 黒褐色砂質シルトが堆積する。**平面形と規模** 平面形は不整楕円形を呈する。規模は長軸1.75m、短軸1.13m遺存、確認面からの深さ14cmを測る。**長軸方位** N-20°-E。**壁面** 緩やかに立ち上がる。**底面** 中央に向かってわずかに傾斜する。**遺物** 土師器・須恵器が出土し、そのうち土師器甕1点、須恵器環1点を図示した。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は出土遺物から8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

25号土坑（第30・31・34・35図、写真図版6・11）

位置 調査区東部南側。**重複関係** 24号・30号土坑と重複し、本遺構のほうが新しい。**遺存状態** 概ね良好。**覆土** 上層は黒褐色砂質シルト、下層は黒色砂質シルトが堆積する。**平面形と規模** 平面形は不整楕円形を呈する。規模は長軸0.76m、短軸0.59m、確認面からの深さ15cmを測る。**長軸方位** N-81°-E。**壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 中央に向かって傾斜する。**遺物** 土師器・須恵器が出土し、そのうち須恵器環1点を図示した。この須恵器は24号・38号土坑出土遺物と接合する。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は出土遺物から8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

26号土坑（第30・31図、写真図版6）

位置 調査区東部南側。**重複関係** 30号土坑と重複し、本遺構のほうが新しい。**遺存状態** 概ね良好。**覆土** 黒褐色砂質シルトが堆積する。**平面形と規模** 平面形は長方形を呈する。規模は長軸1.05m、短軸0.39m、確認面からの深さ21cmを測る。**長軸方位** N-77°-W。**壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 土師器・須恵器が出土しているが、図示し得る遺物はなかった。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は土師器・須恵器が出土していることから、周囲の遺構と同時期の8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

27号土坑（第30・31・34・35図、写真図版6）

位置 調査区東部南側。**重複関係** 12号・30号土坑、29号・30号ピットと重複し、本遺構は29号・30号ピットより古く、12号・30号土坑よりも新しい。**遺存状態** 西側の一部が重複遺構によって壊されている。**覆土** 上層は黒色砂質シルト、下層は黒褐色砂質シルトが堆積する。**平面形と規模** 平面形は不整円形を呈する。規模は長軸1.05m、短軸0.97m遺存、確認面からの深さは28cmを測る。**長軸方位** N-61°-W。**壁面** 急角度で立ち上がる。**底面** 東側へ傾斜し、東端部が一段低くなる。**遺物** 土師器・須恵器が出土し、須恵器環1点を図示した。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は出土遺物から8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

28号土坑（第30・31図、写真図版6）

位置 調査区東部南側。**重複関係** 29号土坑と重複し、本遺構のほうが新しい。**遺存状態** 概ね良好。**覆土** 上層は黒褐色砂質シルト、下層は黒色砂質シルトが堆積する。**平面形と規模** 平面形は不整楕円形を呈する。規模は長軸0.80 m、短軸0.57 m、確認面からの深さ8 cmを測る。**長軸方位** N-90°。**壁面** 急角度で立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 土師器・須恵器が出土しているが、図示し得る遺物はなかった。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は土師器・須恵器が出土していることから、周囲の遺構と同時期の8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

29号土坑（第30・31・34・35図、写真図版6）

位置 調査区東部南側。**重複関係** 28号・30号土坑、7号溝跡と重複し、28号土坑、7号溝跡より古く、30号土坑よりも新しい。**遺存状態** 東側・南側の一部が重複遺構によって壊されている。**覆土** 黒褐色砂質シルトが堆積する。**平面形と規模** 平面形は不整楕円形を呈する。規模は長軸1.33 m遺存、短軸1.04 m、確認面からの深さ8 cmを測る。**長軸方位** N-14°-E。**壁面** 緩やかに立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 土師器・須恵器が出土し、そのうち須恵器環1点を図示した。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は出土遺物から8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

30号土坑（第30・31・34・35図、写真図版6・7・11）

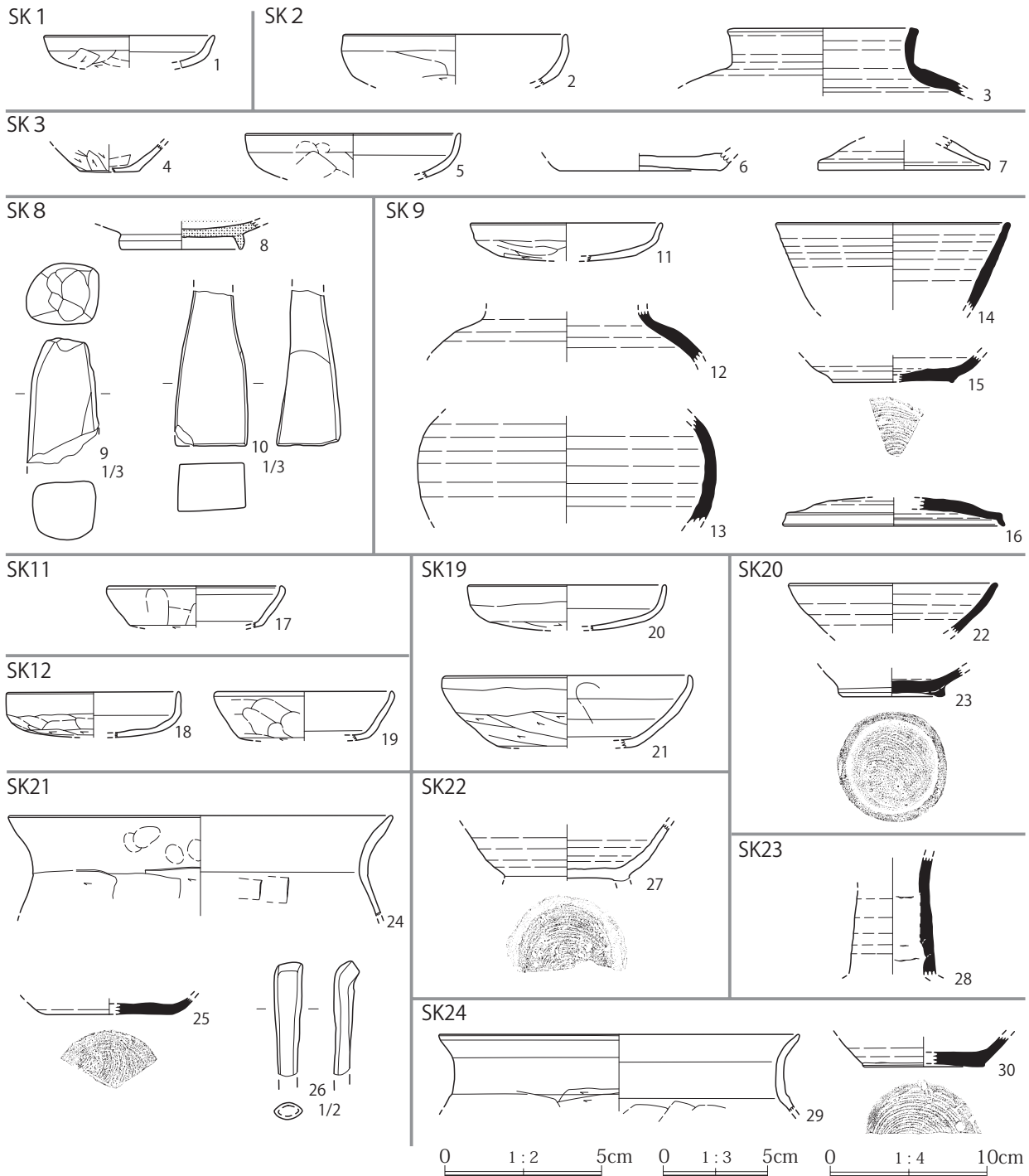
位置 調査区東部南側。**重複関係** 7号溝跡、24号～27号・29号・31号・32号土坑、22号・24号・28号～31号・33号ピットと重複し、本遺構のほうが古い。**遺存状態** 重複遺構によって部分的に壊されている。**覆土** 上層は黒色砂質シルト、下層は黒褐色砂質シルトが堆積する。**平面形と規模** 平面形は南側に弧を描く蒲鉾形を呈すると思われる。規模は長軸3.75 m、短軸3.63 m、確認面からの深さ22 cmを測る。**長軸方位** N-3°-E。**壁面** 非常に緩やかに立ち上がる。**底面** 西側が若干低くなっているが概ね平坦である。**遺物** 土師器・須恵器・金属製品が出土し、そのうち土師器7点、須恵器9点、金属製品1点を図示した。土師器は甕・鉢・坏、須恵器は壺・甕・坏・高台坏・蓋、金属製品は青銅製丸軛である。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は出土遺物から8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

31号土坑（第30・31・34・35図、写真図版6・11）

位置 調査区東部南側。**重複関係** 30号土坑と重複し、本遺構のほうが新しい。**遺存状態** 概ね良好。**覆土** 黒褐色砂質シルトが堆積する。**平面形と規模** 平面形は不整楕円形を呈する。規模は長軸0.77 m、短軸0.60 m、確認面からの深さ17 cmを測る。**長軸方位** N-8°-W。**壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 土師器・須恵器が出土し、そのうち土師器環1点を図示した。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は出土遺物から8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

32号土坑（第30・31・34・35図、写真図版6）

位置 調査区東部南側。**重複関係** 30号土坑、28号ピットと重複し、本遺構は28号ピットより古く、30号土坑よりも新しい。**遺存状態** 西側の一部が重複遺構によって壊されている。**覆土** 黒褐色砂質シルトが堆積する。**平面形と規模** 平面形は不整楕円形を呈する。規模は長軸1.32 m、短軸0.64 m、確認面からの深さ12 cmを測る。**長軸方位** N-5°-W。**壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 中央から南北へわずかに傾斜する。**遺物** 土師器・須恵器が出土し、そのうち須恵器甕1点・坏1点を図示した。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は出土遺物から8世紀後半～9世紀前半と考えられる。



第33図 1号～3号・8号・9号・11号・12号・19号・21号～24号土坑出土遺物実測図

33号土坑 (第30・31・34・35図、写真図版7・11)

位置 調査区中央部南側。**重複関係** 34号・37号土坑、32号・38号ピットと重複し、本遺構は32号ピットより古く、34号・37号土坑、38号ピットよりも新しい。**遺存状態** 東側の一部が重複遺構によって壊されている。**覆土** 黒褐色砂質シルトが堆積する。**平面形と規模** 平面形は不整楕円形を呈する。規模は長軸2.43m、短軸2.01m、確認面からの深さ19cmを測る。**長軸方位** N-8°-E。**壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 南西側がやや低いが概ね平坦である。**遺物** 土師器・須恵器が出土し、そのうち土師器1点、須恵器5点を図示した。土師器は甕、須恵器は甑・杯・皿・高台鉢である。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は出土遺物から8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

34号土坑（第30・31・35図、写真図版7）

位置 調査区中央部南側。**重複関係** 33号・37号土坑、38号ピットと重複し、33号土坑、38号ピットよりも古く、37号土坑とは不明である。**遺存状態** 東側が重複遺構によって壊されている。**覆土** 上層は黒色砂質シルト、下層は黒褐色砂質シルトが堆積する。**平面形と規模** 平面形は長方形を呈すると思われる。規模は長軸3.66m、短軸2.57m遺存、確認面からの深さ8cmを測る。**長軸方位** N-12°-W。**壁面** 非常に緩やかに立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 土師器・須恵器が出土し、そのうち土師器3点、須恵器2点を図示した。土師器は甕・坏、須恵器は坏・高台坏である。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は出土遺物から8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

35号土坑（第28・29図、写真図版7）

位置 調査区東部南側。**重複関係** 50号土坑と重複し、本遺構のほうが新しい。**遺存状態** 概ね良好。**覆土** 上層は暗褐色砂質土・シルト質砂、中層は黒褐色砂質シルト、下層は暗褐色砂質シルトが堆積する。**平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸0.64m、短軸0.34m、確認面からの深さ39cmを測る。**長軸方位** N-89°-E。**壁面** 急角度で立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 土師器・須恵器が出土しているが、図示し得る遺物はなかった。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は土師器・須恵器が出土していることから、周囲の遺構と同時期の8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

36号土坑（第28・29図、写真図版6）

位置 調査区東部南側。**重複関係** 19号土坑と重複し、本遺構のほうが新しい。**遺存状態** 南側が調査区外にあるが概ね良好。**覆土** 上層は黒褐色シルト質砂、下層は暗褐色シルト質砂が堆積する。**平面形と規模** 南側が調査区外にあるため全容は不明であるが、平面形は楕円形を呈すると思われる。規模は長軸0.49m遺存、短軸0.41m、確認面からの深さ35cmを測る。**長軸方位** N-50°-E。**壁面** 急角度で立ち上がる。**底面** 北側が一段高いテラス状になっている。**遺物** 出土していない。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は出土遺物がないため不明であるが、周囲の遺構と同時期の8世紀後半～9世紀前半と思われる。

37号土坑（第30・31・35図、写真図版7）

位置 調査区中央部北側。**重複関係** 33号・34号土坑、33号ピットと重複し、33号土坑、33号ピットよりも古く、34号土坑とは不明である。**遺存状態** 南側が重複遺構によって壊されている。**覆土** 上層は黒褐色砂質シルト、下層は褐灰色砂質シルトが堆積する。**平面形と規模** 平面形は不整形を呈すると思われる。規模は長軸1.70m遺存、短軸0.89m遺存、確認面からの深さ6cmを測る。**長軸方位** N-41°-W。**壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 凹凸が見られるが概ね平坦である。**遺物** 須恵器が出土し、甕1点を図示した。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は出土遺物から8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

38号土坑（第30・31図、写真図版7）

位置 調査区東部北側。**重複関係** 39号土坑と重複し、本遺構のほうが新しい。**遺存状況** 概ね良好。**覆土** 黒褐色砂質シルトが堆積する。**平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸0.50m、短軸0.42m、確認面からの深さ6cmを測る。**長軸方位** N-90°。**壁面** 緩やかに立ち上がる。**底面** 西側に向かってわずかに傾斜する。**遺物** 土師器が出土しているが、図示し得る遺物はなかった。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は土師器が出土していることから、周囲の遺構と同時期の8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

39号土坑（第30・31図、写真図版7）

位置 調査区東部北側。**重複関係** 38号土坑と重複し、本遺構のほうが古い。**遺存状態** 東側が重複遺構によって壊されている。**覆土** 上層は黒褐色砂質シルト、下層は黒色砂質シルトが堆積する。**平面形と規模** 平面形は不整形を呈すると思われる。規模は長軸0.40m、短軸0.37m、確認面からの深さ5cmを測る。**長軸方位** N-3°-W。**壁面** 緩やかに立ち上がる。**底面** 西側に向かってわずかに傾斜する。**遺物** 土師器が出土しているが、図示し得る遺物はなかった。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は土師器が出土していることから、周囲の遺構と同時期の8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

40号土坑（第30・31図、写真図版5）

位置 調査区東部南側。**重複関係** 7号溝跡と重複し、本遺構のほうが古い。**遺存状態** 東側が重複遺構によって壊されている。**覆土** 上層は黒褐色砂質シルト、下層は黒色砂質シルトが堆積する。**平面形と規模** 平面形は楕円形を呈すると思われる。規模は長軸0.86m遺存、短軸0.67m、確認面からの深さ12cmを測る。**長軸方位** N-79°-W。**壁面** 急角度で立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 土師器が出土しているが、図示し得る遺物はなかった。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は土師器が出土していることから、周囲の遺構と同時期の8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

41号土坑（第30・32図、写真図版5）

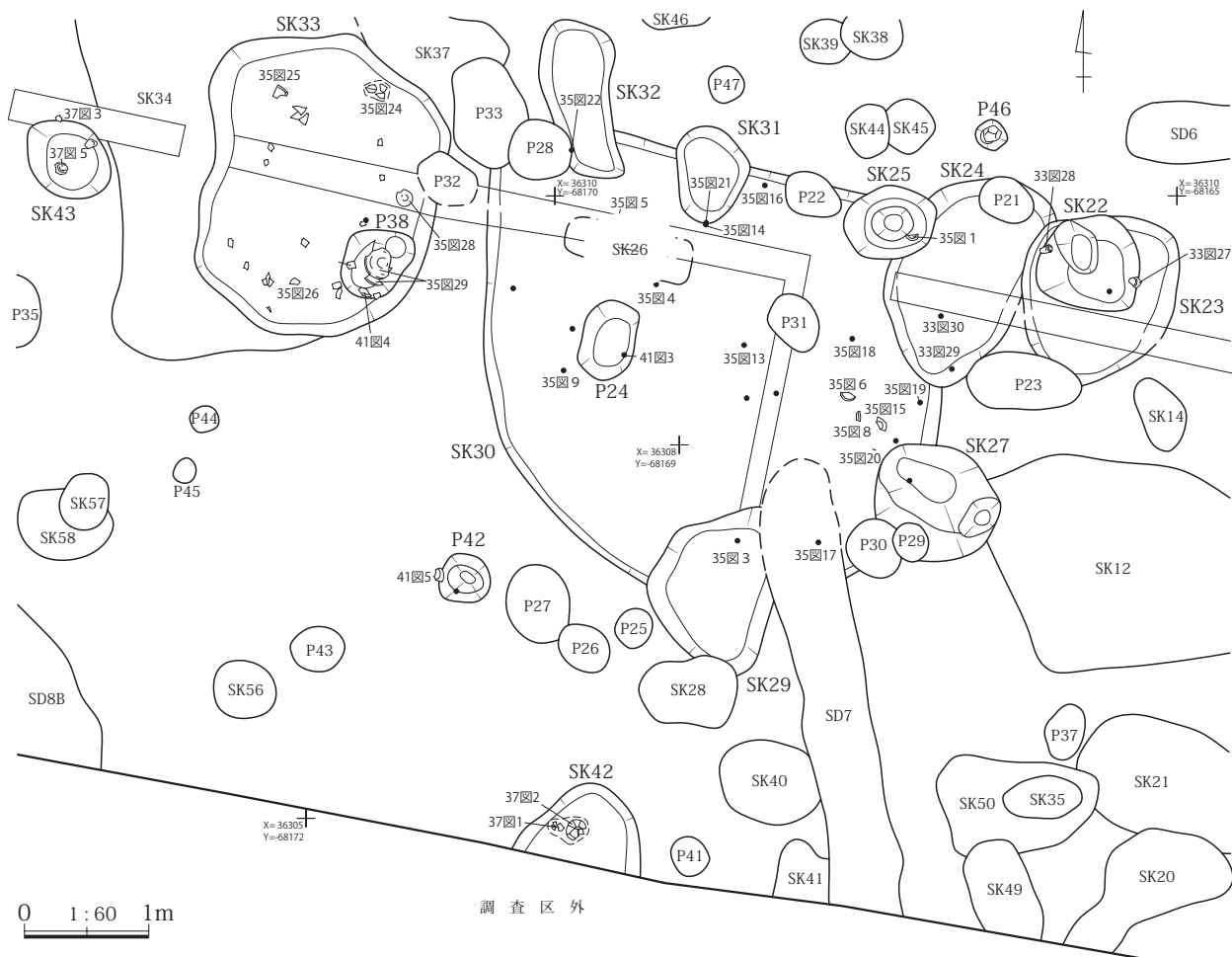
位置 調査区東部南側。**重複関係** 7号溝跡と重複し、本遺構のほうが古い。**遺存状態** 東側が重複遺構によって壊され、南側が調査区外にある。**覆土** 上層は黒色砂質シルト、下層は黒褐色砂質シルトが堆積する。**平面形と規模** 南側が調査区外にあるため全容は不明であるが、平面形は不整形を呈すると思われる。規模は長軸0.60m遺存、短軸0.40m遺存、確認面からの深さ10cmを測る。**長軸方位** N-79°-W。**壁面** 緩やかに立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 土師器・須恵器が出土しているが、図示し得る遺物はなかった。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は土師器・須恵器が出土していることから、周囲の遺構と同時期の8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

42号土坑（第30・32・34・37図、写真図版7・11）

位置 調査区東部南側。**重複関係** なし。**遺存状態** 南側が調査区外にあるが概ね良好。**覆土** 黒褐色砂質シルトが堆積する。**平面形と規模** 南側が調査区外にあるため全容は不明であるが、平面形は楕円形を呈すると思われる。規模は長軸0.66m遺存、短軸1.08m、確認面からの深さ14cmを測る。**長軸方位** N-13°-E。**壁面** 緩やかに立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 土師器が出土し、そのうち甕1点・坏1点を図示した。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は出土遺物から8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

43号土坑（第30・32・34・37図、写真図版7・11）

位置 調査区中央部南側。**重複関係** なし。**遺存状態** 概ね良好。**覆土** 黒褐色砂質シルトが堆積する。**平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸0.58m、短軸0.45m、確認面からの深さ27cmを測る。**長軸方位** N-57°-W。**壁面** 東側は急角度で、西側は緩やかに立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 土師器・須恵器が出土し、そのうち土師器甕1点・坏1点、須恵器壺1点を図示した。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は出土遺物から8世紀後半～9世紀前半と考えられる。



第34図 22号～25号・27号・29号～33号・42号・43号土坑、24号・38号・42号ピット遺物出土状況図

44号土坑（第30・32・37図、写真図版7・11）

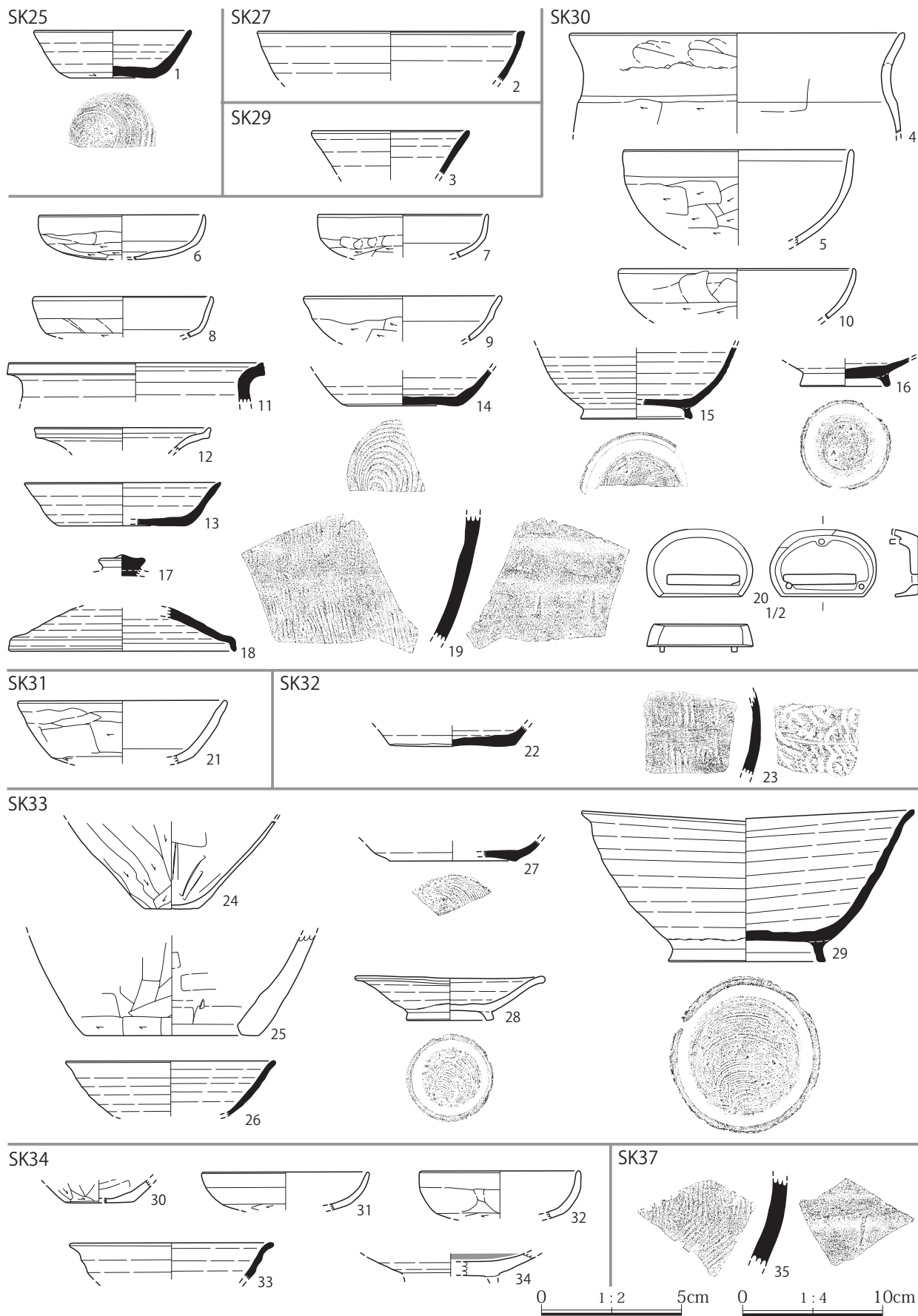
位置 調査区東部北側。 **重複関係** 45号土坑と重複し、本遺構のほうが新しい。 **遺存状態** 概ね良好。
覆土 黒褐色砂質シルトが堆積する。 **平面形と規模** 平面形は不整形円形を呈する。規模は長軸0.43m、短軸0.37m、確認面からの深さ15cmを測る。 **長軸方位** N-8°-E。 **壁面** 急角度で立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** 土師器・須恵器が出土し、そのうち須恵器壺1点を図示した。 **備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は出土遺物から8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

45号土坑（第30・32図、写真図版7）

位置 調査区東部北側。 **重複関係** 44号土坑と重複し、本遺構のほうが古い。 **遺存状態** 西側が重複遺構によって壊されている。 **覆土** 黒褐色砂質シルトが堆積する。 **平面形と規模** 平面形は隅丸方形を呈すると思われる。規模は長軸0.41m、短軸0.41m、確認面からの深さ12cmを測る。 **長軸方位** N-45°-W。
壁面 緩やかに立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** 出土していない。 **備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は出土遺物がないため不明であるが、周囲の遺構と同時期の8世紀後半～9世紀前半と思われる。

46号土坑（第30・32図、写真図版7）

位置 調査区東部北側。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 概ね良好。 **覆土** 黒褐色砂質シルトが堆積する。
平面形と規模 平面形は不整形楕円形を呈する。規模は長軸0.73m、短軸0.43m、確認面からの深さ15cmを測る。



第 35 图 25 号・27 号・29 号～34 号・37 号土坑出土遺物実測図

長軸方位 N-82°-E。**壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 土師器・須恵器が出土しているが、図示し得る遺物はなかった。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は土師器・須恵器が出土していることから、周囲の遺構と同時期の8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

47号土坑（第30・32図、写真図版7）

位置 調査区中央部北側。**重複関係** なし。**遺存状態** 東側がカクランによって壊されている。**覆土** 黒褐色砂質シルトが堆積する。**平面形と規模** 平面形は楕円形を呈すると思われる。規模は長軸1.27m遺存、短軸0.49m、確認面からの深さ10cmを測る。**長軸方位** N-76°-E。**壁面** 非常に緩やかに立ち上がる。

底面 中央に向かって傾斜する。**遺物** 出土していない。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は出土遺物がないため不明であるが、周囲の遺構と同時期の8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

48号土坑（第28・29図、写真図版7）

位置 調査区東部北側。**重複関係** 6号溝跡と重複し、本遺構のほうが古い。**遺存状態** 南側の一部が重複遺構によって壊されている。**覆土** 東側は褐色シルト、西側は暗褐色シルトが堆積する。**平面形と規模** 平面形は不整楕円形を呈する。規模は長軸2.09m、短軸0.87m、確認面からの深さ6cmを測る。**長軸方位** N-0°。**壁面** 緩やかに立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 土師器・須恵器が出土しているが、図示し得る遺物はなかった。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は土師器・須恵器が出土していることから、周囲の遺構と同時期の8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

49号土坑（第28・29図、写真図版7）

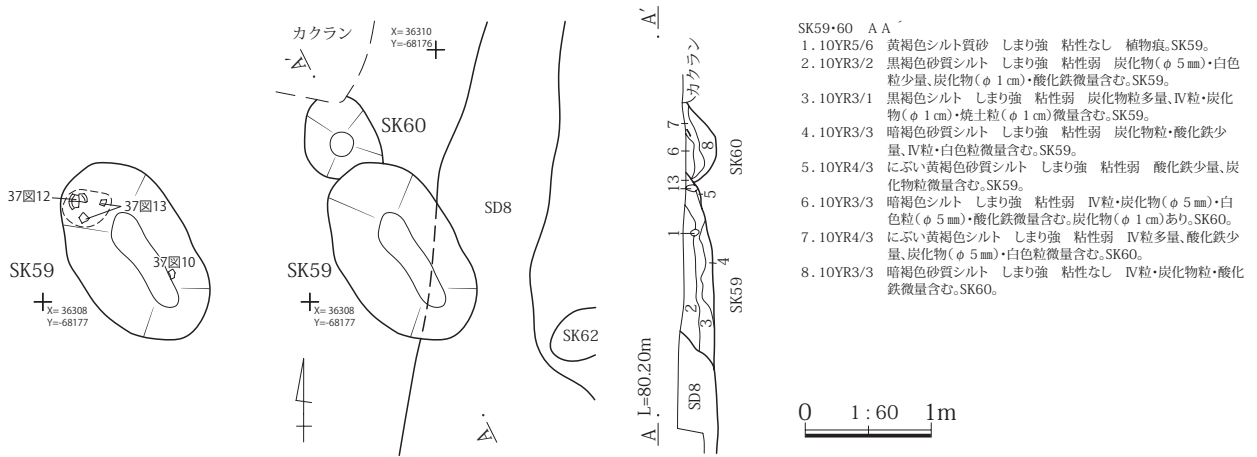
位置 調査区東部南側。**重複関係** 50号土坑と重複し、本遺構のほうが新しい。**遺存状態** 南側が調査区外にあるが概ね良好。**覆土** 黒褐色シルトが堆積する。**平面形と規模** 南側が調査区外にあるため全容は不明であるが、平面形は楕円形を呈すると思われる。規模は長軸0.89m遺存、短軸0.54m、確認面からの深さ6cmを測る。**長軸方位** N-20°-W。**壁面** 緩やかに立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 土師器・須恵器が出土しているが、図示し得る遺物はなかった。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は土師器・須恵器が出土していることから、周囲の遺構と同時期の8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

50号土坑（第28・29図、写真図版7）

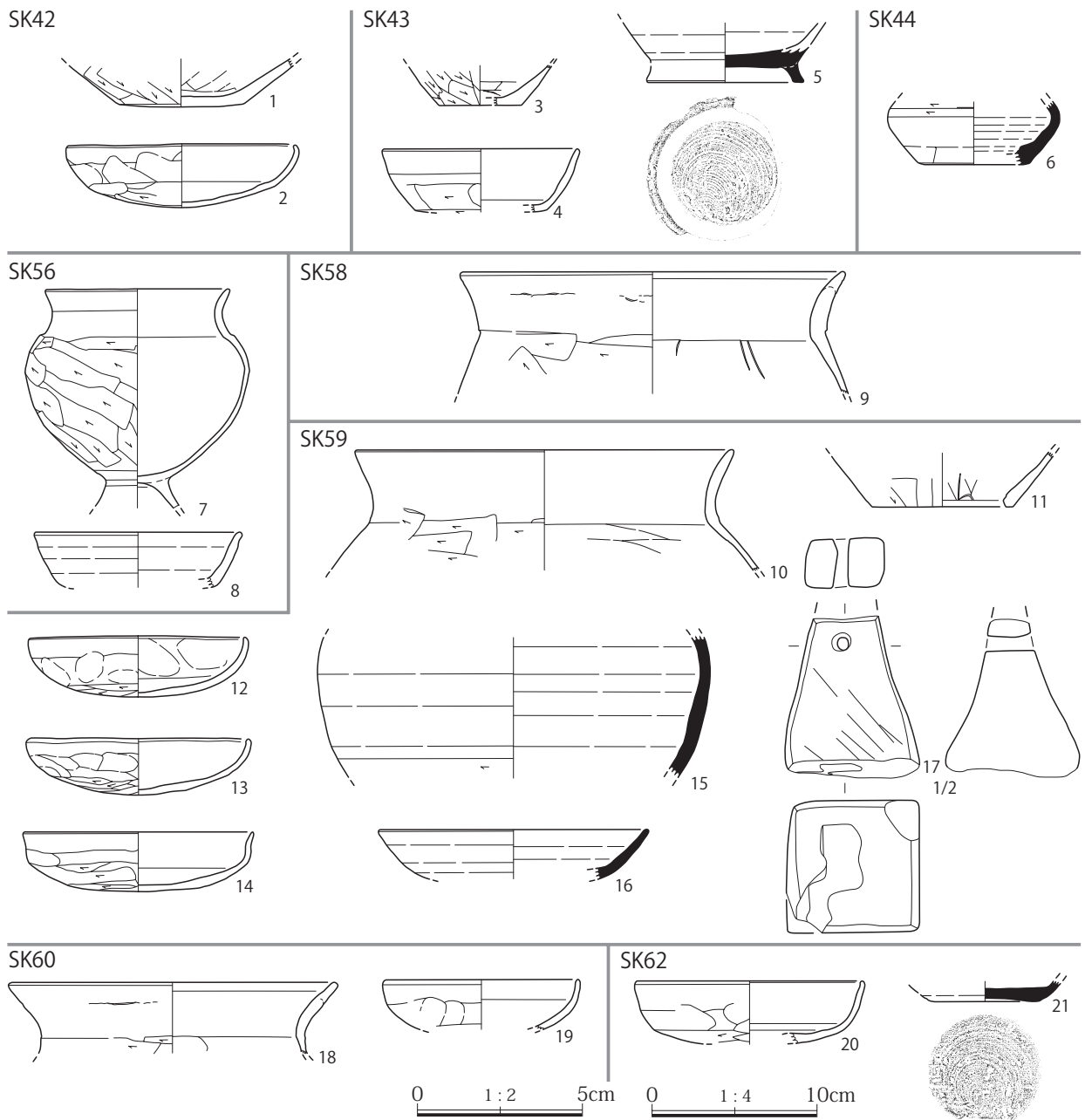
位置 調査区東部南側。**重複関係** 21号・35号・49号土坑と重複し、35号・49号土坑より古く、21号土坑よりも新しい。**遺存状態** 重複遺構によって一部壊されている。**覆土** 暗褐色砂質シルトが堆積する。**平面形と規模** 平面形は不整楕円形を呈する。規模は長軸1.32m、短軸0.84m、確認面からの深さ6cmを測る。**長軸方位** N-83°-E。**壁面** 緩やかに立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 出土していない。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は出土遺物がないため不明であるが、周囲の遺構と同時期の8世紀後半～9世紀前半と思われる。

51号土坑（第30・32図、写真図版8）

位置 調査区東部北側。**重複関係** 52号土坑と重複し、本遺構のほうが新しい。**遺存状態** 概ね良好。**覆土** 暗褐色砂質土が堆積する。**平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸1.29m、短軸0.75m、確認面からの深さ14cmを測る。**長軸方位** N-69°-E。**壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 土師器・須恵器が出土しているが、図示し得る遺物はなかった。**備考** 本遺構は形態に



第36図 59号・60号土坑平面図・断面図、59号土坑遺物出土状況図



第37図 42号~44号・56号・58号~60号・62号土坑出土遺物実測図

特徴がないため性格は不明である。帰属時期は土師器・須恵器が出土していることから、周囲の遺構と同時期の8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

52号土坑（第30・32図、写真図版8）

位置 調査区東部北側。**重複関係** 51号土坑と重複し、本遺構のほうが古い。**遺存状態** 東側が重複遺構、南側がカクランによって壊されている。**覆土** 上層は暗褐色砂質土、下層は暗褐色砂質シルトが堆積する。**平面形と規模** 平面形は不整楕円形を呈すると思われる。規模は長軸2.27m遺存、短軸1.14m遺存、確認面からの深さ11cmを測る。**長軸方位** N-73°-W。**壁面** 緩やかに立ち上がる。**底面** 南側が一段低くなる。**遺物** 土師器が出土しているが、図示し得る遺物はなかった。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は土師器が出土していることから、周囲の遺構と同時期の8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

53号土坑（第30・32図、写真図版8）

位置 調査区東部北側。**重複関係** なし。**遺存状態** 概ね良好。**覆土** 上層は暗褐色砂質シルト、下層は暗褐色砂質土が堆積する。**平面形と規模** 平面形は長方形を呈する。規模は長軸0.86m、短軸0.73m、確認面からの深さ30cmを測る。**長軸方位** N-52°-W。**壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 須恵器が出土しているが、図示し得る遺物はなかった。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は須恵器が出土していることから、周囲の遺構と同時期の8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

54号土坑（第30・32図、写真図版8）

位置 調査区中央部北側。**重複関係** なし。**遺存状態** 南側がカクランによって壊されている。東側が一段高くテラス状になっており別遺構の可能性も考えられることから、西側の深いほうをA、東側の浅いほうをBとした。**覆土** 上層は暗褐色砂質土、下層は黒褐色シルト質砂が基調で、西側に暗褐色シルト質砂、東側に褐色砂質シルトが堆積する。**平面形と規模** 平面形は長方形を呈すると思われる。規模は長軸1.37m遺存、短軸0.80m、確認面からの深さ23cmを測る。**長軸方位** N-23°-E。**壁面** 急角度で立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 土師器・須恵器が出土しているが、図示し得る遺物はなかった。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は土師器・須恵器が出土していることから、周囲の遺構と同時期の8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

55号土坑（第30・32図、写真図版8）

位置 調査区中央部北側。**重複関係** 8号溝跡（B北）と重複し、本遺構のほうが新しい。**遺存状態** 概ね良好。**覆土** 暗褐色が基調で、上層から砂質土、シルト質砂、砂質シルトが堆積する。**平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸0.73m、短軸0.57m、確認面からの深さ24cmを測る。**長軸方位** N-7°-E。**壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 土師器が出土しているが、図示し得る遺物はなかった。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は土師器が出土していることから、周囲の遺構と同時期の8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

56号土坑（第30・32・37図、写真図版8・11）

位置 調査区中央部南側。**重複関係** なし。**遺存状態** 概ね良好。**覆土** 上層は暗褐色シルト、下層は黒褐色シルトが堆積する。**平面形と規模** 平面形は不整円形を呈する。規模は長軸0.54m、短軸0.46m、確認面からの深さ21cmを測る。**長軸方位** N-70°-W。**壁面** 急角度で立ち上がる。**底面** 中央に向かっ

てわずかに傾斜する。 **遺物** 土師器・須恵器が出土し、そのうち土師器台付甕1点、須恵器坏1点を図示した。

備考 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は出土遺物から8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

57号土坑（第30・32図、写真図版8）

位置 調査区中央部南側。 **重複関係** 58号土坑と重複し、本遺構のほうが古い。 **遺存状態** 南側の上部が重複遺構によって壊されている。 **覆土** 上層は暗褐色シルト、下層はにぶい黄褐色シルトが堆積する。 **平面形と規模** 平面形は不整円形を呈する。規模は長軸0.46 m、短軸0.40 m、確認面からの深さ15 cmを測る。

長軸方位 N-23°-E。 **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** 土師器が出土しているが、図示し得る遺物はなかった。 **備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は土師器が出土していることから、周囲の遺構と同時期の8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

58号土坑（第30・32・37図、写真図版8）

位置 調査区中央部南側。 **重複関係** 57号土坑と重複し、本遺構のほうが新しい。 **遺存状態** 概ね良好。 **覆土** 上層は暗褐色シルト、下層はにぶい黄褐色シルトが堆積する。 **平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸0.77 m、短軸0.59 m、確認面からの深さ7 cmを測る。 **長軸方位** N-90°。 **壁面** 緩やかに立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** 土師器が出土し、そのうち甕1点を図示した。 **備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は出土遺物から8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

59号土坑（第36・37図、写真図版5・11）

位置 調査区中央部南側。 **重複関係** 60号土坑、8号溝跡(A)と重複し、本遺構は8号溝跡(A)より古く、60号土坑よりも新しい。 **遺存状態** 東側の上部が重複遺構によって壊されている。 **覆土** 上層は黒褐色砂質シルト、中層は黒褐色シルト、下層は暗褐色砂質シルト・にぶい黄褐色砂質シルトが堆積する。 **平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸1.57 m、短軸0.94 m、確認面からの深さ23 cmを測る。 **長軸方位** N-31°-W。 **壁面** 緩やかに立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** 土師器・須恵器・石製品が出土し、そのうち土師器5点、須恵器2点、石製品1点を図示した。土師器は甕・甑・坏、須恵器は壺、坏で、石製品は印と考えられる。 **備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は出土遺物から8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

60号土坑（第36・37図、写真図版5）

位置 調査区中央部南側。 **重複関係** 59号土坑と重複し、本遺構のほうが古い。 **遺存状態** 南側が重複遺構、北側がカクランによって壊されている。 **覆土** 上層は暗褐色シルト、中層はにぶい黄褐色シルト、下層は暗褐色砂質シルトが堆積する。 **平面形と規模** 平面形は楕円形を呈すると思われる。規模は長軸0.66 m遺存、短軸0.58 m、確認面からの深さ20 cmを測る。 **長軸方位** N-23°-W。 **壁面** 北壁は緩やかに、南壁は急角度で立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** 土師器・須恵器が出土し、そのうち土師器甕1点・坏1点を図示した。 **備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は出土遺物から8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

61号土坑（第28・29図、写真図版6）

位置 調査区東部南側。 **重複関係** 11号土坑と重複し、本遺構のほうが古い。 **遺存状態** 概ね良好。 **覆土** 黒褐色砂質土が堆積する。 **平面形と規模** 平面形は不整楕円形を呈する。規模は長軸0.78 m、短軸0.40 m、確認面からの深さ28 cmを測る。 **長軸方位** N-76°-E。 **壁面** 東側は緩やかに、西側は急角度で立

ち上がる。**底面** 中央に向かって傾斜する。**遺物** 土師器・須恵器が出土しているが、図示し得る遺物はなかった。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は土師器・須恵器が出土していることから、周囲の遺構と同時期の8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

62号土坑（第30・32・37図、写真図版5）

位置 調査区中央部南側。**重複関係** なし。**遺存状態** 概ね良好。**覆土** 上層はにぶい黄褐色砂質シルト、下層は暗褐色砂質シルトが堆積する。**平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸0.67 m、短軸0.39 m、確認面からの深さ33 cmを測る。**長軸方位** N-64°-E。**壁面** 急角度で立ち上がる。**底面** 中央部が一番低く、周囲に一段高いテラスを有する。**遺物** 土師器・須恵器が出土し、そのうち土師器環1点、須恵器環1点を図示した。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は出土遺物から8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

第5節 井戸跡

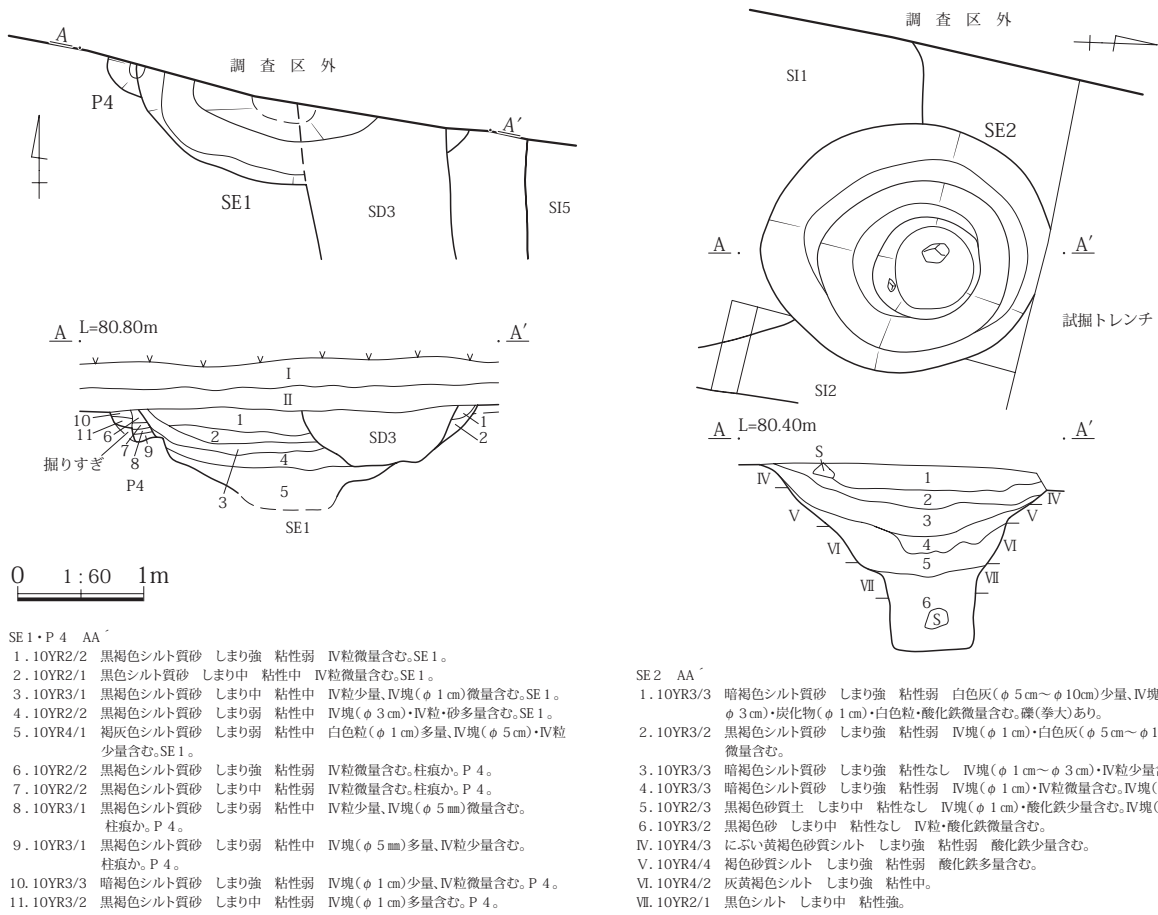
今回の発掘調査では、調査区西部から9世紀代と考えられる井戸跡が2基確認された。

1号井戸跡（第38図、写真図版8）

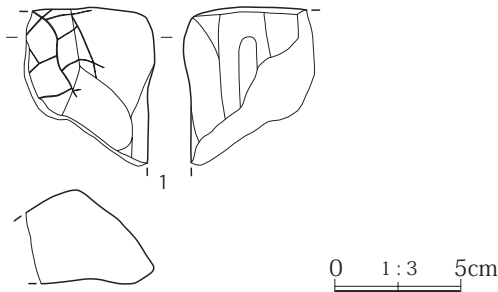
位置 調査区西部北側。**重複関係** 3号溝跡、4号ピットと重複し、本遺構は3号溝跡より古く、4号ピットよりも新しい。**遺存状態** 東側が重複遺構によって壊され、北側は調査区外にある。**覆土** 上層は黒褐色シルト質砂と黒色シルト質砂が交互に堆積し、中層は褐灰色シルト質砂が堆積する。**平面形と規模** 北側が調査区外にあるため全容は不明であるが、平面形は円形を呈すると思われる。規模は長軸2.69 m遺存、短軸0.81 m遺存、確認面からの深さ78 cmを測る。**長軸方位** N-83°-W。**壁面** 中部から上部は緩やかに立ち上がる。**底面** 北側が調査区外にあるため掘り下げることのできる面積が狭くなったこと、調査区の北壁が1.5 m以上の直掘りになってしまい危険な状況になってしまうことから、底面までの掘り下げを行わなかった。そのため底面の状況は不明である。**遺物** 土師器・須恵器・石が出土しているが、図示し得る遺物はなかった。**備考** 本遺構は水が湧出したこと、掘方の形状から井戸跡と判断した。帰属時期は土師器・須恵器が出土していること、3号溝跡に切られていることから、9世紀代と考えられる。

2号井戸跡（第38・39図、写真図版8）

位置 調査区西部南側。**重複関係** 1号・2号竪穴建物跡と重複し、本遺構のほうが新しい。**遺存状態** 北側の一部が試掘トレンチによって失われている。**覆土** 上層～中層は暗褐色シルト質砂と黒褐色シルト質砂が交互に堆積し、下層は黒褐色砂質土・砂が堆積する。**平面形と規模** 平面形は不整円形を呈する。規模は長軸2.33 m遺存、短軸1.98 m、確認面からの深さ146 cmを測る。**長軸方位** N-4°-W。**壁面** 下部はほぼ垂直に、中部から緩やかに立ち上がる。断面形はじょうご状を呈する。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 土師器・須恵器・石製品が出土し、そのうち砥石と思われるもの1点を図示した。**備考** 本遺構は水が湧出し1 m近く溜まる状況及び掘方の形状から、井戸跡と判断した。土師器・須恵器が出土していること、1号・2号竪穴建物跡を切っている状況から、9世紀代で1号・2号竪穴建物跡より新しいと考えられる。



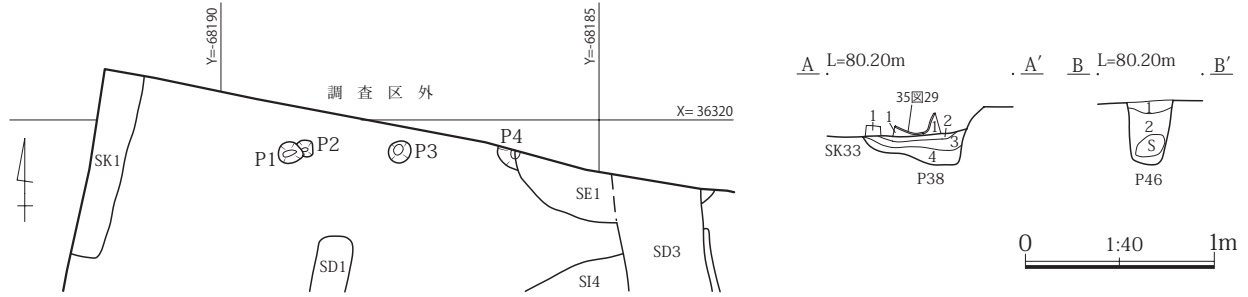
第38図 1号・2号井戸跡平面図・断面図



第39図 2号井戸跡出土遺物実測図

第6節 ピット (第34・40・41図、第1表、写真図版11)

今回の発掘調査では、55基のピットが確認された。そのうちP1~P4、P54、P55の6基が調査区西部に分布し、その他は調査区東部に分布する。調査区西部では、P1とP2は重複し、P1・2、P3、P4は約1.4m間隔で東西方向に直線上に並んでいることから建物跡又は柱列の可能性が考えられる。調査区東部では、明確な建物跡又は柱列となりそうな並びは確認されなかったが、P5、P46では礎石と思われる石が確認され、P19では柱痕と思しき堆積状況が確認された。不規則な配置の建物跡・柱列がある可能性が考えられる。多数のピットから遺物が出土しているが、図示したものはP15の鉄鏝の茎又は鉄釘と見られる鉄製品、P24の土師器環、P38の土師器甕、P42の土師器環である。確認されたピットの法量、堆積土などは第1表のピット計測表に記載した。



P38 AA

1. 10YR3/1 黒褐色シルト質砂 しまり強 粘性弱 IV粒少量含む。SK33。
2. 10YR3/1 黒褐色シルト質砂 しまり中 粘性中 炭化物粒多量、IV塊(φ 1cm)・IV粒微量含む。P38。
3. 10YR2/2 黒褐色シルト質砂 しまり強 粘性中 IV塊(φ 5mm)・IV粒・炭化物粒少量含む。P38。
4. 10YR3/1 黒褐色シルト質砂 しまり強 粘性中 IV粒多量、IV塊(φ 1cm)少量含む。P38。

P46 BB

1. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV塊(φ 5mm)微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト しまり強 粘性弱 IV塊(φ 5mm)少量含む。

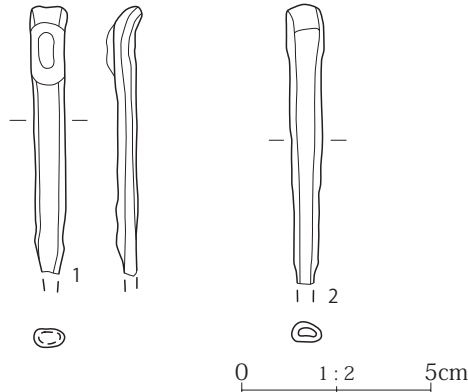
第40図 ピット平面図、38号・46号ピット断面図

第1表 ピット計測表

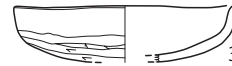
遺構名	平面形	規模 (cm)			覆土	出土遺物	備考	遺構名	平面形	規模 (cm)			覆土	出土遺物	備考
		長軸	短軸	深さ						長軸	短軸	深さ			
Pit 1	不整形	33	28	14	A 1	土師器		Pit 29	円形	31	27	21	—	土師 須恵	SK27と重複、断面図あり
Pit 2	不整形	[22]	22	13	A 1			Pit 30	不整形	50	48	20	—	土師器	SK30と重複、断面図あり
Pit 3	円形	32	29	37	A 1			Pit 31	不整形	50	36	19	—	土師 須恵	SK30と重複、断面図あり
Pit 4	円形	[28]	[25]	25	—		SE 1と重複、断面図あり	Pit 32	不整形	52	39	27	—	土師器	SK33と重複、断面図あり
Pit 5	不整形	36	30	13	—	土師器	SD 5と重複、断面図あり	Pit 33	不整形	89	63	21	—	土師 須恵	SK30と重複、断面図あり
Pit 6	不整形	26	25	29	A 1	土師器		Pit 34	円形	32	30	34	B 3	土師器	
Pit 7	不整形	24	23	9	A 1	土師器		Pit 35	円形	61	58	12	B 3		
Pit 8	不整形	27	23	27	A 1			Pit 36	円形	31	28	38	A 1	土師 須恵	
Pit 9	不整形	34	30	38	A 3	土師 須恵		Pit 37	不整形	46	36	12	A 4	土師器	
Pit 10	不整形	39	35	25	E 3	土師器		Pit 38	不整形	66	54	35	—	土師 須恵	SK33と重複、断面図あり
Pit 11	不整形	44	40	32	E 3			Pit 39	不整形	33	32	14	B 3	土師 須恵	
Pit 12	不整形	37	28	21	A 1			Pit 40	不整形	44	40	14	B 3	土師器	
Pit 13・14	不整形	40	26	22	A 1			Pit 41	不整形	31	28	13	B 3	土師 須恵	
Pit 15	楕円形	39	28	41	A 1	土師 須恵		Pit 42	不整形	41	39	48	B 3	土師器	
Pit 16	不整形	29	25	45	A 3			Pit 43	不整形	45	36	25	C 3	土師器	
Pit 17	不整形	28	27	9	E 3			Pit 44	不整形	22	21	25	B 3	土師器	
Pit 18	楕円形	[39]	36	23	—		SK16と重複、断面図あり	Pit 45	不整形	22	16	10	B 3		
Pit 19	不整形	63	43	37	—	土師 須恵	SK17と重複、断面図あり	Pit 46	不整形	24	23	33	—	土師 須恵	礎石か、断面図あり
Pit 20	—	—	—	—	—		欠番	Pit 47	円形	29	28	15	B 3	土師器	
Pit 21	不整形	45	38	22	B 3	土師 須恵		Pit 48	不整形	[18]	16	7	A 3	須恵器	
Pit 22	楕円形	50	34	45	—	土師器	SK30と重複、断面図あり	Pit 49	円形	25	24	33	A 1		
Pit 23	楕円形	93	46	19	B 3	土師 須恵		Pit 50	円形	38	38	50	A 1		
Pit 24	楕円形	64	43	18	—	土師器	SK30と重複、断面図あり	Pit 51	円形	18	18	9	A 3	土師器	
Pit 25	不整形	32	29	26	—	土師 須恵	断面図あり	Pit 52	不整形	24	23	20	A 3		
Pit 26	楕円形	47	37	13	D 3	土師 須恵		Pit 53	円形	25	25	15	A 2	土師器	
Pit 27	楕円形	64	52	29	B 3	土師 須恵		Pit 54	不整形	45	[34]	34	—		SD 9と重複、断面図あり
Pit 28	不整形	51	49	12	—	土師 須恵	SK30と重複、断面図あり	Pit 55	楕円形	[64]	[41]	11	—		SD 9と重複、断面図あり

A: 暗褐色 B: 黒褐色 C: 黒色 D: 褐灰色 E: にぶい黄褐色 1: 砂質土 2: シルト質砂 3: 砂質シルト 4: シルト (): 推定 []: 遺存

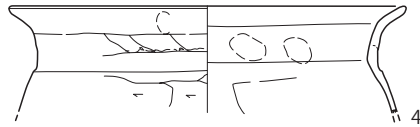
P15



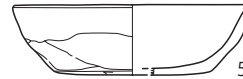
P24



P38



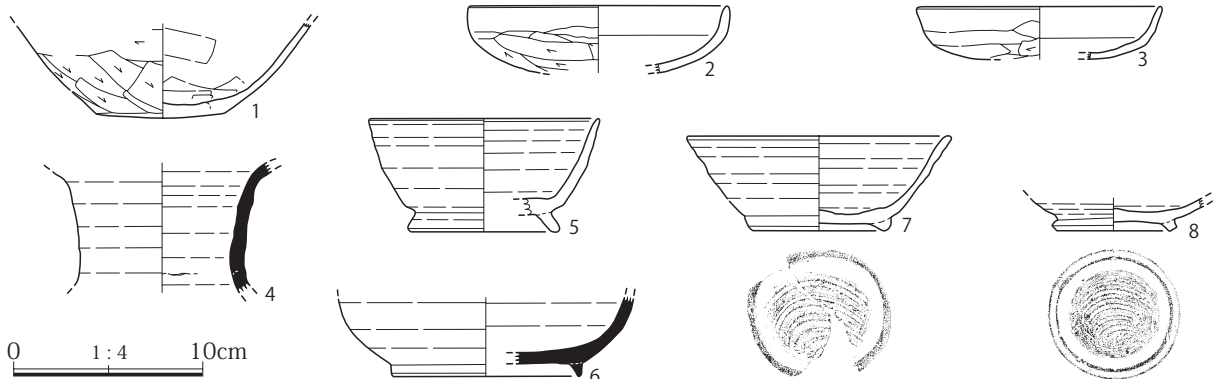
P42



第41図 15号・24号・38号・42号ピット出土遺物実測図

第8節 遺構外出土遺物 (第40・42図、写真図版11)

今回の発掘調査では、遺構外からも遺構出土と同時期の土師器・須恵器が出土している。その中で遺存状態の良い土師器3点、須恵器5点を図示した。



第42図 遺構外出土遺物実測図

第9節 まとめ

今回の発掘調査では、平安時代の竪穴建物跡7軒、溝跡9条、土坑62基、井戸跡2基、ピット55基が確認された。また、溝跡・土坑からは漆付着土器、青銅製丸軛、石製印、馬骨といった特殊な遺物が出土している。本遺跡の遺構及び遺物の様相をまとめてみたい。

今回の発掘調査で確認された遺構の多くは平安時代のものであるが、遺構の分布状況に特徴が見られる。調査区中央部で確認された南北に走るSD4を境にして、確認された7軒の竪穴建物跡と2基の井戸跡は全て西側に分布し、東側では確認されなかった。これに対し東側では3基の土坑(SK1～SK3)と6基のピット(P1～P4、P54、P55)以外の大半の土坑・ピットが分布している。SD4は上端幅3.47m～4.01m、深さ71cmを測る大型溝跡で、この溝跡でもって居住区域の西側とその他の区域の東側を区画していたと考えられる。

竪穴建物跡は7軒確認され、先述の通りすべて調査区西部で確認されている。SI1とSI2とSI3、SI2とSI7、SI4とSI6、SI6とSI7が重複し、SI5は重複していないが、SI4と隣接する。このような状況から、SI5→SI4→SI6、SI1→SI2→SI7→SI3と推移し、本調査区内で同時期に存在した建物跡は2軒と考えられる。河川に挟まれた立地条件であること、出土遺物の時期に大きな差が見られないことから、河川の氾濫によって埋没しては建て替えを繰り返したが再建を諦め別の場所に移動したと考えられる。

溝跡は全部で9条確認され、SD1～SD3・SD9の4条が調査区西部、SD4・SD8の2条が調査区中央部、SD5～SD7の3条が調査区東部に分布する。SD1は非常に細長い形状なので溝跡と判断したが、長さが短いので土坑の可能性も考えられる。SD2は南北方向に走る溝跡である。南北方向に走りSD4と並行していることから、一連の溝跡の可能性が考えられる。SD3の中層から人頭大・拳大の礫が多量に出土している。本遺跡からは多量の礫を伴う遺構は確認されなかったが、周辺で不要となった礫を廃棄したものと考えられる。下層から羽釜が出土していることから、竪穴建物跡よりも新しい時期のものである。SD9はSD2と並行する溝跡であるが、北端部のみ確認されたものであるため判断は難しい。

SD4は南北方向に走る大溝で、先述の通り区画溝の性格が強い遺構と考えられる。また本遺跡が水気の多い土地であるため排水機能も兼ねていた溝跡と思われる。SD8はSD4とほぼ並行する南北方向に走る溝跡(SD8A)と、そこから北部で北東方向に、南部で南西方向に派生する溝跡(SD8B北・南)を一連のものと考えたものである。底面及び覆土中から割れた状態の完形に近い遺物が多く出土している状況から、周辺地域で使用していた土器が河川の氾濫によって流れ込んだものと考えられる。SD4とほぼ並行していることから、関連する遺構の可能性が高く、機能的には区画溝ではないかと考えられる。

SD5・SD6は直角に近い角度で交差する溝跡である。発掘調査時点ではSD5の方が新しいと判断したが、同時期に存在していたことも考えられる。SD7はSD5・SD6から約9m南西に位置しているが、SD5とはほぼ並行、SD6とは直交するので、これらの溝跡は関連する遺構の可能性が高いと考える。

井戸跡は居住区域と判断できる調査区西部で2基確認された。SE1はSI4・SI5と隣接し、SE2はSI1・SI2と重複し、SI7と隣接している。このことから、SE1はSI6段階、SE2はSI3段階もしくはそれ以降の段階に使用されていた可能性が高いと考えられる。

調査区東部は土坑とピットが集中して分布する状況が確認された。土坑は明瞭な掘り込みが認められるものもあるが、遺物を伴うものの不整形で非常に浅い形態のものも多く見られる。これらの不整形な土坑は、微地形に土器を含んだ氾濫土砂が堆積したものの可能性がある。ピットは不整形で浅いものも多く見られ、土坑と同様に土器を含んだ氾濫土砂が堆積した微地形の可能性もある。掘り込みのしっかりした柱穴と思われるものも確認されているが、建物跡を構成するような並びは確認できなかった。

出土した遺物で特徴的なものは、SK30から出土した青銅製の丸軛がある。裏金具が見つかっていないこと、土坑から出土していることから、役人が着けていた帯から落下したものと思われる。またSK59から印と思わ

れる石製品が出土している。下面（印面）が摩耗又は剥離のため印刻された文字が確認できないが、形態から印の可能性が高いと考える。丸軛と印の可能性が高い遺物が出土した状況から、本遺跡が役人の行動範囲内であったと考えられる。

S D 8からは漆が付着した土師器坏が出土している。内側口縁部～体部の約1/4に漆が付着している状況から、縦位置に持って漆塗りの道具（パレット）として使用していたと考えられる。付着している漆の状態は生漆に近い茶色のもの、黒漆、黒漆に粉（砂または木屑）が混ざった下地用と思われる状態の3種類見られ、複数の工程で使用されていたと思われるが、不純物（土器の粉など）が混ざりやすい土師器が使用されていることから下地作業が主体であったと考えられる。ほぼ完形品の漆塗りの道具が割れた状態で出土している状況は、氾濫などによって流れ込んだものと思われ、周辺地域に漆を扱う工房のような施設があったと考えられる。

S K 3からは埋葬された馬の骨が出土した。1頭分の頭骨と四肢骨、もう1頭分と見られる四肢骨が埋葬された状態で出土し、頭骨と四肢骨の位置関係から、自然の状態ではなく解体されてから埋葬されたと考えられる。馬の埋葬土坑がS I 7埋没地に造られたことから、馬を埋葬するときにはすでに本遺跡地内には建物はなく、別の場所に移動していたと考えられる。

本遺跡の位置する利根川と井野川の間地域はAs-B水田と集落域が併存する地域である。As-B水田地域から集落跡などが広がる居住地域へと変わり始める場所である本遺跡で、役人が使用する帯金具と印と考えられる石製品、漆を扱う職人の使用した道具が出土したこと、そして馬の埋葬土坑が確認されたことは当時の様子を考えるうえで非常に大きな手掛かりとなるものとする。

参考文献

- 高崎市教育委員会ほか 2013 高崎市文化財調査報告書第317集 『萩原・沖中遺跡7 西横手・西免遺跡4 西横手・西免遺跡5』
- 高崎市教育委員会 2007 高崎市文化財調査報告書第209集 『萩原沖中Ⅱ遺跡』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団ほか 2002 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第310集 『宿横手三波川遺跡 西横手遺跡群』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団ほか 2002 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第290集 『上滝榎町北遺跡』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団ほか 2002 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第289集 『上滝榎町北遺跡・上滝Ⅱ遺跡』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団ほか 1999 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第258集 『上滝五反畑遺跡』
- 高崎市遺跡調査会 1997 高崎市遺跡調査会報告書第63集 『上滝榎町北Ⅱ遺跡』

第2表 出土土器観察表

(): 推定 []: 遺存

挿図	番号	出土位置	種別・器種	法量 (cm)			胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	遺存状況
				口径	底径	器高					
06図	1	SI 1 覆土	土師器 甕	—	(6.0)	[2.2]	密	良好	にぶい 褐色	外面：胴下部斜位ヘラケズリ、底部ヘラケズリ。内面：胴下部～底部横位・縦位ヘラナデ。	胴下部～底部 1/5
06図	2	SI 1 床面	土師器 環	(13.8)	丸底	4.0	やや密	良好	黄灰色	外面：口縁部ヨコナデ、体上部ナデ、体下部～底部横位斜位ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	1/4
06図	3	SI 1 床面	須恵器 環	(12.7)	6.1	4.0	密	酸化焰 焼成	褐灰色	外面：ロクロナデ、底部回転系切り。内面：ロクロナデ、黒色処理か黒斑か。	口縁部～底部 3/4
07図	1	SI 2 床面	土師器 甕	(16.0)	—	[4.6]	密	良好	橙色	外面：口縁部ヨコナデ、頸部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～頸部ヨコナデ・斜位ヘラナデ。	口縁部～頸部 1/8
07図	2	SI 2 床面	土師器 環	12.2	8.7	3.0	密	良好	にぶい 褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体上部ナデ、体下部横位ヘラケズリ、底部ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	完形
07図	3	SI 2 床面	土師器 環	(10.8)	—	[2.9]	密	良	橙色	外面：口縁部ヨコナデ、体部斜位ヘラナデ。内面：口縁部～体部ナデ。	口縁部～体部 1/8
07図	4	SI 2 覆土	土師器 環	(13.0)	(12.8)	[2.5]	密	良好	橙色	外面：口縁部ヨコナデ、体部横位・斜位ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ。	口縁部～体部 1/6
07図	5	SI 2 覆土	須恵器 高台環	—	—	[2.3]	密	酸化焰 焼成	にぶい 黄褐色	外面：体部ロクロナデ・ナデ、高台接合部回転ヘラナデ、底部ヘラナデ。内面体部ナデ後体下部横位ヘラミガキ。黒色処理。	体部～底部 1/5
07図	6	SI 2 覆土	須恵器 壺	—	(16.6)	[2.6]	密	還元焰 焼成	灰白色	外面：体下部～高台部ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ後高台貼付。内面：体下部～底部・高台部ロクロナデ。	体下部～高台部 3/4
07図	7	SI 2 覆土	須恵器 環	(12.9)	(7.5)	4.0	密	還元焰 焼成	灰白色	外面：ロクロナデ、底部回転ヘラ切り後体下部回転ヘラケズリ。内面：ロクロナデ。	1/5
07図	8	SI 2 覆土	須恵器 環	(12.0)	(8.3)	3.7	密	還元焰 焼成	灰白色	外面：ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後体下部回転ヘラケズリ。内面：ロクロナデ。	1/2
07図	9	SI 2 覆土	須恵器 環	(12.5)	6.6	4.0	やや密	還元焰 焼成	灰色	外面：口縁部～体中部ロクロナデ、体下部ヘラケズリ、底部回転系切り後ヘラケズリ。内面：口縁部～底部ロクロナデ。	口縁部～体部 1/8 底部完存
07図	10	SI 2 床面	須恵器 高台環	—	(7.0)	[2.3]	密	還元焰 焼成	灰色	外面：体下部～高台部ロクロナデ、底部回転系切り後高台貼付、外縁ナデ。内面：体下部～底部ロクロナデ。	口縁部～高台部 3/4
07図	11	SI 2 覆土	須恵器 甕	—	—	[13.5]	密	還元焰 焼成	褐灰色	外面：平行タタキメ後4条一単位のカキメ3条、自然軸付着。内面：ナデ後横位ハケメ。	胴部破片
08図	1	SI 3 床面	土師器 甕	(21.8)	—	[6.4]	やや密	良好	明赤褐 色	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴上部斜位ヘラナデ。内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴上部ナデ。	口縁部～胴上部 破片
08図	2	SI 3 覆土	土師器 甕	—	(6.0)	[2.8]	やや密	良	にぶい 褐色	外面：胴下部斜位ヘラケズリ、底部ヘラケズリ。内面：胴下部～底部斜位・横位ヘラナデ。	胴下部～底部 1/5
08図	3	SI 3 覆土	土師器 環	(10.7)	(10.5)	[2.8]	密	良好	にぶい 褐色	径8mmの孔あり、焼成後穿孔か。外面：口縁部～体上部ヨコナデ、体下部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ。	口縁部～体部 1/8
08図	4	SI 3 覆土	須恵器 高台環	—	6.4	[2.1]	密	酸化焰 焼成	灰白色	外面：体下部ロクロナデ、底部回転系切り後高台貼付、高台部ナデ。内面：体下部～底部ロクロナデ、高台貼付後高台部ナデ。	体下部～高台部 1/2
08図	5	SI 3 覆土	須恵器 蓋	—	(15.3)	[3.3]	密	還元焰 焼成	灰色	外面：体部～裾部ロクロナデ。内面：体部～裾部ロクロナデ。	体部～裾部 1/8
08図	6	SI 3 覆土	須恵器 甕	—	—	[6.0]	密	還元焰 焼成	褐灰色	外面：斜位ヘラナデ。内面：同心円状当て具痕。	胴部破片
09図	1	SI 7 床面	土師器 甕	(24.4)	—	[9.7]	やや密	良好	橙色	外面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴上部横位・斜位ヘラケズリ。内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴上部横位ヘラナデ。	口縁部～胴上部 1/3
09図	2	SI 7 床面	土師器 甕	(21.7)	—	[7.8]	やや密	良好	灰褐色	外面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴上部横位ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナデ、頸部横位ヘラナデ、胴上部ナデ。	口縁部～胴上部 1/4
09図	3	SI 7 覆土	土師器 甕	(20.7)	—	[7.4]	やや密	良好	にぶい 褐色	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、頸部～胴上部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴上部横位・斜位ヘラナデ。	口縁部～胴上部 1/5
09図	4	SI 7 覆土	土師器 甕	(18.2)	—	[6.3]	密	良好	にぶい 褐色	外面：口縁部ヨコナデ、頸部横位ヘラナデ、胴上部縦位ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴上部横位ヘラナデ。	口縁部～胴上部 1/6
09図	5	SI 7 覆土	土師器 甕	(20.8)	—	[4.8]	密	良好	にぶい 褐色	外面：口縁部ヨコナデ、頸部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～頸部ヨコナデ、一部斜位ヘラナデ。	口縁部～頸部 1/8
09図	6	SI 7 覆土	土師器 甕	—	(4.3)	[2.1]	やや密	良好	褐色	外面：胴下部斜位ヘラケズリ、底部ヘラケズリ。内面：胴下部ナデ、底部横位ヘラケズリ。	底部 1/2
09図	7	SI 7 覆土	土師器 甕	—	(5.8)	[2.2]	密	良好	にぶい 赤褐色	外面：胴下部斜位ヘラケズリ、底部ヘラケズリ。内面：胴下部ナデ、底部斜位ヘラナデ。	底部 1/8
09図	8	SI 7 覆土	土師器 小型甕	(10.4)	—	[5.2]	密	良	にぶい 褐色	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴上部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴上部横位ヘラナデ。	口縁部～胴上部 1/4
09図	9	SI 7 覆土	土師器 小型甕	(5.5)	—	[4.0]	やや密	やや 不良	明赤 褐色	ミニチュア土器か。外面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部横位・斜位ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ。	口縁部～体部 1/4
09図	10	SI 7 覆土	土師器 台付甕	—	(7.5)	[2.7]	密	良好	にぶい 赤褐色	外面：台部ヨコナデ。内面：台部ヨコナデ。	脚部 1/4
09図	11	SI 7 覆土	土師器 環	(14.3)	丸底	5.0	密	良好	褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部斜位ヘラケズリ。内面：口縁部～体上部ヨコナデ、体下部～底部ナデ。	1/5
09図	12	SI 7 覆土	土師器 環	12.6	丸底	3.6	やや密	良好	にぶい 赤褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体上部ナデ、体下部～底部斜位・横位ヘラケズリ。内面：口唇部は、玉縁状を呈する。口縁部～体上部ヨコナデ、体下部～底部ナデ。	4/5
09図	13	SI 7 床面	土師器 環	(15.3)	丸底	[4.4]	密	良好	にぶい 褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部横位・斜位ヘラケズリ。内面：口縁部～体上部ヨコナデ、体下部～底部ナデ。	2/5
09図	14	SI 7 床面	土師器 環	(13.2)	丸底	3.2	密	良好	にぶい 褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体上部ナデ、体下部～底部斜位・横位ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	1/2
09図	15	SI 7 床面	土師器 環	(13.0)	—	[4.2]	密	良好	にぶい 褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体上部ナデ、一部斜位ヘラナデ、体下部横位・斜位ヘラケズリ。内面：口縁部～体上部ヨコナデ、体下部ナデ。	口縁部～体部 1/5
09図	16	SI 7 上層	土師器 環	(13.7)	—	[3.3]	密	良	にぶい 褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体上部横位・斜位ヘラナデ、体下部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ナデ。	口縁部～体部 1/8
09図	17	SI 7 覆土	土師器 環	(13.8)	—	[3.7]	密	良好	褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～体上部ヨコナデ、体下部ナデ。	口縁部～体部 1/8
09図	18	SI 7 覆土	土師器 環	(12.0)	—	[3.1]	密	良好	褐色	外面：口縁部ヨコナデ・指頭圧痕、体部斜位ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ナデ。	1/5
09図	19	SI 7 覆土	土師器 環	(12.3)	—	[3.9]	密	良好	にぶい 褐色	外面：口縁部ヨコナデ後下部斜位ヘラナデ、体部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ナデ、斜位ナデ。	口縁部～体部 1/4

(): 推定 []: 遺存

挿図	番号	出土位置	種別・器種	法量 (cm)			胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	遺存状況
				口径	底径	器高					
09 図	20	SI 7 床面	土師器 環	(11.3)	(11.0)	[2.7]	密	良好	にぶい 橙色	外面：口縁部ヨコナデ、体上部横位・斜位ヘラナデ、体下部横位ヘラケズリ。 内面：口縁部～体部ヨコナデ。	口縁部～体部 1 / 8
09 図	21	SI 7 覆土	土師器 環	(12.4)	—	[3.0]	密	良好	橙色	外面：口唇部わずかに玉縁状を呈する。外面：口縁部ヨコナデ、体部斜位・横位 ヘラケズリ後一部斜位ヘラナデ。内面：口縁部～体上部ヨコナデ、体下部ナデ。	1 / 5
09 図	22	SI 7 覆土	土師器 高環	(14.2)	—	[4.1]	密	良	橙色	外面：口縁部～体部ナデ後一部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ヨコ ナデ縦位ヘラミガキ。暗文。	口縁部～体部 1 / 6
09 図	23	SI 7 覆土	須恵器 壺	(13.0)	—	[2.5]	密	還元焰 焼成	褐灰色	外面：口縁部～頸部ロクロナデ。内面：口縁部～頸部ロクロナデ。	口縁部～頸部 1 / 4
09 図	24	SI 7 覆土	須恵器 短頸壺	(11.0)	—	[2.6]	密	還元焰 焼成	灰白色	口唇部面取り、内面はわずかに玉縁状を呈する。外面：口縁部ロクロナデ。 内面：口縁部ロクロナデ。	口縁部 1 / 5
09 図	25	SI 7 覆土	須恵器 壺	—	(10.6)	[1.3]	密	還元焰 焼成	黄灰色	外面：底部回転ヘラ切り後高台貼付、高台部回転ナデ。内面：底部ロクロ ナデ、高台貼付後高台部回転ナデ。	底部～高台部 1 / 3
09 図	26	SI 7 覆土	須恵器 環	(13.2)	(8.0)	4.1	やや密	還元焰 焼成	褐灰色	外面：ロクロナデ、底部回転系切り。内面：ロクロナデ。	1 / 4
09 図	27	SI 7 覆土	須恵器 環	(13.0)	(8.0)	3.4	密	還元焰 焼成	明褐灰 色	外面：ロクロナデ後体下部回転ヘラケズリ、底部切り難し後回転ヘラケズリ。 内面：ロクロナデ。	1 / 5
09 図	28	SI 7 覆土	須恵器 環	(13.4)	(9.4)	3.4	密	還元焰 焼成	灰白色	外面：口縁部～体部ロクロナデ、底部切り難し後ヘラケズリ。内面：口縁部 ～底部ロクロナデ。	1 / 3
09 図	29	SI 7 覆土	須恵器 環	—	(10.0)	[2.2]	密	還元焰 焼成	黄灰色	外面：体部ロクロナデ、体下部回転ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面：体下 部～底部ロクロナデ。	体下部～底部 1 / 4
09 図	30	SI 7 覆土	須恵器 蓋	3.9	—	[2.9]	密	還元焰 焼成	褐灰色	外面：つまみ部ロクロナデ、体部回転ヘラナデ。内面：つまみ部ロクロナデ、 体部ロクロナデ。	つまみ部～体中部 完存
09 図	31	SI 7 覆土	須恵器 蓋	—	(16.3)	[2.0]	密	還元焰 焼成	褐灰色	内面に断面三角形の小さな「かえし」が付く。外面：ロクロナデ。内面：ロ クロナデ。	体下部～底部 1 / 4
09 図	32	SI 7 床面	須恵器 甕	—	—	[8.4]	密	還元焰 焼成	褐灰色	外面：格子目状タタキメ・平行タタキメ。内面：同心円状当て具痕・横位ハケメ。	胴部破片
12 図	1	SI 4 床面	土師器 甕	(18.0)	—	[3.7]	密	良好	橙色	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴上部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～頸部 ヨコナデ・横位ヘラナデ。	口縁部～頸部 1 / 8
12 図	2	SI 4 覆土	土師器 環	(15.6)	丸底	4.3	密	良好	にぶい 褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体上部指頭圧痕、体下部～底部斜位・横位ヘラケズ リ。内面：口縁部～体上部ヨコナデ、体下部～底部ナデ。	1 / 4
12 図	3	SI 4 覆土	土師器 環	(11.4)	丸底	3.0	密	良好	にぶい 褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～底部ナデ。	1 / 5
12 図	4	SI 4 床面	土師器 環	(13.0)	—	[3.0]	密	良好	にぶい 褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体上部ナデ、体下部横位ヘラケズリ。内面：口唇部 は一部玉縁状を呈する。口縁部～体下部ヨコナデ。	口縁部～体下部 1 / 5
12 図	5	SI 4 覆土	須恵器 壺	—	—	[8.2]	密	還元焰 焼成	灰色	外面：胴下部～高台部ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ後高台貼付。内面： 胴下部～底部・高台部ロクロナデ。	胴下部～高台部 1 / 4
12 図	6	SI 4 覆土	須恵器 環	(12.3)	(7.2)	4.1	密	還元焰 焼成	褐灰色	外面：ロクロナデ、底部回転系切り。内面：ロクロナデ。	1 / 4
12 図	7	SI 4 覆土	須恵器 甕	—	—	[4.5]	密	還元焰 焼成	黄灰色	外面：平行タタキメ。内面：同心円状当て具痕。	胴部破片
13 図	1	SI 6 床面	土師器 甕	(18.9)	—	[5.5]	やや密	良好	明赤 褐色	崩れたコ字状口縁。外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴上部横位ヘラケズリ。 内面：口縁部～胴上部ヨコナデ。	口縁部胴上部 1 / 4
13 図	2	SI 6 覆土	土師器 甕	—	5.0	[3.5]	やや粗	良好	明赤 褐色	外面：胴下部斜位・横位ヘラケズリ、底部ヘラケズリ。内面：胴下部横位 ヘラナデ、底部ナデ。	体下部～底部 1 / 3
13 図	3	SI 6 覆土	土師器 甕	—	(4.6)	[3.0]	密	良好	にぶい 褐色	外面：胴下部斜位ヘラケズリ、底部ヘラケズリ。内面：胴下部横位ヘラナデ、 底部ナデ。	体下部～底部 1 / 2
13 図	4	SI 6 覆土	土師器 甕	—	(3.6)	[2.5]	やや密	良好	にぶい 赤褐色	外面：胴下部斜位ヘラケズリ、底部ヘラケズリ。内面：胴下部～底部コゲ？ 付着物のため調整不明。	体下部～底部 1 / 5
13 図	5	SI 6 覆土	土師器 環	(12.4)	—	[3.6]	密	良	にぶい 褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体上部横位・斜位ヘラナデ、体下部横位ヘラケズリ。 内面：口縁部～体上部ヨコナデ、体下部ナデ。	口縁部～体下部 1 / 2
13 図	6	SI 6 覆土	土師器 環	(13.4)	丸底	3.4	密	良好	にぶい 黄褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～体上部 ヨコナデ、体下部～底部ナデ。	1 / 2
13 図	7	SI 6 覆土	土師器 環	(12.5)	丸底	3.5	密	良好	にぶい 褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体上部横位ヘラナデ、体下部～底部縦位ヘラケズリ。 内面：口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	2 / 3
13 図	8	SI 6 覆土	土師器 環	(11.6)	(9.0)	3.0	密	良好	にぶい 褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体部横位ヘラナデ、底部横位ヘラケズリ。内面：口 縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	1 / 3
13 図	9	SI 6 床面	土師器 環	(14.0)	—	[3.7]	密	良	褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体部横位・斜位ヘラケズリ。内面：口縁部～体部 ヨコナデ。	口縁部～体部 1 / 6
13 図	10	SI 6 床面	須恵器 短頸壺	(10.4)	—	[6.0]	密	還元焰 焼成	灰白色	口唇部面取り、内面が玉縁状を呈する。外面：口縁部～肩部ロクロナデ。 内面：口縁部～肩部ロクロナデ。	口縁部～肩部 1 / 4
13 図	11	SI 6 覆土	須恵器 壺	(16.0)	—	[2.8]	密	還元焰 焼成	暗灰色	外面：口縁部～頸部ロクロナデ。内面：口縁部～頸部ロクロナデ。	口縁部 1 / 8
13 図	12	SI 6 覆土	須恵器 壺	—	(10.6)	[3.0]	密	還元焰 焼成	褐灰色	外面：胴下部ロクロナデ、底部ヘラケズリ、高台貼付後胴下部～高台部回転 ナデ。内面：胴下部～底部ロクロナデ、高台貼付後底部外縁～高台部回転ナデ。	胴下部～高台部 1 / 3
13 図	13	SI 6 床面	須恵器 環	(13.2)	(7.4)	3.9	密	還元焰 焼成	褐灰色	外面：口縁部～体部ロクロナデ、底部回転系切り。内面：口縁部～底部ロク ロナデ。	1 / 4
13 図	14	SI 6 覆土	須恵器 環	(12.8)	(7.0)	3.5	密	還元焰 焼成	灰白色	外面：ロクロナデ、底部回転系切り後体下部～底部回転ヘラケズリ。内面： ロクロナデ。	1 / 2
13 図	15	SI 6 覆土	須恵器 環	—	(5.5)	[2.2]	密	還元焰 焼成	灰白色	外面：ロクロナデ、底部回転系切り。内面：ロクロナデ。	体下部～底部 1 / 2
13 図	16	SI 6 覆土	須恵器 環	(14.0)	(8.6)	3.7	密	酸化焰 焼成	灰白色	外面：口縁部～体部ロクロナデ、底部切り難し後底部～体下部ヘラナデ。 内面：口縁部～底部磨減激しく調整不明、底部外縁ナデ痕で凹む。	1 / 4
13 図	17	SI 6 床面	須恵器 環	—	(6.4)	[2.2]	密	酸化焰 焼成	灰白色	外面：体部ロクロナデ、底部切り難し後ヘラケズリ。内面：体部～底部ロク ロナデ。	体部～底部 1 / 4
13 図	18	SI 6 覆土	須恵器 高台環	—	6.4	[2.4]	密	酸化焰 焼成	灰白色	外面：体下部ロクロナデ、底部回転系切り後高台貼付、高台部ナデ。内面： 体下部～底部ロクロナデ、高台貼付後ナデ。	体下部～底部 完存
13 図	19	SI 6 覆土	須恵器 甕	—	—	[11.0]	密	還元焰 焼成	褐灰色	外面：格子目状タタキメ。内面：同心円・平行当て具痕。	胴部破片

(): 推定 []: 遺存

挿図	番号	出土位置	種別・器種	法量 (cm)			胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	遺存状況
				口径	底径	器高					
15	1	SI 5 覆土	土師器 甕	(20.6)	—	[3.3]	密	良好	明赤 褐色	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、頸部にヘラの角痕あり。内面：口縁部～頸部ヨコナデ。	口縁部～頸部 1/8
15	2	SI 5 覆土	土師器 甕	(19.6)	—	[3.2]	密	良好	にぶい 褐色	外面：口縁部ヨコナデ、頸部横位ヘラケズリ・横位ヘラナデ。内面：口縁部～頸部ヨコナデ。	口縁部～頸部 1/8
15	3	SI 5 覆土	土師器 甕	—	(14.0)	[2.8]	密	良好	にぶい 褐色	底部が筒抜けの形態。外面：胴下部斜位・横位ヘラナデ、底端部ヘラケズリ。内面：胴下部斜位ヘラナデ、底端部横位ヘラケズリ。	胴下部～底部 1/8
15	4	SI 5 覆土	土師器 環	(11.8)	丸底	[3.5]	密	良好	にぶい 褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部斜位・横位ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	口縁部～底部 1/4
15	5	SI 5 床面	土師器 環	(11.8)	—	[3.2]	密	良	褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ。	口縁部～体部 1/8
15	6	SI 5 覆土	土師器 環	(12.0)	—	[3.6]	密	良好	にぶい 褐色	口縁部が内湾する。外面：口縁部ヨコナデ、体上部斜位ヘラナデ、体下部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～体上部ヨコナデ、体下部ナデ。	口縁部～体部 1/8
15	7	SI 5 覆土	須恵器 甕	—	—	[4.9]	密	還元焰 焼成	褐色	外面：平行タタキメ後4条一単位カキメ。内面：ナデ後横位・斜位ハケメ。	胴部破片
17	1	SD 2 覆土	土師器 環	(12.9)	—	[2.8]	密	良好	褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体上部横位ヘラナデ、体下部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ。	口縁部～体部 破片
17	2	SD 3 覆土	土師器 甕	—	(4.9)	[3.8]	密	良好	褐色	外面：胴下部斜位ヘラケズリ、底部ヘラナデ。内面：胴下部斜位ヘラケズリ、工具端部痕あり、底部ナデ。	胴下部～底部 破片
17	3	SD 3 覆土	土師器 環	(12.6)	—	[2.9]	密	良好	褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体上部斜位ヘラナデ、体下部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ。	口縁部～体部 破片
17	4	SD 3 底面	須恵器 蓋	5.4	—	[1.9]	密	還元焰 焼成	灰色	端部が内側へ屈曲する輪状のつまみ。外面：つまみ部ロクロナデ、屈曲部の稜は明瞭。内面：つまみ部ロクロナデ、体部ロクロナデ。	つまみ部 ほぼ遺存
17	5	SD 3 底面	須恵器 壺	—	—	[6.7]	密	還元焰 焼成	灰色	外面：ロクロナデ。内面：ロクロナデ。	胴部破片
17	6	SD 3 底面	須恵器 羽釜	—	—	[7.9]	密	酸化焰 焼成	灰黄色	外面：ヨコナデ後鋳貼付、幅広部は把手か。内面：ロクロナデ。	鋳部破片
17	7	SD 3 底面	須恵器 甕	—	—	[6.6]	密	還元焰 焼成	灰色	外面：上部横位・斜位ハケメ、下部ナデ。内面：平行当て具痕。	胴部破片
17	8	SD 9 覆土	土師器 環	(12.8)	—	[3.0]	密	良好	褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ。内面：口縁部～体部ヨコナデ。	口縁部～体部 破片
19	1	SD 4 覆土	土師器 甕	(22.0)	—	[6.9]	やや密	良好	褐色	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴上部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴上部横位ヘラナデ。	口縁部～胴上部 1/3
19	2	SD 4 覆土	土師器 甕	—	(5.0)	[2.6]	やや密	良好	明赤 褐色	外面：胴下部斜位ヘラケズリ、底部ヘラケズリ。内面：胴下部～底部ヘラナデか。	胴下部～底部 破片
19	3	SD 4 覆土	土師器 高環	(15.4)	—	[4.1]	密	良	にぶい 褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体部横位・斜位ヘラナデ。内面：口縁部～体部ヨコナデ後縦位ヘラミガキ。暗文。	口縁部～体部 1/8
19	4	SD 4 覆土	土師器 環	(13.2)	—	[2.7]	密	良好	にぶい 褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体上部横位ヘラナデ、体下部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ。	口縁部～体部 1/4
19	5	SD 4 上層	土師器 環	(13.6)	—	[3.4]	密	良好	にぶい 褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体上部斜位・横位ヘラナデ、体下部～底部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	1/3
19	6	SD 4 覆土	土師器 環	(12.7)	丸底	[3.5]	密	良好	にぶい 褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体上部横位・斜位ヘラナデ、体下部～底部斜位・横位ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	1/4
19	7	SD 4 覆土	須恵器 甕	—	—	[5.9]	密	還元焰 焼成	灰色	外面：頸部ロクロナデ、胴上部平行タタキメ後一部縦位ハケメ。自然袖付着。内面：頸部ロクロナデ・自然袖付着、胴上部当て具痕後ナデ。	頸部～胴上部 1/8
19	8	SD 4 覆土	須恵器 壺	—	—	[3.1]	密	還元焰 焼成	灰色	外面：肩部回転ヘラナデ、沈線3条、自然袖付着。内面：肩部ロクロナデ。	肩部破片
19	9	SD 4 覆土	須恵器 壺	—	(11.2)	[6.5]	密	還元焰 焼成	灰白色	外面：胴下部ロクロナデ、ナデ。内面：胴下部～底部ロクロナデ。	胴下部～底部 破片
19	10	SD 4 覆土	須恵器 甕	—	(11.2)	[5.0]	密	還元焰 焼成	灰色	外面：胴下部斜位ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面：胴下部斜位・横位ヘラナデ。	胴下部～底部 1/8
19	11	SD 4 覆土	須恵器 環	(12.3)	(9.0)	[3.4]	密	還元焰 焼成	灰色	外面：口縁部～体部ロクロナデ、底部ヘラケズリ。内面：口縁部～底部ロクロナデ。	口縁部～底部 1/5
19	12	SD 4 覆土	須恵器 環	(11.7)	7.5	3.5	やや密	還元焰 焼成	灰色	外面：口縁部～体上部ロクロナデ、体下部回転ヘラケズリ、底部切り離し後回転ヘラケズリ。内面：口縁部～底部ロクロナデ。	1/2
19	13	SD 4 覆土	須恵器 甕	—	—	[11.8]	密	還元焰 焼成	灰色	外面：平行タタキメ後横位（回転）カキメ、自然袖付着。内面：同心円状当て具痕後下部ナデ。	胴部破片
19	14	SD 4 覆土	須恵器 甕	—	—	[17.1]	密	還元焰 焼成	黄灰色	外面：平行タタキメ後上部横位ヘラナデ、中部～下部ナデ。内面：平行当て具痕後一部同心円状当て具痕。	胴部破片
19	15	SD 4 覆土	須恵器 甕	—	—	[13.8]	密	還元焰 焼成	黄灰色	外面：平行タタキメ。内面：同心円状当て具痕後下部ナデ。	胴部破片
21	1	SD 5 底面	須恵器 高台環	—	(7.8)	[2.2]	やや密	酸化焰 焼成	灰白色	外面：体下部ロクロナデ、底部回転糸切り後高台貼付、高台部回転ナデ。内面：体下部～底部ロクロナデ。底部中央「○」線刻、高台貼付後高台ナデ。	体下部～高台部 1/3
21	2	SD 6 覆土	土師器 環	(11.7)	(8.9)	[3.7]	密	良好	にぶい 赤褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体上部横位ヘラナデ、体下部横位ヘラケズリ、底部斜位ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	口縁部～底部 破片
21	3	SD 6 覆土	須恵器 環	—	(9.6)	[2.6]	密	酸化焰 焼成	灰白色	外面：体部ロクロナデ、底部回転糸切り。内面：体下部～底部ロクロナデ。	体下部～底部 1/4
21	4	SD 7 底面	須恵器 甕	(20.9)	—	[5.8]	密	還元焰 焼成	黄灰色	口唇部は断面三角形形状を呈する。外面：口縁部～胴上部ロクロナデ。内面：口縁部～胴上部ロクロナデ。	口縁部～胴上部 1/8
25	1	SD 8B北 底面	土師器 甕	(25.3)	—	[10.0]	やや密	良好	明赤 褐色	外面：口縁部～頸部ヨコナデ・指頭圧痕、胴部横位ヘラケズリ。内面：口縁部端部一部玉縁状を呈する。口縁部～頸部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	口縁部～胴上部 1/4
25	2	SD 8B北 覆土	土師器 甕	(25.7)	—	[9.5]	やや密	良好	灰褐色	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、頸部～胴上部横位・斜位ヘラケズリ。内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴上部ナデ。	口縁部～胴上部 1/5
25	3	SD 8B北 覆土	土師器 甕	(17.7)	—	[17.8]	やや密	良好	にぶい 褐色	外面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴上部横位ヘラケズリ、胴中部斜位ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	口縁部～胴中部 1/4
25	4	SD 8B北 覆土	土師器 甕	(25.2)	—	[15.0]	やや密	良好	明赤 褐色	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴上部横位ヘラケズリ、胴中部斜位ヘラケズリ。内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ナデ。	口縁部～胴中部 1/5
25	5	SD 8B北 覆土	土師器 甕	(21.7)	—	[6.8]	密	良好	褐色	外面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴上部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴上部ナデ。	口縁部～胴上部 1/4

(): 推定 []: 遺存

挿図	番号	出土位置	種別・器種	法量 (cm)			胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	遺存状況
				口径	底径	器高					
25 図	6	SD 8 A 底面	土師器 甕	—	(7.0)	[4.9]	やや密	良好	にぶい 褐色	外面：胴下部斜位・横位ヘラケズリ、底部ヘラケズリ。内面：胴下部横位ヘラナデ、底部ナデ。	胴下部～底部 1 / 5
25 図	7	SD 8 B 南 覆土	土師器 鉢	(23.6)	—	[10.9]	やや密	良好	にぶい 褐色	外面：口縁部ヨコナデ、頸部横位ヘラナデ、体部横位・斜位ヘラケズリ。内面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部ナデ。	口縁部～体部 1 / 8
25 図	8	SD 8 A 底面	土師器 坏	13.7	丸底	4.2	密	良好	褐色	内面口縁部～体部の1/4の範囲に漆が付着する。その部分が下になるように縦位置に持って漆塗りの道具として使用されたものと思われる。外面：口縁部ヨコナデ、漆垂れあり。体上部横位ヘラナデ、体下部～底部横位・縦位ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ、一部に斜位ヘラ痕あり、使用時の工具痕か。底部ナデ。漆に筆のぬぐい痕、「チヂミ」が見られる。	ほぼ完形
25 図	9	SD 8 B 南 覆土	土師器 坏	12.7	丸底	3.5	やや密	良好	褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体上部横位ヘラナデ、体下部～底部横位・縦位ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	4 / 5
25 図	10	SD 8 B 北 覆土	土師器 坏	(14.0)	(12.0)	[3.9]	やや密	良好	褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体上部ナデ、指頭圧痕、体下部～底部横位・斜位ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	1 / 4
25 図	11	SD 8 B 北 覆土	土師器 坏	(12.8)	(10.5)	3.5	密	良好	褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体上部ナデ、体下部～底部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	1 / 3
25 図	12	SD 8 A 覆土	土師器 坏	(12.6)	丸底	3.5	やや密	良好	にぶい 褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体上部ナデ、体下部～底部斜位ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	2 / 5
25 図	13	SD 8 A 底面	土師器 坏	(13.0)	(11.0)	3.4	密	良好	褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体上部ナデ・斜位ヘラナデ、体下部～底部横位・斜位ヘラケズリ。内面：口縁部～底部ヨコナデ。	1 / 3
25 図	14	SD 8 A 覆土	土師器 坏	(13.2)	—	[3.3]	密	良好	にぶい 褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体上部横位ヘラナデ、体下部～底部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	1 / 5
25 図	15	SD 8 A 底面	土師器 坏	(12.0)	(9.7)	[3.2]	密	良好	にぶい 褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体上部斜位ヘラナデ、体下部斜位ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ。	口縁部～体部 1 / 5
25 図	16	SD 8 B 北 覆土	土師器 坏	(14.1)	丸底	[4.1]	やや密	良好	にぶい 赤褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体上部ナデ・横位ヘラナデ、体下部～底部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	1 / 3
25 図	17	SD 8 B 南 覆土	土師器 坏	(13.2)	丸底	3.9	やや密	良好	にぶい 褐色	外面：磨減激しく調整不明。内面：口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	1 / 4
25 図	18	SD 8 B 北 覆土	土師器 坏	(13.0)	—	[2.9]	密	良好	褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～体上部ヨコナデ、底部ナデ。	1 / 4
25 図	19	SD 8 B 北 底面	土師器 坏	(14.7)	丸底	4.3	やや密	良好	にぶい 赤褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体上部ナデ、体下部～底部横位・斜位ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	1 / 5
25 図	20	SD 8 A 覆土	土師器 坏	(13.2)	—	[3.8]	密	良	褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体部磨減激しく単位不明、ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ後斜位ヘラミガキ。暗文。	口縁部～体部 2 / 5
25 図	21	SD 8 B 北 覆土	須恵器 壺	(19.0)	—	[5.6]	密	還元焰 焼成	灰白色	外面：口唇部面取り、口縁部～胴上部クロコナデ。内面：口縁部～胴上部クロコナデ。	口縁部～胴上部 1 / 5
25 図	22	SD 8 B 北 覆土	須恵器 壺	—	—	[13.0]	密	還元焰 焼成	褐色	外面：肩部～胴中部ナデ後肩部3条一単位横位カキメ、胴下部回転ヘラケズリ。内面：肩部～胴部クロコナデ、胴下部自然袖付着。	肩部～胴部 1 / 5
25 図	23	SD 8 B 北 覆土	須恵器 坏	(12.8)	(8.6)	[3.5]	密	還元焰 焼成	灰白色	外面：口縁部～体部クロコナデ、底部回転ヘラ切り・自然袖付着。内面：口縁部～底部クロコナデ。	口縁部～底部 1 / 4
25 図	24	SD 8 B 北 覆土	須恵器 坏	(14.3)	(9.7)	[3.3]	密	還元焰 焼成	褐色	外面：口縁部～体部クロコナデ、底部ヘラケズリ。内面：口縁部～底部クロコナデ。	ほぼ完形
25 図	25	SD 8 B 北 覆土	須恵器 坏	(14.8)	(10.0)	[3.3]	密	還元焰 焼成	灰白色	外面：口縁部～体部クロコナデ、底部回転ヘラ切り。内面：口縁部～底部クロコナデ。	口縁部～底部 1 / 2
25 図	26	SD 8 B 北 覆土	須恵器 坏	(14.5)	(8.3)	[3.6]	密	還元焰 焼成	灰白色	外面：口縁部～体部クロコナデ、底部ヘラケズリ。内面：口縁部～底部クロコナデ。	口縁部～体部 2 / 3
26 図	27	SD 8 B 北 覆土	須恵器 坏	13.5	8.5	3.8	密	還元焰 焼成	黄灰色	外面：口縁部～体部クロコナデ、底部回転ヘラ切り。内面：口縁部～底部クロコナデ。	口縁部～体部 1 / 2 底部ほぼ完形
26 図	28	SD 8 B 南 覆土	須恵器 坏	13.2	7.1	3.9	密	還元焰 焼成	灰白色	外面：口縁部～体部クロコナデ、底部回転系切り後外縁ヘラケズリ。内面：口縁部～底部クロコナデ。	ほぼ完形
26 図	29	SD 8 A 底面	須恵器 坏	(12.7)	6.5	[3.8]	密	還元焰 焼成	灰白色	外面：口縁部～体部クロコナデ、底部回転系切り。内面：口縁部～底部クロコナデ。	口縁部～体部 3 / 4 底部完形
26 図	30	SD 8 A 南 覆土	須恵器 高台坏	—	(7.0)	[2.0]	やや粗	酸化焰 焼成	灰色	外面：体部クロコナデ、底部切り離し後ヘラケズリ・高台貼付、高台部回転ナデ。内面：体部～底部クロコナデ、高台貼付後高台部ナデ。	体下部～高台部 1 / 4
26 図	31	SD 8 A 南 覆土	須恵器 皿か	(20.8)	(18.8)	[1.8]	密	還元焰 焼成	黄灰色	口唇部面取り、外面口縁部は玉縁状を呈する。外面：口縁部～体部クロコナデ、底部回転ナデ。内面：口縁部～底部クロコナデ。	口縁部～底部 1 / 8
26 図	32	SD 8 A 底面	須恵器 蓋	つまみ部 1.4	9.5	2.8	やや密	還元焰 焼成	黄灰色	裾端部を折り曲げ、「かえし」とする。外面：体上部回転ヘラケズリ後頂部にボタン状つまみ貼付、体下部～裾部クロコナデ。内面：体部～裾部クロコナデ。	ほぼ完形
26 図	33	SD 8 B 南 覆土	須恵器 蓋	—	(13.9)	[2.2]	密	還元焰 焼成	灰白色	裾端部を折り曲げ、「かえし」とする。外面：体部～裾部クロコナデ。内面：体部～裾部クロコナデ。	体部～裾部 1 / 5
26 図	34	SD 8 B 北 覆土	須恵器 蓋	—	(13.5)	[1.9]	密	還元焰 焼成	灰白色	裾端部を折り曲げ、「かえし」とする。外面：体上部回転ヘラケズリ。体下部～裾部クロコナデ。内面：体部～裾部クロコナデ。	1 / 5
26 図	35	SD 8 B 北 覆土	須恵器 甕	—	—	[9.0]	密	還元焰 焼成	褐色	外面：ナデ。内面：同心円状当て具痕。	胴部破片
26 図	36	SD 8 B 北 覆土	須恵器 甕	—	—	[7.9]	密	還元焰 焼成	褐色	外面：平行タタキメ・ナデ。内面：同心円状当て具痕。	胴部破片
33 図	1	SK 1 覆土	土師器 坏	(10.8)	—	[2.0]	密	良好	にぶい 褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体部斜位・横位ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ。	口縁部～体部 1 / 8
33 図	2	SK 2 覆土	土師器 坏	(14.1)	—	[3.2]	やや密	良好	褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体上部横位ヘラナデ、体下部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ。	口縁部～体部 1 / 8
33 図	3	SK 2 覆土	須恵器 甕	(11.3)	—	[4.3]	密	還元焰 焼成	灰白色	口唇部面取り。外面：口縁部～胴上部クロコナデ。内面：口縁部～胴上部クロコナデ。	口縁部～胴上部 1 / 8
33 図	4	SK 3 覆土	土師器 甕	—	(3.8)	[1.7]	密	良好	黒	外面：胴下部縦位・斜位ヘラケズリ、底部ヘラケズリ。内面：胴下部～底部ナデ、横位ヘラナデ。	底部 1 / 4
33 図	5	SK 3 覆土	土師器 坏	(13.6)	—	[2.8]	密	良好	にぶい 褐色	外面：口縁部ヨコナデ・指頭圧痕、体部横位・斜位ヘラナデ。内面：口縁部～体部ヨコナデ。	口縁部～体部 1 / 8

(): 推定 []: 遺存

挿図	番号	出土位置	種別・器種	法量 (cm)			胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	遺存状況
				口径	底径	器高					
33	6	SK 3 覆土	須恵器 環	—	(10.2)	[1.1]	密	酸化燻 焼成	灰白色	外面：体部ロクロナデ、底部回転ヘラ切り。内面：底部ロクロナデ。	底部 1 / 3
33	7	SK 3 覆土	須恵器 蓋	—	(10.4)	[1.9]	密	酸化燻 焼成	灰白色	裾端部を折り曲げ、「かえり」とする。外面：体部～裾部ロクロナデ。内面：体部～裾部ロクロナデ。	体部～裾部 1 / 8
33	8	SK 8 覆土	灰軸陶器 高台環	—	(7.6)	[1.9]	密	良好	灰白色	三日月高台Ⅱ類。外面：体下部ロクロナデ、底部回転ヘラ切り後高台貼付、高台部ナデ。内面：体下部～底部ロクロナデ、高台貼付後高台部ナデ。	体下部～高台部 1 / 4
33	11	SK 9 覆土	土師器 環	(12.2)	丸底	[2.4]	密	良好	橙色	外面：口縁部ヨコナデ、体上部横位ヘラナデ、体下部～底部横位ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナデ、体部から底部ナデ。	1 / 5
33	12	SK 9 覆土	須恵器 壺	—	—	[3.3]	密	還元燻 焼成	灰白色	外面：胴上部ロクロナデ。内面：胴上部ロクロナデ。	胴上部 1 / 8
33	13	SK 9 覆土	須恵器 小型壺	—	—	[6.8]	やや密	還元燻 焼成	褐色	外面：胴部ロクロナデ。内面：胴部ロクロナデ。	胴部破片
33	14	SK 9 覆土	須恵器 環	(14.6)	—	[5.5]	密	還元燻 焼成	褐色	外面：口縁部～体部ロクロナデ後体下部ナデ。内面：口縁部～体部ロクロナデ。	口縁部～体部 1 / 5
33	15	SK 9 覆土	須恵器 環	—	(7.8)	[1.7]	密	還元燻 焼成	黄灰色	外面：体下部ロクロナデ、底部回転系切り。内面：体下部～底部ロクロナデ。	体下部～底部 1 / 5
33	16	SK 9 覆土	須恵器 蓋	—	(14.0)	[1.8]	密	還元燻 焼成	褐色	外面：体部～裾部ロクロナデ。内面：体部～裾部ロクロナデ。	体部～裾部 1 / 5
33	17	SK11 覆土	土師器 環	(11.0)	(8.4)	[2.7]	やや密	良好	にぶい 橙色	口唇部が内湾する。外面：口縁部ヨコナデ、体上部縦位・横位ヘラナデ、体下部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ。	口縁部～体部 1 / 8
33	18	SK12 覆土	土師器 環	(10.9)	丸底	[2.9]	やや密	良好	にぶい 橙色	外面：口縁部ヨコナデ、体部横位ヘラナデ、底部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	1 / 3
33	19	SK12 覆土	土師器 環	(11.2)	(8.3)	[3.1]	やや密	良	橙色	口唇部がわずかに内湾する。外面：口縁部ヨコナデ、体部斜位・横位ヘラナデ、底部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～底部ナデ。	口縁部～底部 1 / 8
33	20	SK19 覆土	土師器 環	(12.5)	丸底	[2.8]	密	良好	橙色	外面：口縁部ヨコナデ、体上部ナデ、体下部～底部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～底部ヨコナデ。	口縁部～底部 1 / 8
33	21	SK19 覆土	土師器 環	(15.7)	(9.0)	[4.6]	密	良好	にぶい 橙色	口縁部が内湾する。外面：口縁部～体上部ヨコナデ、体下部斜位・横位ヘラケズリ、底部ヘラケズリ。内面：口縁部～底部ヨコナデ。	1 / 4
33	22	SK20 覆土	須恵器 環	(13.2)	—	[3.2]	密	還元燻 焼成	灰白色	外面：口縁部～体部ロクロナデ。内面：口縁部～体部ロクロナデ。	口縁部～体部 1 / 4
33	23	SK20 覆土	須恵器 高台環	—	(6.4)	[1.8]	密	還元燻 焼成	灰白色	外面：体部ロクロナデ、底部回転系切り後高台貼付、高台部ナデ。内面：体部～底部ロクロナデ、高台貼付後高台部ナデ。	体下部～高台部 完存
33	24	SK21 覆土	土師器 甕	(24.3)	—	[6.4]	やや粗	良好	橙色	外面：口縁部～頸部ヨコナデ・指頭圧痕、胴上部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴上部横位ヘラナデ。	口縁部～胴上部 1 / 8
33	25	SK21 覆土	須恵器 環	—	(8.0)	[1.1]	密	還元燻 焼成	灰色	外面：底部回転系切り後底部外縁～胴下部回転ヘラナデ。内面：体下部～底部ロクロナデ。	体下部～底部 1 / 4
33	27	SK22 覆土	須恵器 高台環	—	—	[3.6]	密	酸化燻 焼成	灰白色	外面：体部ロクロナデ、底部回転系切り後高台貼付。内面：体部～底部ロクロナデ。	体部～底部 2 / 3
33	28	SK23 覆土	須恵器 高台環	—	—	[6.9]	密	還元燻 焼成	灰白色	外面：脚部ロクロナデ後ナデ。内面：脚部ナデ、輪積痕顕著に残る。	脚部完存
33	29	SK24 覆土	土師器 甕	(22.8)	—	[5.0]	やや密	良好	にぶい 黄褐色	コ字状口縁甕。外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴上部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴上部横位・斜位ヘラナデ。	口縁部～胴上部 1 / 8
33	30	SK24 覆土	須恵器 環	—	(7.6)	[1.9]	密	還元燻 焼成	灰白色	外面：体部ロクロナデ、底部回転系切り後外縁部ヘラナデ。内面：体部～底部ロクロナデ。	体部～底部 1 / 3
35	1	SK25 覆土	須恵器 環	11.0	6.0	3.4	密	還元燻 焼成	黄灰色	外面：口縁部～体部ロクロナデ、底部回転系切り後外縁～体下部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～底部ロクロナデ。	1 / 2
35	2	SK27 覆土	須恵器 鉢	(19.0)	—	[3.5]	密	還元燻 焼成	灰白色	口唇部面取り。内面はわずかに玉縁状を呈する。外面：口縁部～体部ロクロナデ。内面：口縁部～体部ロクロナデ。	口縁部～体部 1 / 5
35	3	SK29 覆土	須恵器 環	(11.0)	—	[3.1]	密	還元燻 焼成	褐色	外面：口縁部～体部ロクロナデ。内面：口縁部～体部ロクロナデ。	口縁部～体部 1 / 8
35	4	SK30 覆土	土師器 甕	(23.6)	—	[7.2]	やや密	良好	にぶい 橙色	崩れたコ字状口縁甕。外面：口縁部～頸部ヨコナデ・コビナデ、胴上部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴上部ナデ。	口縁部～胴上部 1 / 5
35	5	SK30 覆土	土師器 鉢	(16.2)	—	[6.8]	やや密	良好	にぶい 橙色	外面：口縁部ヨコナデ、体部横位ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	1 / 5
35	6	SK30 覆土	土師器 環	(11.7)	丸底	3.2	やや粗	良好	橙色	口縁部が内湾する。外面：口縁部ヨコナデ、体上部横位ヘラナデ、体下部～底部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～体上部ヨコナデ、体下部～底部ナデ。	1 / 3
35	7	SK30 覆土	土師器 環	(12.1)	—	[3.1]	密	良好	にぶい 橙色	外面：口縁部ヨコナデ、体上部ナデ、体下部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ。	口縁部～体部 1 / 5
35	8	SK30 覆土	土師器 環	(12.7)	—	[2.9]	密	良好	にぶい 橙色	口唇部がわずかに内湾する。外面：口縁部ヨコナデ、体上部ナデ、体下部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ナデ。	口縁部～体部 1 / 5
35	9	SK30 覆土	土師器 環	(13.9)	—	[3.2]	やや密	良好	にぶい 橙色	外面：口縁部ヨコナデ、体部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ。	口縁部～体部 1 / 8
35	10	SK30 覆土	土師器 環	(16.6)	—	[3.4]	密	良好	橙色	口縁部が内湾する。外面：口縁部ヨコナデ、体上部ナデ、体下部ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ。	口縁部～体部 1 / 8
35	11	SK30 覆土	須恵器 甕	(18.0)	—	[2.8]	密	還元燻 焼成	灰色	口唇部は、断面三角形形状を呈する。外面：口縁部～頸部ロクロナデ。内面：口縁部～頸部ロクロナデ。	口縁部～頸部 1 / 8
35	12	SK30 覆土	須恵器 壺	(12.5)	—	[1.6]	密	酸化燻 焼成	灰色	外面：口縁部～頸部ロクロナデ。内面：口縁部～頸部ロクロナデ。	口縁部～頸部 1 / 5
35	13	SK30 覆土	須恵器 環	(14.0)	(9.0)	3.1	密	還元燻 焼成	灰色	外面：口縁部～体部ロクロナデ、底部ヘラケズリ。内面：口縁部～底部ロクロナデ。	1 / 4
35	14	SK30 覆土	須恵器 環	—	(7.8)	[2.4]	密	還元燻 焼成	明褐 灰色	外面：体部ロクロナデ、底部回転系切り後外縁～体下部回転ヘラケズリ。内面：体下部～底部ロクロナデ。	体下部～底部 1 / 4
35	15	SK30 覆土	須恵器 高台環	—	(8.0)	[5.1]	密	還元燻 焼成	灰色	外面：体部ロクロナデ、底部回転系切り後高台貼付、高台部ナデ。内面：体部～底部ロクロナデ、高台貼付後高台部ナデ。	体上部～高台部 1 / 2
35	16	SK30 覆土	須恵器 高台環	—	6.4	[2.1]	密	還元燻 焼成	灰白色	外面：体部ロクロナデ、底部回転系切り後高台貼付、高台部回転ナデ。内面：体部～底部ナデ、高台貼付後高台部ナデ。	底部～高台部 完存
35	17	SK30 覆土	須恵器 蓋	3.3	—	[1.5]	密	還元燻 焼成	灰色	外面：ロクロナデ。内面：ロクロナデ。	つまみ部 ほぼ完形

挿図	番号	出土位置	種別・器種	法量 (cm)			胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	遺存状況
				口径	底径	器高					
35 図	18	SK30 覆土	須恵器 蓋	—	(16.0)	[3.1]	密	還元焰 焼成	灰白色	裾端部を折り曲げ、「かえり」とする。外面：体部～裾部ロクロナデ。内面：体部～裾部ロクロナデ。	体部～裾部 1 / 5
35 図	19	SK30 覆土	須恵器 甕	—	—	[8.8]	密	還元焰 焼成	灰色	外面：平行タタキメ。内面：横位ヘラナデ・ナデ。	胴部破片
35 図	21	SK31 覆土	土師器 坏	(14.8)	—	[4.5]	密	良	にぶい 黄橙色	外面：口縁部ヨコナデ・横位ヘラナデ、体部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ。	口縁部～体部 1 / 3
35 図	22	SK32 覆土	須恵器 坏	—	(9.0)	[1.5]	密	還元焰 焼成	灰色	外面：体部ロクロナデ、底部切り離し後ヘラナデ。内面：体部～底部ロクロナデ。	体下部～底部 1 / 5
35 図	23	SK32 覆土	須恵器 甕	—	—	[5.6]	密	還元焰 焼成	灰色	外面：平行タタキメ後ナデ。内面：同心円状当て具痕後ナデ。	胴部破片
35 図	24	SK33 覆土	土師器 甕	—	3.8	[6.2]	密	良好	にぶい 橙色	外面：胴下部斜位ヘラケズリ、底部ヘラケズリ。内面：胴下部横位ヘラナデ、底部ナデ。	胴下部～底部 1 / 2
35 図	25	SK33 覆土	須恵器 甕	—	(12.4)	[7.1]	やや密	酸化焰 焼成	灰色	底部が筒抜けの形態。外面：胴下部縦位・斜位ヘラナデ、底部横位ヘラケズリ。内面：胴下部横位ヘラナデ、くぼみは糞の子などを支えるための棒を置くものか、底部横位ヘラケズリ。	胴下部～底部 1 / 4
35 図	26	SK33 覆土	須恵器 坏	(14.8)	—	[4.0]	密	還元焰 焼成	灰白色	外面：口縁部～体部ロクロナデ。内面：口縁部～体部ロクロナデ。	口縁部～体下部 1 / 5
35 図	27	SK33 覆土	須恵器 坏	—	(9.0)	[1.4]	密	還元焰 焼成	灰色	外面：体下部ロクロナデ、底部回転系切り。内面：体下部～底部ロクロナデ。	体下部～底部 1 / 4
35 図	28	SK33 覆土	須恵器 皿	13.7	6.2	3.2	密	酸化焰 焼成	灰白色	外面：口縁部～体部ロクロナデ、底部回転系切り後高台貼付、高台部回転ナデ、高台端部面取り。内面：口縁部～底部ロクロナデ、高台貼付後高台部ナデ。	ほぼ完形
35 図	29	SK33 底面	須恵器 高台鉢	23.8	11.1	10.8	密	還元焰 焼成	灰白色	外面：口縁部～体部ロクロナデ、底部回転系切り後高台部貼付、高台部回転ナデ。内面：口縁部～底部ロクロナデ、高台貼付後高台部回転ナデ。	ほぼ完形
35 図	30	SK34 覆土	土師器 甕	—	(4.8)	[1.7]	密	良好	にぶい 橙色	外面：胴下部斜位・横位ヘラケズリ、底部ヘラケズリ。内面：胴下部横位ヘラナデ、底部ナデ。	底部 1 / 4
35 図	31	SK34 覆土	土師器 坏	(11.8)	—	[2.7]	密	良好	褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体上部ナデ、体下部横位ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	口縁部～体下部 1 / 8
35 図	32	SK34 覆土	土師器 坏	(11.3)	—	[3.4]	密	良好	にぶい 褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体上部ナデ、体下部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ。	口縁部～体部 1 / 8
35 図	33	SK34 覆土	須恵器 坏	(14.4)	—	[2.6]	密	還元焰 焼成	灰白色	外面：口縁部～体部ロクロナデ。内面：口縁部～体部ロクロナデ。	口縁部～体部 1 / 6
35 図	34	SK34 覆土	須恵器 高台坏	—	—	[1.6]	密	酸化焰 焼成	橙色	外面：体下部ロクロナデ、底部切り離し後高台貼付。内面：体下部～底部ナデ・黒色処理。	体下部～底部 1 / 3
35 図	35	SK37 覆土	須恵器 甕	—	—	[6.3]	密	還元焰 焼成	灰色	外面：平行タタキメ。内面：横位ヘラナデ・ナデ。	胴部破片
37 図	1	SK42 覆土	土師器 甕	—	(7.6)	[2.9]	やや粗	良好	灰褐色	外面：胴下部斜位ヘラケズリ、底部ヘラケズリ。内面：胴下部斜位ヘラナデ、底部ナデ。	胴下部～底部 1 / 3
37 図	2	SK42 覆土	土師器 坏	13.8	丸底	3.9	密	良好	にぶい 橙色	口唇部が内湾する。外面：口縁部ヨコナデ、体上部斜位ヘラナデ、体下部～底部横位ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	3 / 4
37 図	3	SK43 覆土	土師器 甕	—	(5.0)	[2.4]	密	良好	褐色	外面：胴下部斜位ヘラケズリ、底部ヘラケズリ。内面：胴下部～底部横位ヘラナデ。	胴下部～底部 1 / 4
37 図	4	SK43 覆土	土師器 坏	(11.7)	(8.0)	[3.8]	密	良好	にぶい 橙色	外面：口縁部ヨコナデ、体上部ナデ、体下部～底部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ。底部ナデ。	口縁部～底部 1 / 5
37 図	5	SK43 覆土	須恵器 壺	—	(9.5)	[3.6]	密	還元焰 焼成	灰色	外面：体下部ロクロナデ、底部回転系切り後高台貼付、高台部ナデ、高台端部面取り。内面：体下部～底部ロクロナデ、高台貼付後高台部ナデ。	体下部～底部 ほぼ完形 高台部 1 / 3
37 図	6	SK44 覆土	須恵器 小型壺	—	(6.8)	[3.8]	密	還元焰 焼成	灰色	外面：胴中部回転ヘラナデ・ナデ、胴下部横位ヘラナデ、底部ヘラナデ。内面：胴部～底部ロクロナデ。	胴部～底部 1 / 6
37 図	7	SK56 覆土	土師器 小型台付甕	(11.0)	—	[13.3]	やや密	良好	にぶい 橙色	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部斜位ヘラケズリ、接合部～台部ヨコナデ。内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ナデ。台部ヨコナデ。	口縁部～台上部 1 / 2
37 図	8	SK56 覆土	須恵器 坏	(12.4)	—	[3.3]	密	酸化焰 焼成	にぶい 黄橙色	外面：口縁部～体上部ロクロナデ。内面：口縁部～体上部ロクロナデ。	口縁部～体下部 1 / 5
37 図	9	SK58 覆土	土師器 甕	(23.0)	—	[7.3]	密	良好	明赤 褐色	崩れたコ字状口縁。外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴上部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴上部横位ヘラナデ。	口縁部～胴上部 1 / 5
37 図	10	SK59 覆土	土師器 甕	(22.7)	—	[7.3]	やや密	良好	橙色	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴上部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴上部斜位ヘラナデ。	口縁部～胴上部 1 / 8
37 図	11	SK59 覆土	土師器 甕	—	(8.6)	[3.3]	密	良好	橙色	底部が筒抜けの形態。外面：胴下部斜位ヘラケズリ、底端部横位ヘラケズリ。内面：胴下部横位ヘラナデ、底端部横位ヘラケズリ。	底部 1 / 8
37 図	12	SK59 覆土	土師器 坏	13.0	丸底	3.7	やや密	良好	褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体上部ナデ・指頭圧痕、体下部～底部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ・指頭圧痕、底部ナデ。	4 / 5
37 図	13	SK59 覆土	土師器 坏	(13.3)	丸底	3.5	密	良好	褐色	口縁部が内湾する。外面：口縁部ヨコナデ、体部横位ヘラナデ、底部横位ヘラケズリ。内面：口縁部はわずかに玉縁状を呈する。口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	1 / 2
37 図	14	SK59 覆土	土師器 坏	(13.8)	丸底	3.6	密	良好	にぶい 褐色	口縁部がわずかに外反する。外面：口縁部ヨコナデ、体上部横位ナデ、体下部～底部横位ヘラケズリ。内面：口縁部～体上部ヨコナデ、体下部～底部ナデ。	1 / 4
37 図	15	SK59 覆土	須恵器 甕	—	—	[8.5]	密	還元焰 焼成	灰白色	外面：胴中部ロクロナデ、胴下部回転ヘラケズリ。内面：胴中部～胴下部ロクロナデ。	胴部破片
37 図	16	SK59 覆土	須恵器 坏	(16.4)	—	[3.0]	密	還元焰 焼成	灰色	外面：口縁部～体部ロクロナデ。内面：口縁部～体部ロクロナデ。	口縁部～体部 1 / 8
37 図	18	SK60 覆土	土師器 甕	(19.5)	—	[4.3]	やや密	良好	にぶい 褐色	外面：口縁部ヨコナデ、頸部横位ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナデ、頸部横位ヘラナデ。	口縁部～頸部 1 / 8
37 図	19	SK60 覆土	土師器 坏	(11.7)	(8.9)	[3.0]	密	良好	にぶい 褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体上部斜位ヘラナデ、体下部ヘラケズリか。内面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	口縁部～体下部 1 / 8
37 図	20	SK62 覆土	土師器 坏	(13.7)	—	[3.8]	密	良好	褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体上部コビナデ、体下部横位ヘラケズリ。内面：口縁部端部がわずかに玉縁状を呈する。口縁部～体上部ヨコナデ、体下部ナデ。	口縁部～体下部 1 / 8
37 図	21	SK62 覆土	須恵器 坏	—	6.8	[1.2]	密	還元焰 焼成	暗灰色	外面：体下部ロクロナデ、底部回転系切り後外縁部回転ヘラナデ。内面：体下部～底部ロクロナデ。	体下部～底部 ほぼ完形

(): 推定 [] : 遺存

挿図	番号	出土位置	種別・器種	法量 (cm)			胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	遺存状況
				口径	底径	器高					
41 図	3	P24 覆土	土師器 環	(11.5)	丸底	[3.0]	密	良好	にぶい 橙色	外面:口縁部ヨコナデ、体上部ナデ、体下部～底部横位・斜位ヘラケズリ。内面:口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	口縁部～底部 1/5
41 図	4	P38 覆土	土師器 環	(20.6)	—	[5.6]	密	良好	にぶい 橙色	コ字状口縁襷。外面:口縁部ヨコナデ・指頭圧痕、頸部ナデ・ヨコナデ、胴上部横位ヘラケズリ。内面:口縁部～頸部ヨコナデ・指頭圧痕、胴上部横位ヘラナデ。	口縁部～胴上部 1/5
41 図	5	P42 覆土	土師器 環	(12.5)	8.3	3.7	密	良	にぶい 黄橙色	外面:口縁部ヨコナデ、体部斜位・横位ヘラナデ、底部横位ヘラケズリ。内面:口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	3/4
42 図	1	遺構外	土師器 甕	—	6.8	[5.0]	やや密	良好	にぶい 黄橙色	外面:胴下部斜位ヘラケズリ、底部ヘラケズリ。内面:胴下部横位ヘラナデ、底部横位(円形)ヘラナデ。	体下部～底部 完存
42 図	2	遺構外	土師器 環	(12.6)	—	[3.5]	密	良好	橙色	外面:口縁部ヨコナデ、体上部ナデ、体下部～底部横位・斜位ヘラケズリ。内面:口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	1/5
42 図	3	遺構外	土師器 環	(12.8)	—	[2.8]	密	良好	橙色	外面:口縁部ヨコナデ、体上部横位ヘラナデ、体下部～底部横位ヘラケズリ。内面:口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	口縁部～底部 1/5
42 図	4	遺構外	須恵器 壺	—	—	[6.6]	密	還元焰 焼成	褐色	外面:ロクロナデ。内面:ロクロナデ。	頸部 1/3
42 図	5	遺構外	須恵器 高台環	(12.0)	(8.0)	6.0	密	酸化焰 焼成	灰白色	外面:ロクロナデ、底部回転系切り後高台貼付、高台端面取り。内面:ロクロナデ。	口縁部～高台部 1/3
42 図	6	遺構外	須恵器 高台環	—	(9.9)	[4.3]	やや密	還元焰 焼成	褐色	外面:体下部ロクロナデ、底部回転ヘラ切り後高台貼付、高台回転ナデ。内面:体下部～底部ロクロナデ、高台貼付後底部外縁～高台回転ナデ。	体下部～高台部 1/4
42 図	7	遺構外	須恵器 高台環	(14.0)	(7.0)	[5.0]	密	酸化焰 焼成	灰白色	外面:口縁部～体部ロクロナデ、底部回転系切り後高台貼付、高台回転ナデ。内面:口縁部～底部ロクロナデ、高台貼付後高台ナデ。	口縁部～体部 1/4 底部完存
42 図	8	遺構外	須恵器 高台環	—	6.0	[1.8]	密	酸化焰 焼成	灰白色	外面:体下部ロクロナデ、底部回転系切り後高台貼付、高台回転ナデ、高台端面取り。内面:体下部～底部ロクロナデ、高台貼付後底部外縁～高台回転ナデ。	体下部～高台部 完存

第3表 出土金属製品観察表

挿図	番号	出土位置	種別	法量 (): 推定 [] : 遺存				材質	器形、成・整形等の特徴	遺存状況
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)			
12 図	8	SI 4 床面	鉄製品 鎌	[12.4] 12.7	4.1 2.5	(0.2) (0.2)	121.05	鉄	2丁が背中合わせて接着した状態。1丁は根元から刃先まで同じ幅で、刃先が「へ」字状に屈曲する。柄に対して直角に装着する。もう一丁は根元が広く刃先に向かって細くなる形状で、内側に湾曲する。柄に対して鈍角に装着する。	一部欠損 ほぼ完存
12 図	9	SI 4 床面	鉄製品 鎌	9.5	2.4	(0.2)	24.16	鉄	刃先が尖り、「へ」字状に屈曲する。根元は柄に装着するためわずかに狭い。柄に対してほぼ直角に装着する。	完形
19 図	16	SD 4 覆土	鉄製品 鎌	[5.1]	刃 2.4 茎 1.1	0.4	24.56	鉄	茎を柄に刺す形態。刃は茎から 106°の角度で開き、緩やかに弧を描く。小型であること、柄に対して刃が開いていることから馬の削蹄に使用されたものか。	刃先部欠損
19 図	17	SD 4 覆土	銅製品 銭貨	[1.9]	[2.1]	0.1	0.88	銅	北宋銭。表:皇宋通寶。裏:無銘。宋 4代皇帝仁宗在位、寶元・康定年間(1038年～1040年) 鑄造。	1/3
26 図	37	SD8 覆土	鉄製品 釘か	[5.2]	1.2	0.7	5.01	鉄	厚さ 1mm の鉄板を曲げて筒状にし、下端部を叩いて薄くとがらす。	下部完存
33 図	26	SK21 覆土	鉄製品 不明	[3.7]	0.9	0.5	3.22	鉄	上端部がわずかに屈曲する。厚さ 1mm の鉄板を曲げて筒状にしている。鉄鎌を再利用したものか。	上部完存
35 図	20	SK30 覆土	青銅製品 丸柄	2.4	3.8	1.8	18.20	青銅	蒲鉾型を呈する。内側の下辺両端及び上辺中央の3か所に突起を有する。下部に縦 4mm 横 25mm の長方形の透孔を開ける。	ほぼ完存
41 図	1	P15 覆土	鉄製品 不明	[7.1]	1.0	0.5	5.81	鉄	下端部は尖り、上端部はわずかに屈曲する。厚さ 1mm の鉄板を曲げて筒状にしたと思われる。鉄鎌を再利用したものか。	下端部欠損
41 図	2	P15 覆土	鉄製品 不明	[7.4]	1.0	0.5	5.00	鉄	下端部は尖り、上端部はわずかに屈曲する。厚さ 1mm の鉄板を曲げて筒状にしている。鉄鎌を再利用したものか。	下端部欠損

第4表 出土石製品観察表

挿図	番号	出土位置	種別	法量 (): 推定 [] : 遺存				石質	器形、成・整形等の特徴	遺存状況
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)			
12 図	10	SI 4 覆土	砥石か	[4.8]	4.5	2.4	87.9	安山岩	正面 1 面のみが平滑化しており、砥石として使用されたと考えられる。	上下端部 欠損
13 図	20	SI 6 覆土	砥石か	12.1	4.6	4.5	295.8	凝灰岩	正面 1 面のみが平滑化しており、砥石として使用されたものと考えられる。上側約 1/3 が屈曲しているが、使用により磨り減ったものと思われる。	完形
19 図	18	SD 4 覆土	石塔か	[9.5]	[13.2]	5.3	623.3	凝灰岩	中央部に孔径 1.6cm の穿孔あり。表面が割れた剥離痕が見られる。石塔の一部と考えられる。	破片
19 図	19	SD 4 覆土	板碑か	[26.8]	[17.7]	[1.4]	878.8	緑泥片岩	正面・裏面ともに細かい凹凸が見られ、刻まれた種子や文字は見られない。板碑に中心部の破片か。	破片
26 図	38	SD 8 覆土	紡錘車	4.0	4.1	1.2	19.0	凝灰岩	孔径 0.7cm。扁平な器形を呈する。	完形
26 図	39	SD 8 覆土	砥石か	10.8	4.9	3.4	277.6	安山岩	正面・裏面・両側面・下面が平滑化しており、砥石として使用されたとと思われる。	完形
33 図	9	SK 8 覆土	叩石か	[6.1]	3.5	3	88.4	流紋岩	上部の剥離は叩打痕か。	下部欠損
33 図	10	SK 8 覆土	砥石	[7.4]	3.5	3	101.4	凝灰岩	握げ砥石。正面・裏面・両側面の 4 面が砥面として使用される。4 面とも中央に向かって薄くなる。顕著な擦痕は見られない。	上部欠損
37 図	17	SK59 覆土	印か	4.9	4.0	4.1	77.4	凝灰岩	底面が 4.1cm × 4.0cm の正方形、上面が 2.0cm × 1.2cm の長方形の四角錐台の形状を呈する。上部の長軸面に両側から穿った径 6mm の穿孔を有し、上端部は欠損する。底面は摩滅又は剥離のため平滑化していて印影は認められないが、形状から印である可能性が高い。また、秤の分銅の可能性も考えられる。	上部欠損
39 図	1	SE 2 覆土	砥石か	[6.3]	[5.2]	[4.3]	171.8	凝灰岩	残存する面は全て平坦になっており、砥面として使用されていたと思われる。正面左側にある浅い筋は擦痕か。裏面は中央部が溝状に窪む。	下部欠損



調査地点遠景 南東から



調査地点全景 上が北

写真図版2



SI 1 遺物出土状況 UP 北から



SI 1 全景 西から



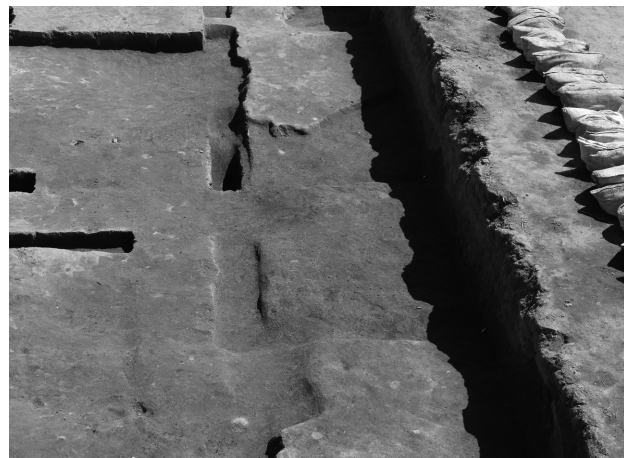
SI 2 遺物出土状況 UP 西から



SI 2 全景 西から



SI 3 遺物出土状況 南東から



SI 3 全景 西から



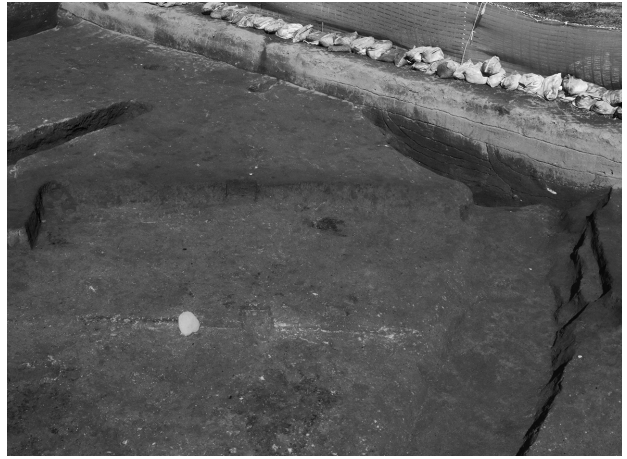
SI 4 遺物出土状況 南から



SI 4 遺物出土状況 UP 東から



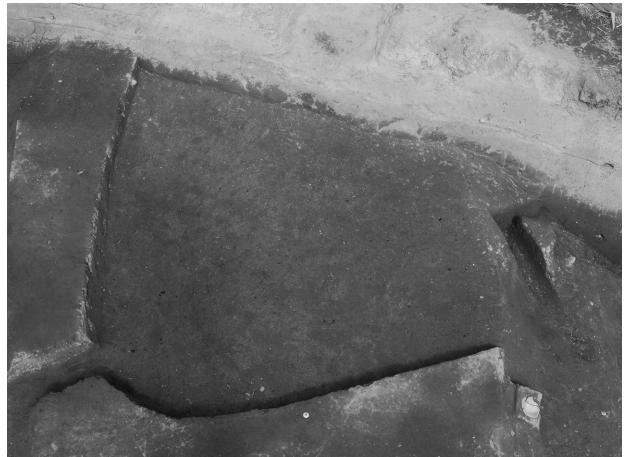
SI 4 遺物出土状況 UP 東から



SI 4 全景 南から



SI 5 遺物出土状況 南から



SI 5 全景 南から



SI 6 遺物出土状況 南東から



SI 6 遺物出土状況 UP 南東から

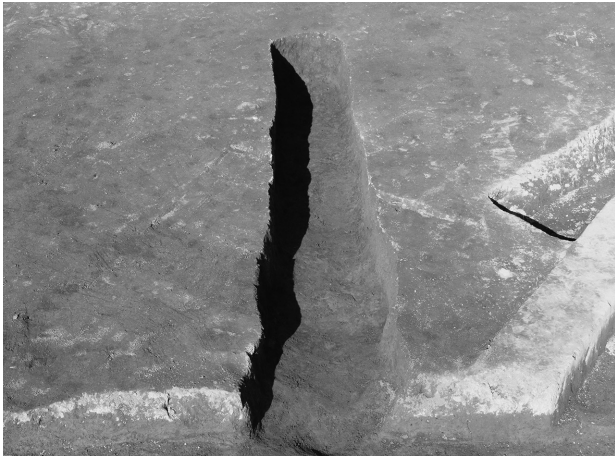


SI 7 遺物出土状況 南東から



SI 7 全景 南から

写真図版 4



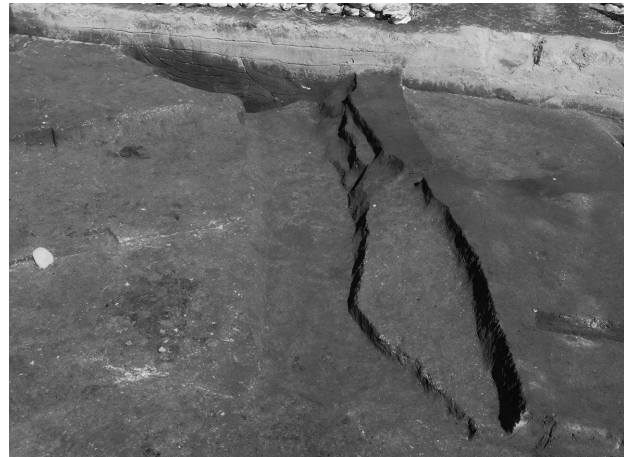
SD 1 全景 南西から



SD 2 全景 南から



SD 3 礫出土状況 南から



SD 3 全景 南から



SD 4 遺物出土状況 UP 南から



SD 4 全景 南から



SD 5、SK 4 全景 南東から



SD 6、SK 5~11・48 全景 東から



SD 7、SK40・41 全景 北から



SD 8 北部遺物出土状況 南から



SD 8B 北遺物出土状況 UP 南から



SD 8 南部、SK59 遺物出土状況 北から



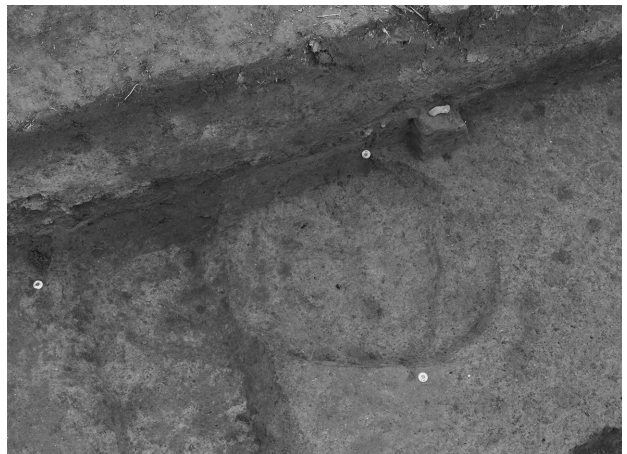
SD 8A 南部遺物出土状況 UP 北から



SD 8、SK59・60・62 全景 南から



SK 1 全景 東から



SK 2 全景 北から

写真図版 6



SK 3 馬骨出土状況 北から



SK 3 馬骨出土状況 UP 西から



SK 3 全景 北から



SK 8 全景 北から



SK 9~18・61 全景 南から



SK 19・36 全景 北から



SK 22~32 遺物出土状況 南から



SK 30 遺物出土状況 UP 南から



SK30 遺物出土状況 UP 南から



SK33 遺物出土状況 UP 北東から



SK33・34・37・47 全景 南から



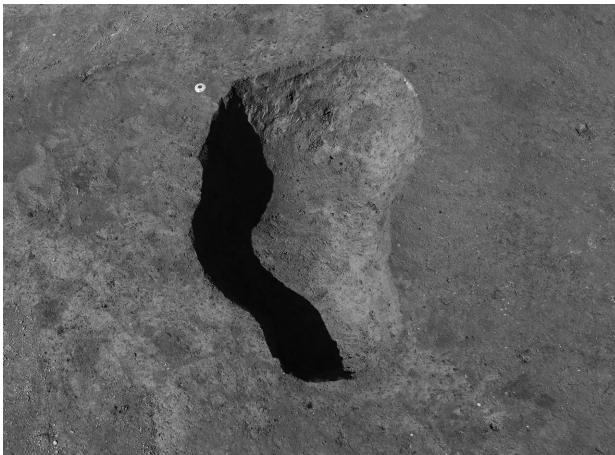
SK38・39・44・45 全景 西から



SK42 遺物出土状況 北から



SK43 全景 南から



SK46 全景 東から

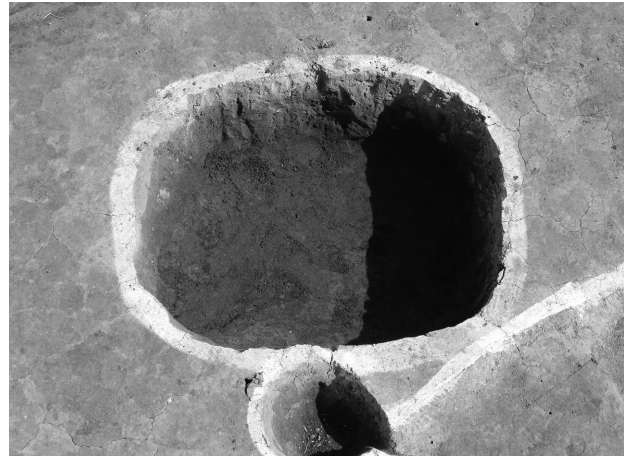


SK20・21・35・48~50 全景 南から

写真図版 8



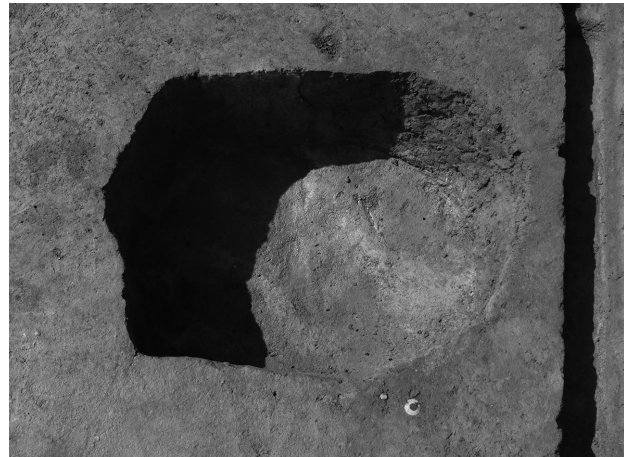
SK51・52 全景 東から



SK53 全景 南西から



SK54 全景 南西から



SK55 全景 東から



SK56 遺物出土状況 東から



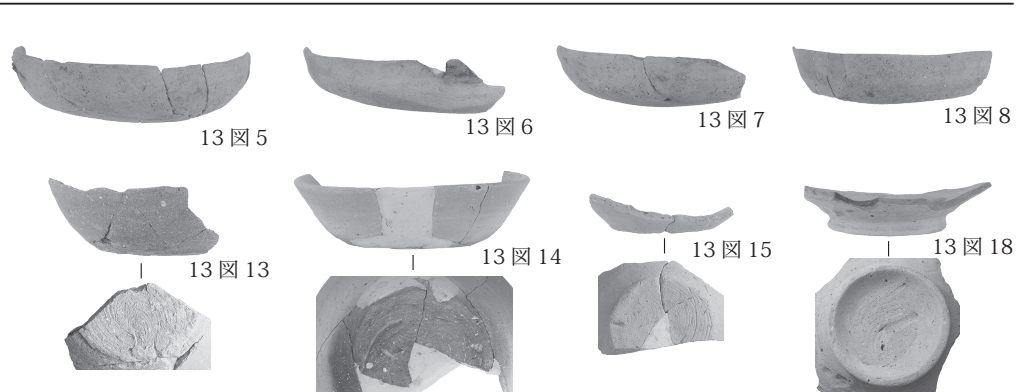
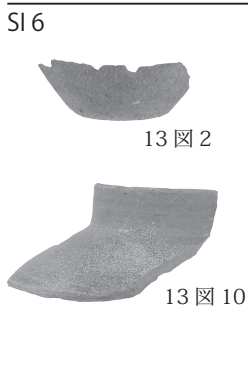
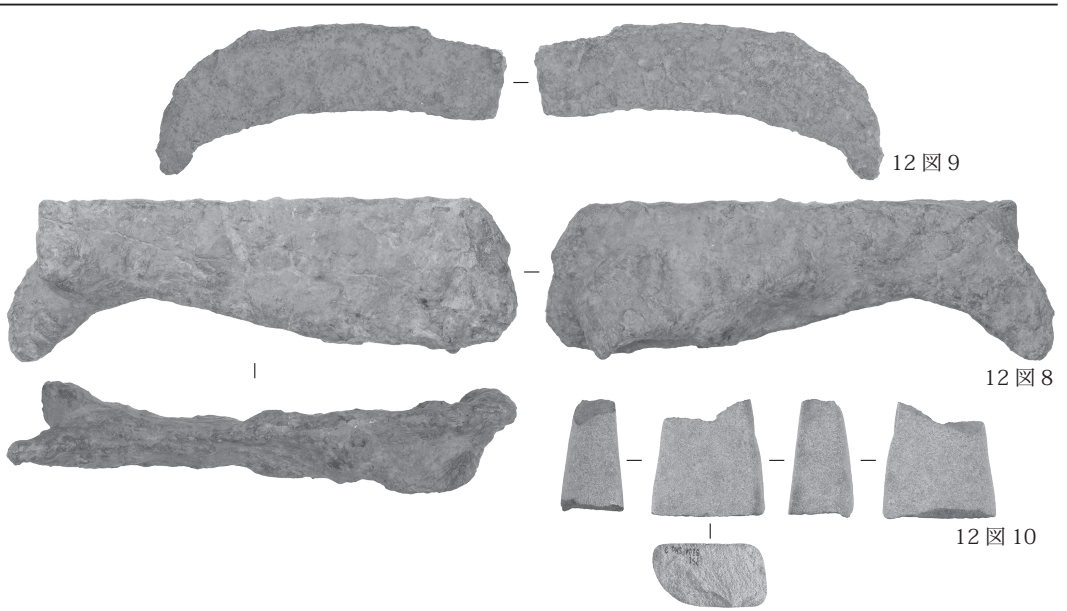
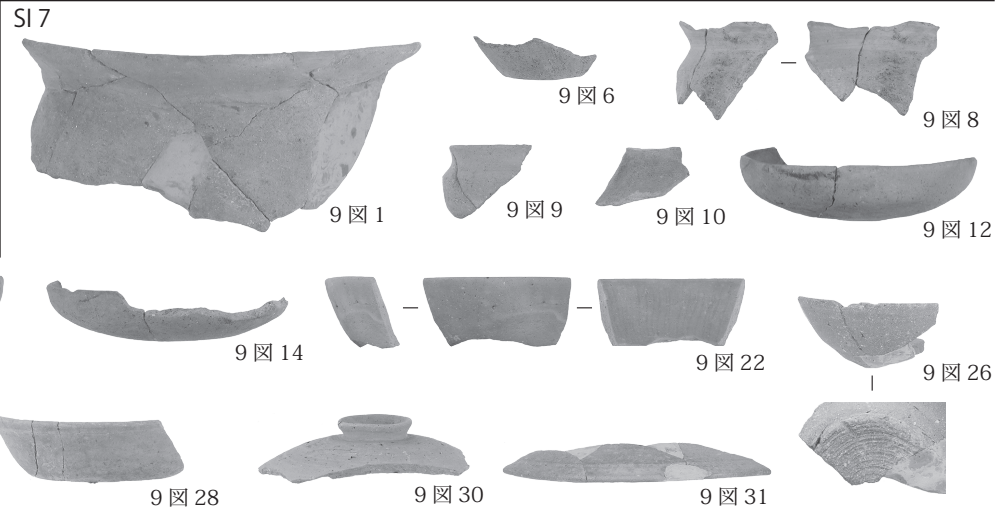
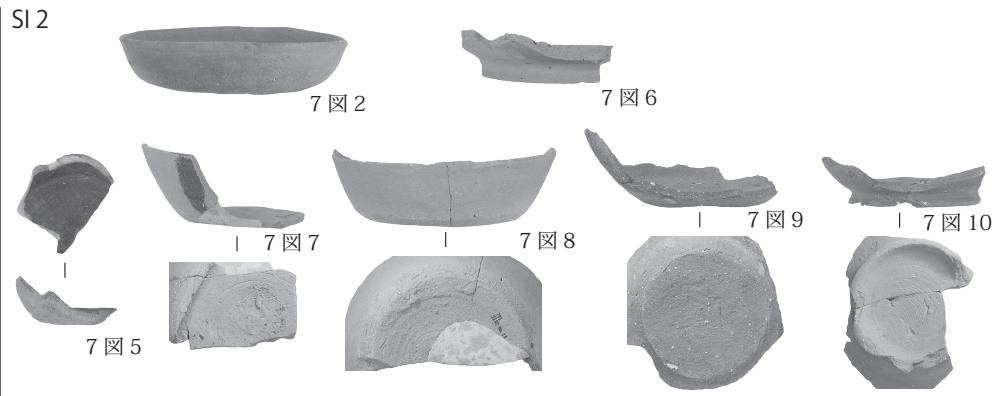
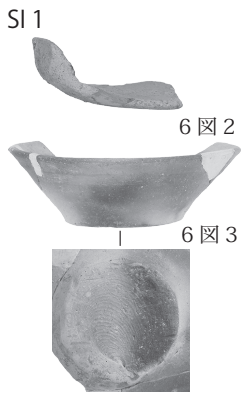
SK57・58 全景 東から



SE1、SD3、P4 全景 南から

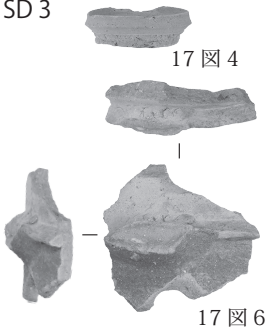


SE2 全景 西から



写真图版 10

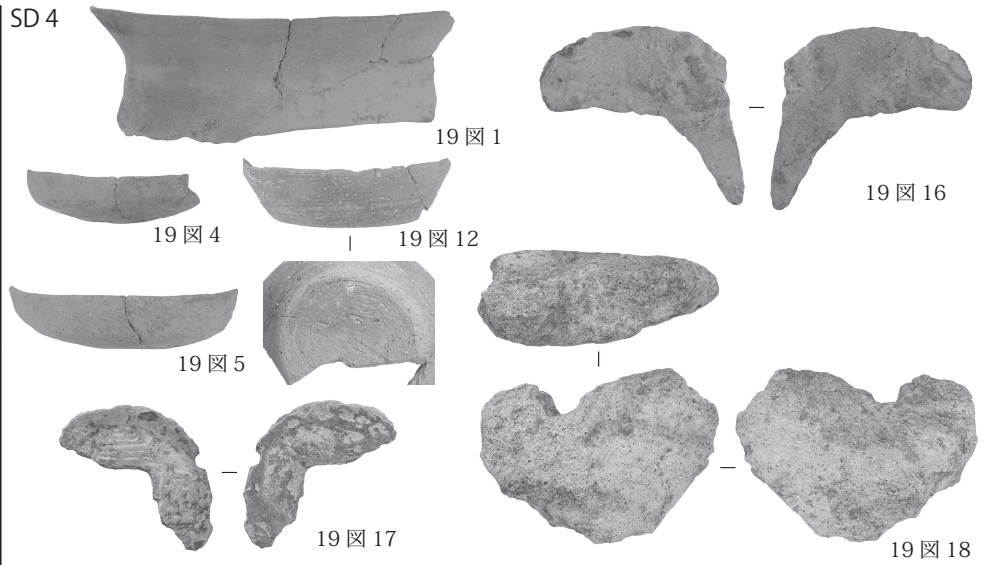
SD 3



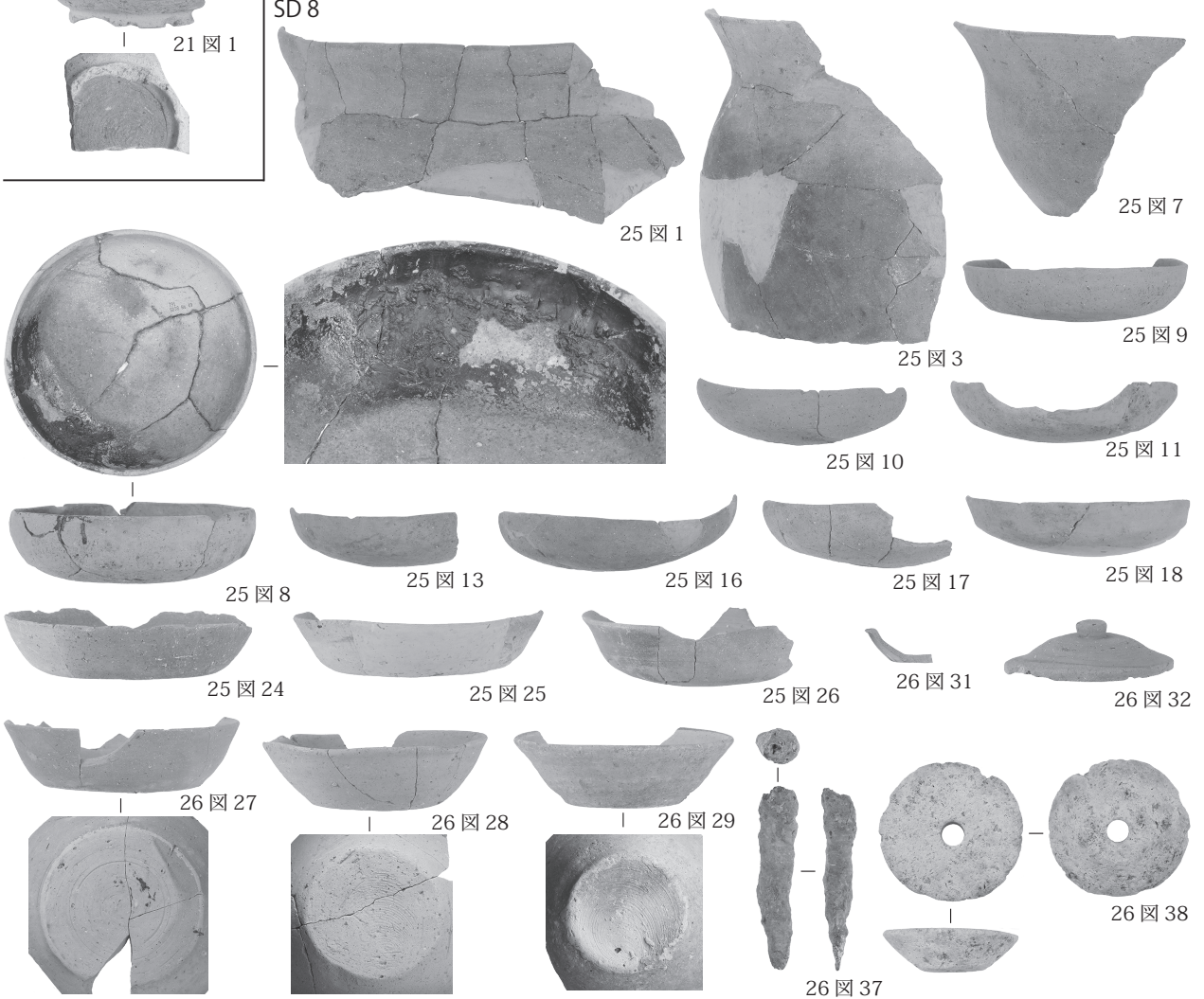
SD 5



SD 4



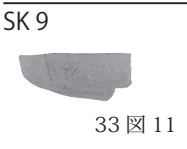
SD 8



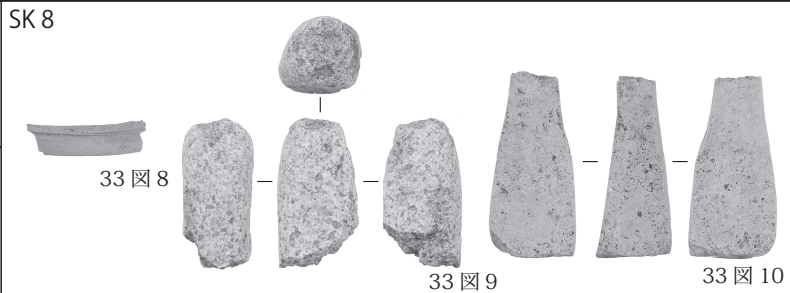
SK 3



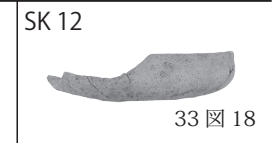
SK 9



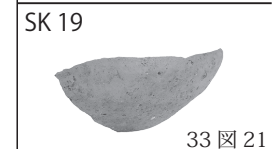
SK 8



SK 12



SK 19



SK 20



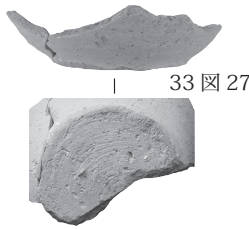
33 図 23

SK 21



33 図 26

SK 22



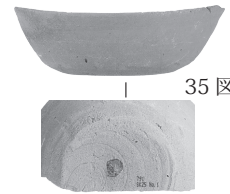
33 図 27

SK 23



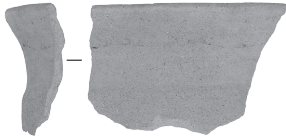
33 図 28

SK 25



35 図 1

SK 30



35 図 4



35 図 6



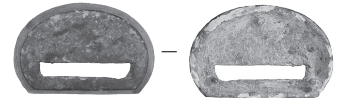
35 図 12



35 図 13



35 図 15



35 図 20

SK 31



35 図 21

SK 33



35 図 24



35 図 28

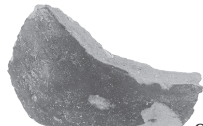


35 図 29

SK 42



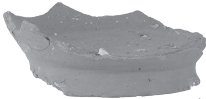
37 図 2



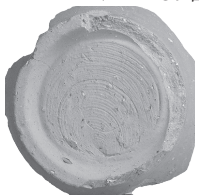
35 図 25



SK 43



37 図 5



SK 59



37 図 12



37 図 13



37 図 14

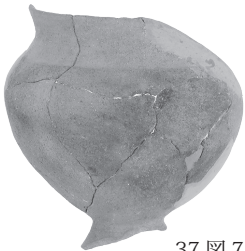


SK 44

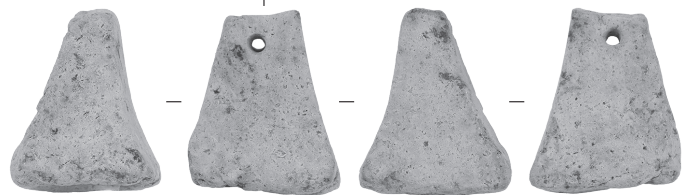


37 図 6

SK 56



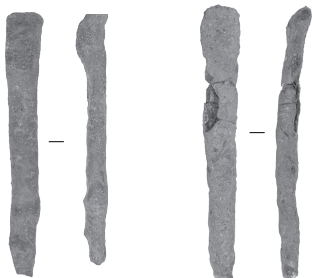
37 図 7



37 図 17



P 15



41 図 1

41 図 2

P 24



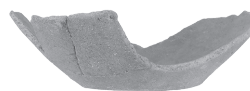
41 図 3

P 42



41 図 5

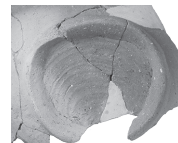
遺構外



42 図 1



42 図 7



報告書抄録

ふりがな	かみたきしんぼりきたいせき
書名	上滝新堀北遺跡
副書名	認定こども園建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第454集
編著者名	高林 真人
編集機関	株式会社 測研
所在地	〒370-3517 群馬県高崎市引間町712-2
発行年月日	令和2年8月21日

ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯 (世界測地系)	東経 (世界測地系)	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡 番号					
かみ たき しん ぼり きた い せき 上 滝 新 堀 北 遺 跡	群馬県高崎市 上滝町617番地1、 617番地2	102024	791	36° 19' 30"	139° 04' 26"	20200127 ～ 20200331	380	認定こども園建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上滝新堀北遺跡	集落跡	平安時代	竪穴建物跡 7軒 溝跡 9条 土坑 62基 井戸跡 2基 ピット 55基	土師器・須恵器・金属 製品・石製品	土坑から青銅製丸軋、石製印、馬骨が出土し、溝跡から漆の付着した土師器坏が出土した。
要約	<p>今回の発掘調査では、平安時代の竪穴建物跡7軒、溝跡9条、土坑62基、井戸跡2基、ピット55基が確認された。調査区のほぼ中央を南北方向に走る大溝があり、全ての竪穴建物跡が溝跡の西側に、大半の土坑・ピットが溝跡の東側に分布している。このことから、大溝によって居住域が区画されていると考えられる。西側の居住域であったところに馬の埋葬土坑が造られたことが確認されたことから、建物跡が移動したと考えられる。</p> <p>特徴的な出土遺物は、土坑から出土した青銅製丸軋と印と思われる石製品がある。これらの役人が使用するものが出土していることから、役人の活動範囲であったと考えられる。また、溝跡から漆の付着した土師器坏が出土したことから、周辺地域に漆を扱う工房があったと考えられる。</p>				

高崎市文化財調査報告書第454集

上滝新堀北遺跡

—認定こども園建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2020年8月14日 印刷

2020年8月21日 発行

発行 磯部 光 男

高崎市教育委員会

株式会社 測研

印刷 上毎印刷工業株式会社